



素人寫真術

完

バルトン大學教授 序文
有藤金太郎 纂譯



淺沼商店發兌

本書はホトグラフィック、タイムズ新報記者として有名なるダブリュー、アイ、リン、コルン、アダムス氏が初學者の指南針として著したる素人寫眞術と稱する書に基きたるものなり此書は米國出版の寫眞術書中最も汎く世に行はるゝものなれば單に之を翻譯するも有益たるや疑なし況して有藤氏は多年の經驗に依り更に増補して之に多少の變更をなせり蓋し一國に於て出版せる寫眞術書を翻譯して之を氣候等の異なる國に行ふには自ら相當の變更を要するは勿論にして有藤氏は既に之を爲す予は信す此書は已に邦語にて刊行

序

せられたる寫眞術書中有用なる増加をなしたるを
千八百九十三年七月廿五日

東京帝國大學工科分科に於て

ダブルユー、ケー、バルトン

素人寫眞術

目次

第一章	寫眞術の歴史	一頁
第二章	用具	五頁
第三章	野外撮影	八頁
第四章	暗室	十五頁
第五章	印畫法	二十頁
第六章	肖像撮影	二十五頁
目次		一

第七章	瞬間撮影	三十頁
第八章	閃光撮影	三十三頁
第九章	正色寫真	三十六頁
第十章	引延印畫	四十頁

素人寫真術

第一章 寫真術の歴史



有藤金太郎纂譯



寫真術は十九世紀の産兒にして蒸氣機關電信機と兄弟をなし共に此世紀に於ける
 著明なる三大發明といふ寫真術の始原既に十九世紀以前にありたれども實際寫真術
 の歴史上に其原を唱ふるは西曆一千八百三十九年八月十日佛人ダグエール氏が其
 りとす
 注意を惹きダグエール氏が光線作用に由り撮りたる美麗な
 學はんと欲して巴里に集合したるもの頗る衆し佛國政府は
 世界に公示せしめんか爲め氏に生涯中年金六千フランク(殆
 んと一千二百弗)を與ふることゝなしたり因て此新法をダグエールタイプと稱す爾
 來此印畫の製造事業は啻に佛國中のみならず歐洲諸國より米國に入りて盛に行は
 れたり幾もなくして英國に於てはホックス、タルボット氏、スコット、アーチャー氏及



像肖氏ルイエグダ

博士マドック氏米國に於ては大學教授ド
ラパー氏及モールス氏并にヒラデルヒヤ
に居住せる獨乙人ランゼーム氏等輩出し
て大ひに之か改良を加へ増々進歩を興え
たり
ダグエールタイプは近世の寫眞に較ぶれ
は全く異なりて銅板面に撮影したるもの
にして或方向より之を見るときは鮮明な
る能はず且つ寫度は三十分間の永きを要

するを以て撮影さるゝ者は半時間暗室の
前面に居らざるを得ず加ふるに只一枚の
畫像を得るのみにして今日の硝子板の如く
望みに從ひ幾板をも其板より得ること
能はざるを以て如何に其手續を迅速に行
ふとも幾枚の寫眞を得るには多少の時間
を費さざる可からず然るに今日に於ては
一秒時間に能く撮影を爲し且つ幾板かの
畫を只一枚の硝子板即種板より印畫する
を得加ふるに實際の色合ならざるも能く
自然のまゝを撮影して印畫面に其陰影の
濃淡を識別することを得又后章に述ぶる



像肖氏スプリー

が如く人造光線を用ふれば夜中と雖も充分
撮影することを得るなり
斯る驚くべき技術の多くは過ぐる十數年
間に完成されたるものにして今尙駿々と
して進歩しつゝあるなり然れども茲に
輒近に於ける寫眞術の記載を爲すに先
たち
斯の如き進歩を導きたる工夫及發明に
就きてダグエール氏以前に於ける事實
を述
へんとす

佛人ジョセフ子セポーニープス氏も亦
始めて寫眞術を發明したる人なり氏の爲
したる結果はダグエール氏の發明したる
ものよりも不完全なりしを以て世に聞
えずと雖ダグエール氏が其發明を完
ふし
たるは實に氏の助けを得たるに由れり
故
に少くとも其一半の功は之を氏に歸せ
さ
るを得ざるなり又氏の最初に爲したる
實
檢は實に石版術及今日の著書印刷に用
ふ
るが如き印刷術の嚆矢なり千八百二十九

年氏はダ氏と協同して共に千辛萬苦の試験を繼續したり氏の死後は其息子アイ、シドーア、ニープス氏之を繼きたりしが能く父の才能を稟けて其道に盡せり故に佛國政府はダ氏に六千フランクの年金を給したるときに當り氏にも其繼續工夫の勞に酬ゆるか爲め四千フランク(殆んど八百弗)の年金を給せり

十六世紀の中葉に當り伊國人バプチスタ、ポータ氏始めて暗箱を發明したり蓋氏の發明せし當時にありてはまだ寫眞術の開けざりしを以て之を用ふる所なく只景色若しくは建物等の畫像を映せしむるに止り單に暗室の一侧に一小孔を穿ち之より光線を透過せしむるの裝置にして室外の物体より反射し來る光線は此孔を通過し室内の後壁に自然の色彩を負ふる畫像を映せしむるなり然れども今日用ふる所の寫眞暗箱の如く畫像充分鮮明なること能はざりき其後氏は其孔に鏡玉を嵌め而して物体より反射し來たる光線を通過せしめたるが故に其後壁に映する畫像著しく鮮明となるに至れり是即現今用ふるところの暗箱の裝置なり

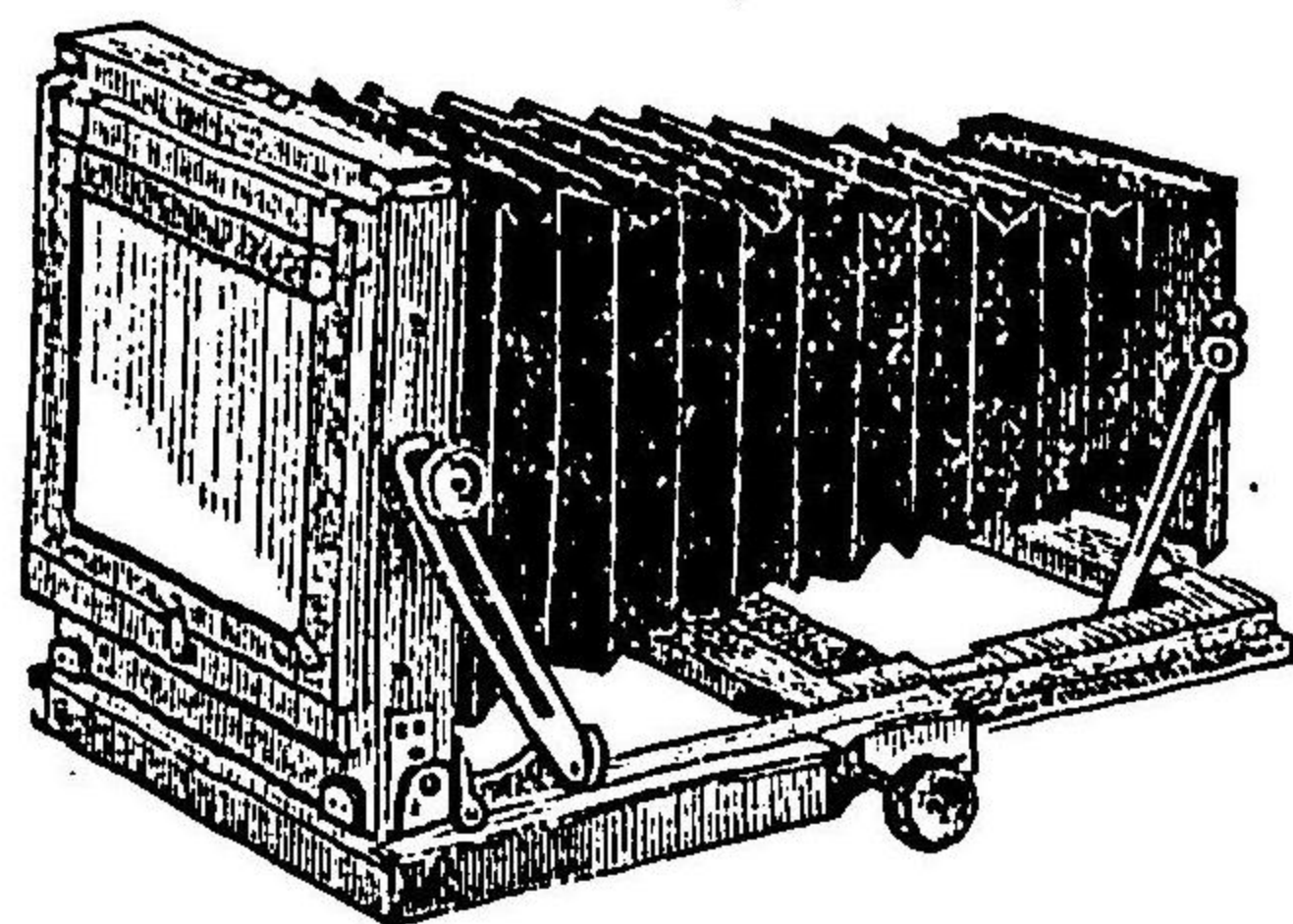
今日の寫眞用暗箱は此暗室を最も簡約なる小形にし其一侧に鏡玉を他の一侧に地硝子板を嵌めたるに過ぎず即次章に述ふるが如く其構造極めて完全と成れり

第二章 用具

寫眞術中第一の必要品は暗箱なり暗箱は別に複雑なる裝置若しくは精巧を盡したるか爲め隨て價高きものを要せず完く光線の透入を防ぐことを得は其用を辨し得るを以て成るべく簡單なるものを良しとす換言すれば一侧に細孔を穿ちたる暗室の如き簡畧なる仕組にて暗箱の代用を爲し得るなり

今この暗室を小形のものとなして運搬に便にし且つ撮影せんと欲する所の物体より來たる光線を透入せしむる爲め鏡玉を細孔に備へて箱の反對側面にある硝子板上に其像影を印せしむる仕組は當今の寫眞暗箱の摸型にして如何なる寫眞にても皆是より作らるゝなり

普通に用ふる所の暗箱は豎四吋四分の一横三吋四分の一若しくは豎六吋二分の一横四吋四分の一の寫眞を作るに適するものなり即ち左圖に示すところの暗箱は通常一般に用ふるところの雛形にして頗る簡便に且つ堅牢なるものなり之を見れば以て他種の暗箱に備はれる種々の緊要なる部分の用方を容易に知ることを得へし

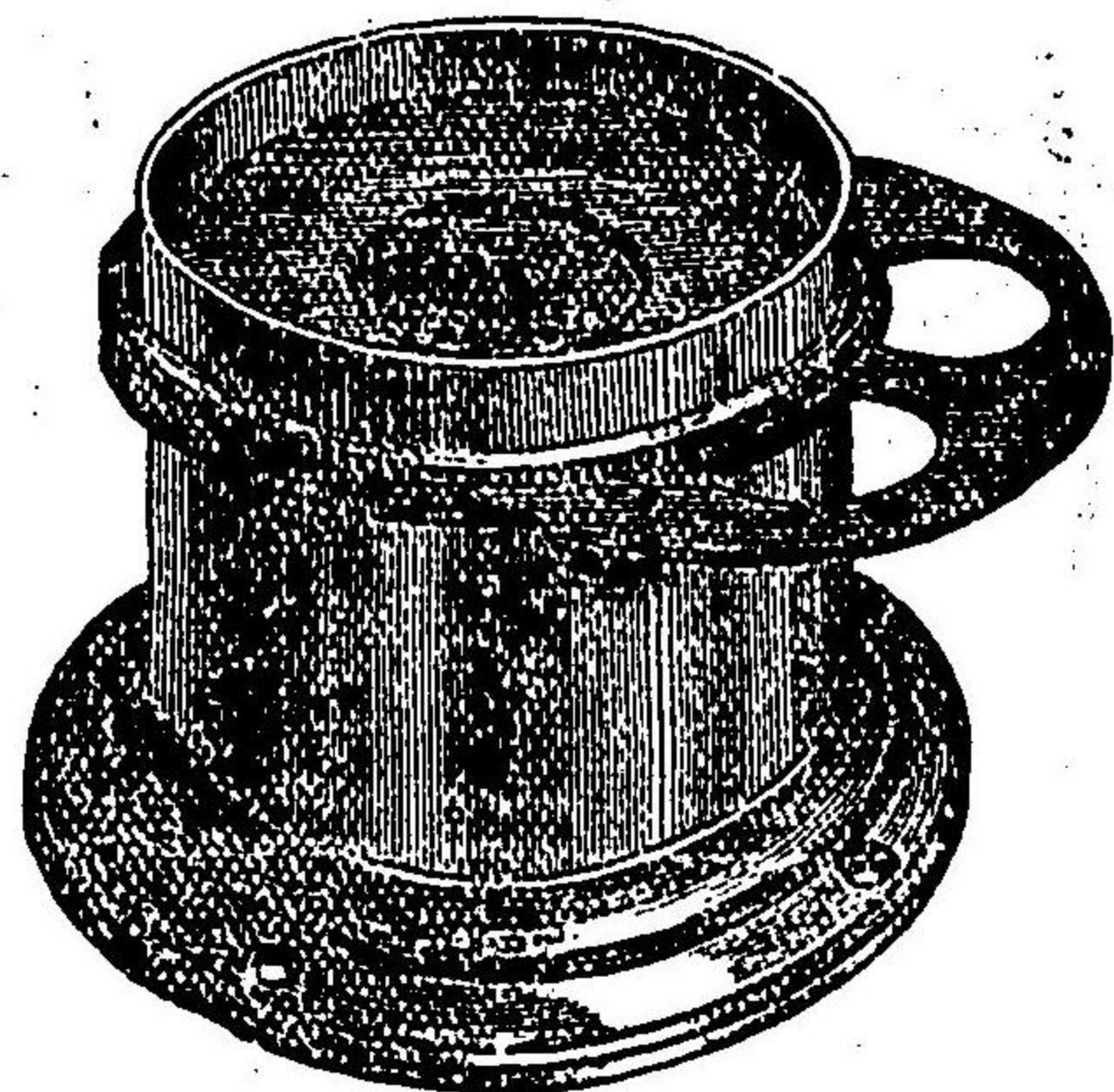


暗箱

暗箱は輕便にして堅固なるを良とす而して暗箱の后部にある地硝子は被寫体の如何に由りて之を嵌め更へ豎位置或は横位置と爲すを得又鏡玉を嵌めたる前面の板は上下に動すことを得るを以て空或は前景の如きは此板を上下して以て加減することを得るなりあをりば暗箱の后邊地硝子のある部分のみを前後に傾斜し得る仕掛にして高壯なる建築物若くは最近なる地盤を撮影するに當り暗箱を傾くるも其后部のみは鉛直を保ちて被寫体の鉛直平行線をして例れかゝりたるか如くに見ゆるを正すものなり

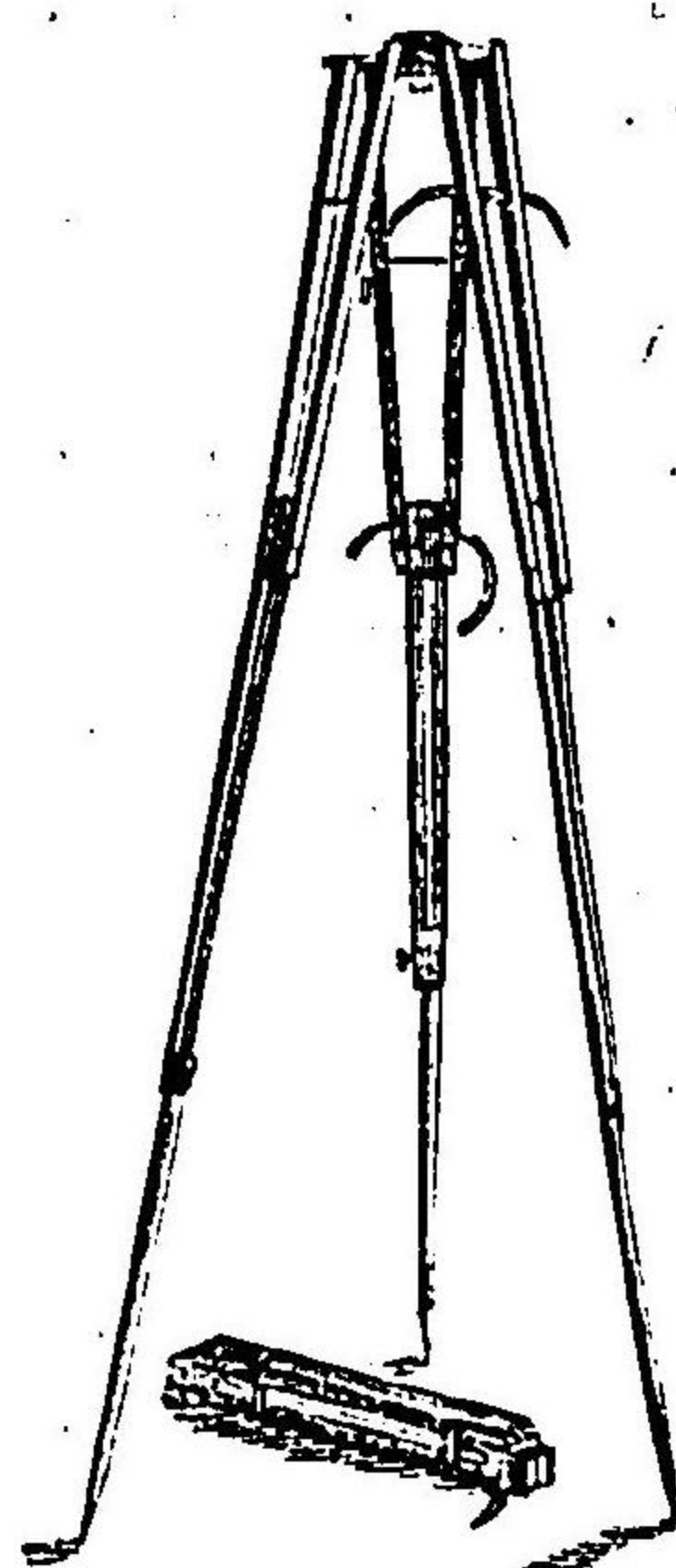
又暗箱には其前部鏡玉を嵌めたる部分と其后部(地硝子)の部分とは鞆狀の革袋を以て連續しあるを以て地硝子面上に映像を鮮明ならしむる爲め鏡玉と地硝子との距離を伸縮することを得るなり

鏡玉は感光板面上に畫像を印せしむるが爲に甚だ緊要なるものなり故に之を取扱ふには最も鄭重にせざるべからず而して經濟上の都合に由り暗箱は寧ろ價の廉なるものを購ふも鏡玉は上等のものを撰ぶを良とす鏡玉には其種類種々あり普通用ふる單玉鏡玉は景色若しくは集合人物等を撮影するに適す然れども瞬間撮影に用ひんには強き光線と感光度の速き乾板とを用ひざれば充分の好結果を得ること能はず且つ亦人家佛閣等の如き屋内を撮影すること能はざるなり何んとなれば屋内にての仕事は被寫体と暗箱との距離短き故に廣角鏡玉を用ひざるべからず而して瞬間に撮影は極めて迅速に撮影し得るところの速直鏡玉を用ひざれば被寫体の迅速に運動する自然のまゝを撮影すること能はされはなり



鏡玉

を正しく水平に据ゆるか爲め地盤の凸凹に由り自在に伸縮し得る仕掛を有す即ち玆に猶一箇必要なるものは三脚臺なり之は携帶に輕便にして堅固なるを要す暗箱



上圖の如し

三 此外必要なる用具は鏡玉の焦點を定む
 脚 る爲めに用ふる黒布其他平皿薬液量り
 三 コップ、薬用秤、暗室用洋燈等なり此等は
 后章に於て解くべし

さて完全に用具を調べんと欲せば此外に於て尙夥多ありと雖一ト通り整備したる用具の用法を知了したれば先づ野外に於て景色の撮影を實地に試むべし

第三章 野外撮影

撮影器械を携へて野外を逍遙し何物を撮影せんかと已か身邊を見廻せば美麗なる寫眞畫を作るに適當なるものは彼處此處に數多あるべし例へば老松の丘岡の傍に枝を垂るゝもの菴蘿の石垣に纏ふて繁茂するもの又は牧場の柵なごに沿ふて流るゝ小川樹木の間に隠見する農家の景色などは實に趣ある畫圖にして撮影するにも容易なり

撮影に取り掛らんには先づ第一に三脚臺の紐を解きて組み合せ之を地上に据ゆる

には三脚の一を已れの正面なる先きの方に突き出し他の二脚を左右の兩側に擴ぐべし次に手提包の中より暗筥を取り出し螺旋にて確かき三脚臺に据へ付け暗筥を開きて鏡玉を嵌め而して其反對の側面にある地硝子面上に映像の焦點を定むべし之を爲すには鏡玉の蓋を除きて己れの頭と共に黒布を以て暗筥を覆ひ周邊より光線の入らざる様に爲して地硝子面を窺ふときは眼前に朦朧たる映像を認むべし此とき鏡玉と地硝子板との距離を右側にある螺旋棒にて伸縮するときは映像の鮮明となる點を見出すべし此點を稱して焦點と云ふ焦點は主眼とするところのものに合せ其前後にあるものは少し亂れて鮮明ならざるも鏡玉に附屬しある絞りを用ひて鏡玉の口径を小さく爲すときは自然に分明となるものなり

地硝子板に倒映せる物体は即ち感光板に撮影するところのものと同一なれば其板面に映する畫像を閲して畫の布置を定むべし例へば空の部分が多くし或は前景を廣くし又は右端にある森林の樹木を見ゆる様に爲して左側にある雜草若しくは朽壞したる垣牆との權衡を保つ様に爲すの類あるときは即ち空の部分が多くせんに鏡玉の嵌めある前板を上げ前景を廣くせんには之を下げ又暗筥の旋ち極めある螺旋を緩めて暗筥を右の方へ向くれば森林の樹木を畫圖中に入るゝことを得斯く

少し計りの位置を變更するには三脚臺を動かさずして只臺上のみにて位置を定めることを得るなり

之より鏡玉に適度の絞りを挿み蓋にて覆ひ豫て暗室中に於て二枚の乾板を挿入し置きたる(兩側に一枚つゝ)一個の取枠を取り出し地硝子を外づして其位置に俟め焦點を定むるときに用ひたる黒布にて光線の透入を防ぐ爲め暗管の上より覆ひ暗管の内部となりたる取枠の引き蓋を引くなり斯くするときには鏡玉と感光板との間には何物もなく又鏡玉の蓋さへ除けば被寫体と感光板との間に支障物なきを以て被寫体より反射し來る光線は直ちに鏡玉を通過して感光板面に畫像を印するなり故に蓋を取りたらは暗管に觸れざる様注意すべし適當の寫度を與へたれば蓋を覆ひ取枠の引き蓋を挿入すべし取枠には其一端に番號を記しあるを以て第一より順次撮影し左式の如き手帳を携帶して其番號并に被寫体の名稱寫度月日時刻等をも認め置くときは如何なる光線には數分時間の寫度を要すかを習得し得て大ひに后日の参考となるものなり

要摘	寫度	被寫体	絞	鏡玉	乾板ノ種類及速度	線光	時刻	時	日	月	番號板	取枠番號
板種好	秒二	落村何	四十六	單玉	二〇 オン オン	晴	九時	午前	日一月三	三月	7	1
全	秒一	津渡川何	二十三	單玉	廿四 オン オン	曇	五時	午前	日十月四	四月	8	2
全	秒十	宅邸氏何	八十二百	速	三十三 オン オン	晴半	一時	午前	日三月五	五月	9	3
全	秒一	山何	四十六	速	三十三 オン オン	晴	十時	午前	日一月六	六月	10	4

適當の寫度を見出すことは初學者の最も困難を感ずる所なり實際光線の強弱は肉眼にて見るときは左程相違なきが如きも感光板上に及ぼす作用に至りては大ひに差違あるものなり故に初學者は左に掲ぐる所の寫真大家バルトン氏及びスコット氏の作れる二表を對照して試みれば充分の好結果を得べし之れ編者が多年の經驗に徴して明らかかなり茲に一例を示さん照り渡りたる景色を目的物となし六十四と記しある絞りをを用ゆるとせば第一表に據り半秒にて適當なりとす然るに本表は六七月頃の天氣を以て標準と定めたるものなれば今時を三月の日和として午前第九時に於て爲すとせば即ち第二表に據り其時間を四倍せざるへからず然るときは二秒を以て適當の寫度たることを知り得るなり而して撮影するに當り寫度の時

間を計るに其都度時計を用ふるは随分面倒なるを以て寧ろ一イニウ三イ等の音聲を以て秒時の數を數ふるを宜とす其數ふるには正しく秒數丈を數ふるよりも其二倍を數ふるを便とす(試みに先つ時計を遅速を比較して數ふるときは其速さを知り得べし)故に二秒の寫度を與ふるとせは鏡玉の蓋を取ると同時に一イと唱へ順次に數へて四に至ると同時に蓋を覆ふなり若し誤りて適當の寫度を與へざりし場合にありても其感光板は決して放棄すへからず次きの暗室の章に於て研究する所の方法を用ひて顯像液を加減するときは好種板を得ることあるものなり

第一表

バルトソフ氏撮影時間表

従つての 寫眞記号 の記号 に 會 は る	海及空	晴れ渡た る景色	樹ある景 前景に深	繁茂した る樹陰	光線の上 部合よき内	空に合 しき内 部合よき内	晴 天戸外 に接 て間 を以 て線 を以 て人 物	影 に接 て人 物 通 常 室 内
.25, 即ち $\frac{1}{4}$	秒 $\frac{1}{16}$	秒 $\frac{1}{16}$	秒 $\frac{1}{30}$	分 0	分 0	分 0	秒 $\frac{1}{32}$	分 0
.5, 即ち $\frac{1}{2}$	秒 $\frac{1}{8}$	秒 $\frac{1}{8}$	分 1	分 5	分 5	分 1	秒 $\frac{1}{16}$	秒 $\frac{1}{8}$
.1, 即ち $\frac{1}{10}$	分 1	分 1	分 4	分 10	分 10	分 2	分 8	分 3

.2, 即ち $\frac{1}{5}$	分 2	分 2	分 4	分 20	分 20	分 4	分 4	分 6
.4, 即ち $\frac{1}{4}$	分 4	分 4	分 8	分 40	分 40	分 8	分 8	分 12
.8, 即ち $\frac{1}{2}$	分 8	分 8	分 16	分 20	分 20	分 16	分 16	分 24
.16, 即ち $\frac{1}{6}$	分 16	分 16	分 32	分 40	分 40	分 32	分 32	分 48
.32, 即ち $\frac{1}{3}$	分 32	分 32	分 64	分 20	分 20	分 16	分 16	分 36
.64, 即ち $\frac{1}{2}$	分 64	分 64	分 128	分 40	分 40	分 32	分 32	分 72
.128, 即ち $\frac{1}{4}$	分 128	分 128	分 256	分 20	分 20	分 16	分 16	分 144
.256, 即ち $\frac{1}{4}$	分 256	分 256	分 512	分 40	分 40	分 32	分 32	分 288

第二表
スコット氏光線比較表

午前	午後	六月	五月	七月	四月	八月	三月	九月	二月	十月	一月	十二月
12	1	1	1	1	1	1	1	2	3	4	5	
11	1	1	1	1	1	1	1	2	3	4	5	

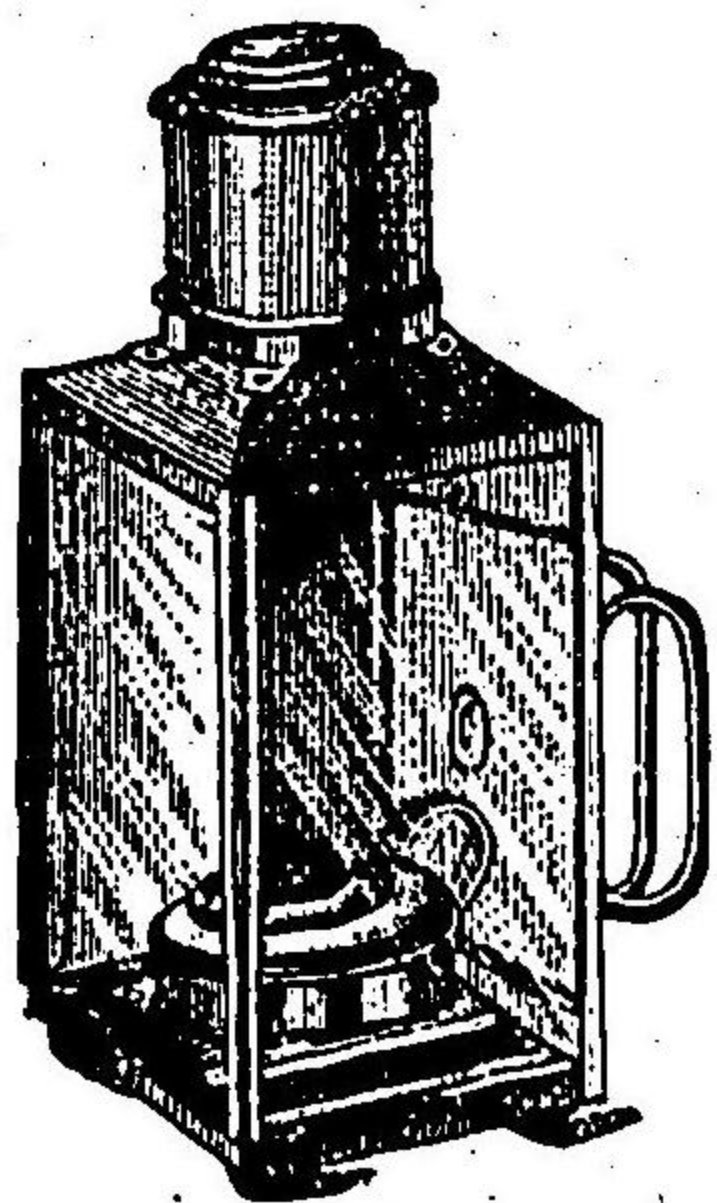
10	2	1	1	1 $\frac{1}{2}$	1 $\frac{1}{2}$	3	5	6
9	3	1	1 $\frac{1}{4}$	1 $\frac{1}{2}$	2	4	•12	•16
8	4	1 $\frac{1}{2}$	1 $\frac{1}{2}$	2	3	•10		
7	5	2	2 $\frac{1}{2}$	3	•5			
6	6	2 $\frac{1}{2}$	•3	•6				
5	7	•5	•6					
4	8	•12						

表中・露の降しある分は夕焼の爲め多少變更することあるべし

景色等を撮影するには暗室の背後又は側面より日光の照らすときに限ることを記
 慮せざるべからず正面より日光を受くるときは充分なる注意を爲すにあらざれば
 好寫眞を得ること難きものなり故に初學の間は先づ簡單なる物体若しくは景色等
 を撰び日光の被寫体を照らす位置等に注意して幾回も撮影を試み漸次に複雑なる
 物体に及ぼすを宜しとす

第四章 暗室

前章に述べたるどころの野外に於て撮影したりし乾板は暗室内にて現像を行ふも
 のなり之を爲すに先だち暗室を備へ附け數種の藥液を用意せざるべからず
 暗室は只日光或は白色光線の透入することなければ如何なる室にても事足るもの
 なれば素人の手にても容易に造ることを得べし特に夜分などには浴室或は厨を以
 て之に充つれば水を使用するに便なるが故に大ひに都合よろしきものなり而して
 暗室中にては赤色燈に點火し其明かりにて現像等の方法を行ふべし
 土藏若くは押入などを暗室に充てたるときは水桶及び水こぼし等のなきを以て豫
 め清水を入れたる大桶と洗ひ水及故るき藥液を翻ぼすべき一桶とを備へ置くべし
 若し充分に光線の透入を防ぐべき暗室なければ日没後にのみ現像を爲すをよしと
 す乾板は些少にても白色光線を受くれば忽ち其害を被るものなり然るに赤色光線
 は乾板に感せざるを以てこの光線を用ふれば安全なり赤色燈は別に面倒もなく費
 用少なくて躬ら之を造ることを得れども仕事を爲すに適したる色光にして輕便
 なる装置のもの販賣しあるを以て却て之を購ふを良しとす



赤
色
燈

光線の透入の慮なき完全の暗室内にては夜と同じく日中にも現像を爲すよとを得窓の如き隙あれば其處に赤色の硝子を充て置くときは白色光線は窓を通過する際赤色と變じて全く施術に障害を來すことなし

現像に用ゆる諸道具は前記の赤色燈の外恰當なる大さの三個の皿と溶液を量るに用ふる四オンス量り并に滴數を量るへき藥用コップ及び一臺の天秤なり而して化學藥品は次亞硫酸曹達一ポンド明礬一ポンド臭化アンモニア一オンス及重に二種の溶液より成立する現像液貳瓶なり又種板に「ニス」を施し置くときは其膜面を損することなきを以て種板用「ニス」の一瓶をも豫め備へ置くべし

以上に於て暗室器具藥品などを説明したれば是れより現像を爲すの手續を述ぶべし

現像液は初學者の爲め坊間に販賣しあれば之を用ひて充分なり加ふるに躬ら製するよりもかゝる既製のものを用ふる方却て經濟なりとす通常一般に用ふる所の現像液は沒食酸炭酸加里亞硫酸曹達及ひ他の二三の藥品より製せられたるものなり

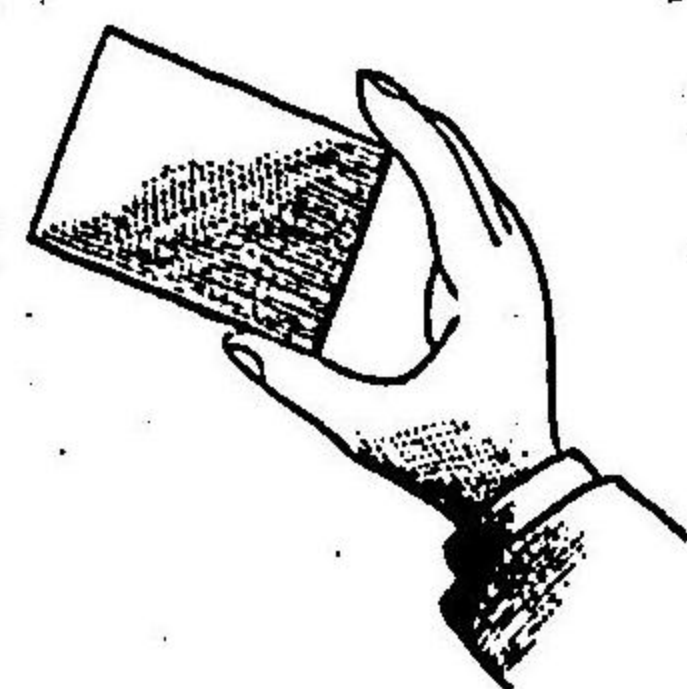
若し自ら製らんとすれば左の割合に據るべし

沒食酸	一オンス
枸橼酸	百ゲレン
亞硫酸曹達	三オンス
水	十オンス
炭酸加里	三オンス
亞硫酸曹達	一オンス
水	十オンス

始め亞硫酸曹達を湯にて溶かし枸橼酸を加へ冷へたるを待ちて沒食酸を加ふべし

手札形乾板を現像するには二十オンスの水にいろの兩液各一ドラムつゝを加へて用ふべし

現像を爲すには取枠の一端に記しある番號の順序に由り最初に寫したる乾板を取り出し感光面を上にして清水の堪へたる皿中に入れ暫時浸し置き水を翻して現像液を入るゝなり乾板を取扱ふときは注意して感光面に觸れざる様にすべし之に觸るれば手指に存する脂肪等の爲め其膜を損するものなり故に之を取扱ふには上圖



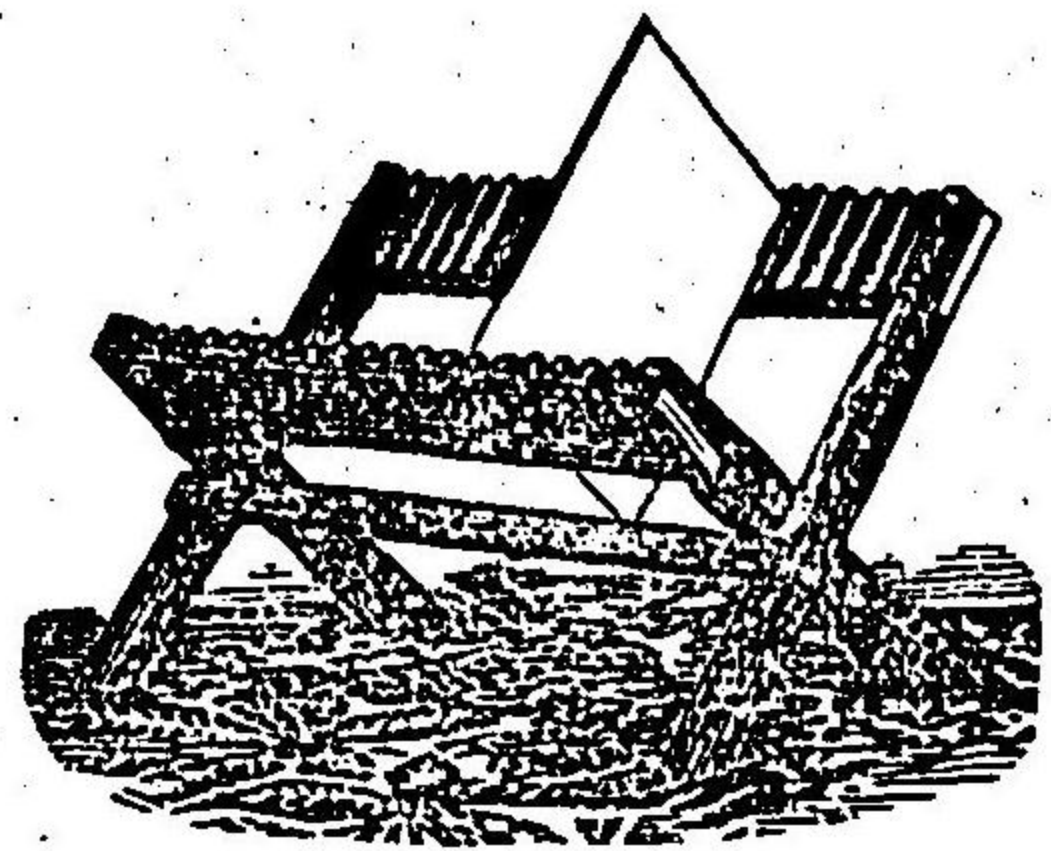
の如くその両端を持つを宜しとす

乾板 現像は長時間を要するものにあらす現像液を注ぎたれば不斷
の板 徐々に皿を搖盪すべし然るときは最初乾板の中程に一條の暗
持 線を認むれども后須臾にして乾板の上半(或は下半)は漸次に暗

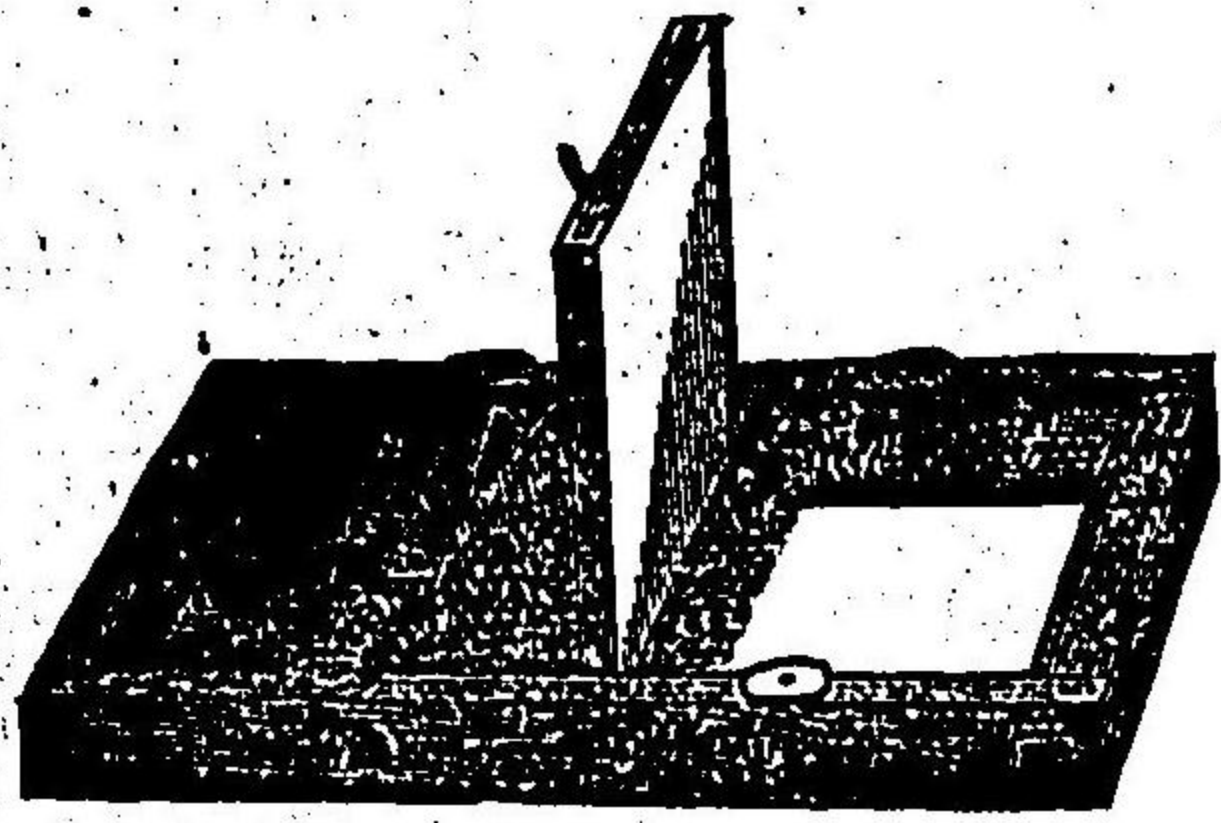
したること最も強きこととなり后間もなく陰影の細密なるところ現れ來り嚮きに
暗室の地硝子面に見たりし通りの美景を呈すべし而して其色始め乳白色なりしも
の漸く變じて暗褐色となるに至れば液より取り出し兩三回清水を取り替へて洗ひ
已に用意したる定着液(后に解く)中に入るゝなりこの方法を記する前に先づ寫度を
失したる時に用ふる現像法を説くべし

若し寫度の久しきに失したるものあるときは現像液に浸すや否や忽ち影像を現出
するも其色稀薄にして所謂濃淡の差少なき種板を得るものなり之を防ぐには現像
液(ニオンス)中臭化アンモニア液の數滴とい液の少量を加へ置くを要す臭化アン
モニアは一オンスを十オンスの水に溶かしたるものを用ゆべし
前と異なりて若し寫度の短かきに失したるものあるときは畫像を現出すること甚

た緩慢にして特に陰影及暗所の細密なる部分判然と現出せずかゝる場合には現像
液(ニオンス)中へろ液の半ドラム或は夫れより稍多量を注ぐべし之れ臭化アンモニ
ア溶液は現像力を弱くしる液は之を活潑にするものなればなり現像したる種板は
清水にて洗淨したる后次亞硫酸曹達液の中に入れて定着を施すべし
定着液は只水の二十オンス中へ次亞硫酸曹達四オンスを溶解せしむるにあり現像
したる種板を此溶液中に置き板の背面の不透明なる黄色全く消失するまでそのま
ゝに爲し置くへし其時間五分乃至十五分を要す餘り早く取り出すよりも稍久しく
定着し置くを良とす若し充分に定着せされは取り出したる后漸次に黄色に返るも
のなるを以てなり定着液を容るゝ皿は他の用に充てざる様注意すへし是次亞硫酸
曹達の附着は中々洗滌すること難きものにして若し定着前の乾板に觸るゝことあ
るときは其畫像を消失せしむるものなればなり
種板は充分に定着したる后は注意して屢々水を取り替へ洗ひ了れば種板掛けに掛
けて乾かし然る后印畫を爲すなり夏日には感光膜を固定せしむる爲め明礬の溶解
度液中に數分間浸すべし
明礬液より出したるときは三四回水を取り替へて洗ひ后種板掛けに掛けて乾かすな



種板掛



焼枠

以上の手續に依り第二第三と順次に都ての乾板を現像すべし
 種板に「ニス」を施すには炭火にて種板に微温を興へたる后「ニス」を一面に流かし再たひ炭火上にて充分に温ため乾かすなり

第五章 印畫法

現像したる種板の全く乾きたるときは種板掛より取り外つし夫れより幾枚の印畫を作るなり
 之を爲すには焼枠と稱する木製の筐中に種板を入れ一枚の印畫紙をその薬膜面上に布き更に其上に日本紙若しくは薄き護膜板を載せ木製の蓋板を挿み眞鍮製の「バネ」にて其兩端を確め印畫紙と種板とを密着せしめて更に移動することなからしむ而して此蓋板の中央は蝶番に爲しあれば印畫の如

何を檢するには板上の印畫紙を移動せしむることなく只其一半部を開きて檢し得るなり種板と印畫紙とを確かに焼枠に嵌め了れば窓闕などに置きて日光に曝し面上に立ち塞がりて陰となるものなき様注意すへし日中には大抵二三分間曝せば普通の種板は光線を透して感光紙に印畫するに足るものなり印畫は鍍金并に定着の方法を施す際幾分か其色合を減するを以て稍過度に焼付け置くへし而して之が焼度を檢するには日當りより焼枠を取り日陰にて蓋板の一半部を開きて其黒さを檢し后之を元の如くに爲し又他の一半部を開くときは容易に全部を檢することを得るなりかくして其度の適否を判し充分なりと認むるときは焼枠より全く取り外つして少しも光線の透入せざる筈若しくは筒中に收むへし以上の手續に依りて復た他の種板を焼枠に入れ欲するだけの印畫を製することを得印畫了りたれば鍍金并に定着を施すなり此與ある施術を爲す前印畫法に就きて其作用を左に簡述すへし

種板は透明半透明不透明なる三部分より成り立つものにして種板にて白き部分は印畫面にては黒き部分となるなり何となれば被寫体の暗黒なる部分は光線の反射最も薄弱なるか爲め感光板面に僅かの感光膜を現はすのみにて恰も透明なる確

子に異ならず之と反對に被寫体の輝きたる部分の鏡玉を透して感光板面に光線を反射せしむること強きか故に厚き感光膜を作りて黒くなるを以てなり故に被寫体の暗黒なる部分は明白なる部分とは種板面に於て之と反對を爲すに據り印畫は全く種板に反對して被寫体と同一なる畫像を得るの理を了解し得へし

印畫を爲すに光線の種板の最も透明なる部分より順次に透過し其下面にある印畫紙に黒く印するなり又種板の濃厚にして不透明なる部分の僅かの光線を透過するに過ぎされは其部分に當る所の元の如く素白なりかくして得たる種板の反對畫を稱して正畫と云ふ正畫は唯紙に印し得るのみならず亦硝子板にも印し得べし即ち透明畫板幻燈映畫の類是なり又印畫に用ふる紙等の種類に由りて鶏卵紙印畫青色印畫臭素紙印畫、アリスト紙印畫白金印畫等の別あり然れども上の如く同じ手續によりて光線を透過せしむれば別に種板を損することなくして一枚の種板より幾板なりとも印畫を製し得るなり

前に述べたるが如く印畫は其種類種々あれども通常一般寫眞師の用ひて美麗なる印畫を製る所のもの鶏卵紙印畫なり此印畫は簡易にして能く素人にてても爲し得べきを以て今特に鶏卵紙印畫法につき其製法を解説すべし

鶏卵紙を左の割合にて溶解したる液上に二三分間浮べて后徐に引き上げ暗所に於て乾かし然る后前述の手續に據り印畫を爲すべし

硝酸銀

一オンス

蒸溜水

八オンス

印畫を爲し了れば三回程清水を取替へて之を洗ひ更らに少許の食鹽を水に混して洗へは畫像の赤色に變ず之を又更らに二回程清水を取り替へて洗ひ左の鍍金皿に入るべし

鹽化金

一オンス(鹽化金十五グラムを水十五グラムに溶かしたるもの)

崩砂

六十グラム

水

八オンス

印畫紙を鍍金皿中に移したれば畫面を下向けに爲し相重さならざる様不斷動かすとき五分或は十分間を経て先きに鹽水中にて赤色に變じたる印畫の漸次に變化して濃厚なる帶紫褐色となる印畫はかゝる色に變ずる迄取り去ることなかれ然れども藍色即石盤色となる迄久しく浸し置くべからず
印畫の程其き色となりたるとき鍍金皿より取り出し清水の入れある他の皿に入

れて洗ひ后左の定着液中に浸すべし

次亞硫酸曹達

三オンス

水

廿オンス

此液中に大抵十五分間程浸したる后ハ印畫ハ光線に曝すとも更に變色するとなきものなり印畫を此液中より取り出したるときハ充分に水洗するを要す若し少しにても次亞硫酸曹達の浸留しあるときハ次第に黄色に變し爲めに印畫を損するを以て實に最後の水洗ハ最も緊要なりとすは大ひに印畫の永久に耐ふると否とに係るに依り可成一夜間水中に浸し置き翌朝に至りて之を取り出すを良しとす印畫を洗滌するに畫面を下に向けて浮ハすときは次亞硫酸曹達を溶解し去り易きものなり定着液を入るハ皿は種板の時と同じく決して他の用に充つヘからず

印畫を充分洗滌したらハ一條の張糸に掛くるか若しくは帳簿の間に挿み乾かすべし臺紙若しくは畫帖に粘り附けんにハ尙濕り氣ある間にコンスターチ若しくは葛の粉にて製りたる糊を印畫紙の裏面に薄く塗布して臺紙上或は畫帖に載せ置き其上より一枚の紙を當て印畫面を綿密に撫て密着せしむべし斯く粘り附けたる印畫に光澤を附くるにはカスチック石礮を薄く塗布して繰り出し器械に掛くるときは

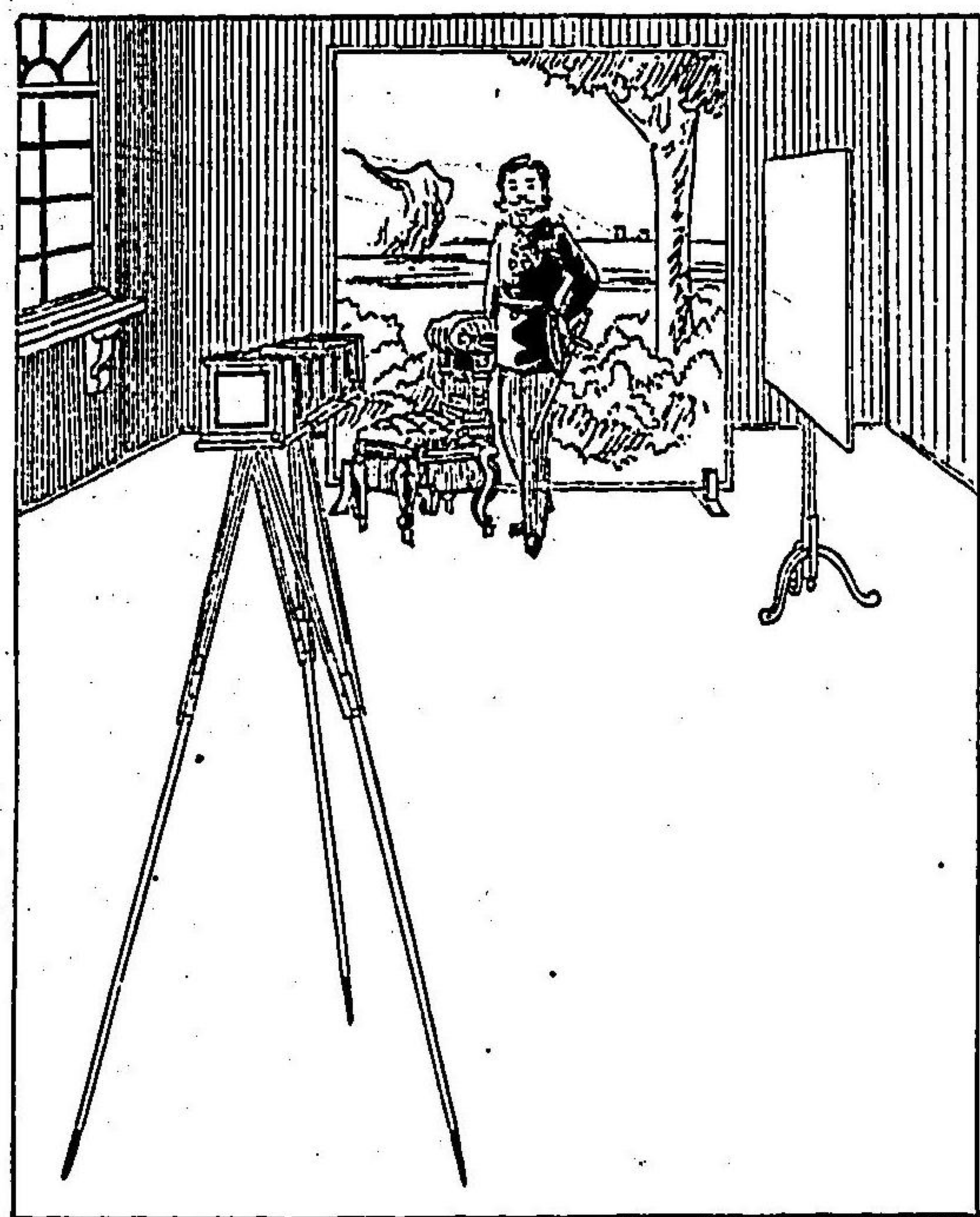
美麗なる光澤を現はすものなり

第六章 肖像撮影

肖像を撮影することは最も愉快の仕事なり之を爲すにハ別に正式の寫真場を設くるに及ばず通常の家屋を以て此に代用することを得彩色したる寫真用後地幕と張り紙を以て作りたる二三種の裝飾用具とへあれは事を辨するものなれども素人にありては普通有觸れたる家具にて間に合はす方却りて職業寫真師の用ふる所のものに倣ふよりも面白味あるものなり

寫真場に宛つる室は四壁を白壁にて塗り窓を北方の一侧壁に穿つを宜しとす之れ終日直接に日光の射入することなく明かりの度常に齊しければなり若し左右兩側に窓あるときは其一側を黒布にて蔽ひ光線の射入を防ぐへし
 后地幕の代りに屏風などを利用するときは之を二つに折り被寫者の側面と爲るべき部分を白き紙若しくは布にて蔽ひ反射幕に兼用することを得て大ひに便利なり
 反射幕は白色のものにて作り一侧の窓より射入する光線を受くる様据へ付くへし
 これ肖像の陰となるべき部分に其光線を反射せしめて映像に現はるハ明暗の差を

減殺せしむる爲めなり器具及物体の排列方は左圖の如くすへし



被寫者の位置を定むるには種々の嗜好と美術上の熟練とを要すへけれども可成的本然の態度を失はざらんことを力むべし故を以て或は直立したる態或は安座せる様或は書籍若しくは手簡などを閲みし居る形或は卓上にて書簡を認め居る状などの似合しき位置を撰ぶべきなり

人物を撮影するに第一主要なる点は被寫者の本質に似合ひたる畫像を得べきと是なり此点に就きては素人は其友人を撮影するに方り却りて老練なる職業寫眞師よりも好果を得るに適するものなり何んとなれば素人は其己か友人の本然なる態度容貌の如何ある者なるや否やを熟知し居ればなり然るに職業寫

眞師には只一見したるものにて到底其特質を看破し難く加ふるに被寫者に於ても職業寫眞師の寫眞場内に立ちては親しき友人の暗筥の前面に於けるが如くならずして幾分か其態度を殊更に取繕ふ傾きありて爲めに本然の態度を失ふことあるものなり被寫者をして衣服も頭髮も平素の如く可成的質素に服装せしめて撮影するときは其肖像は一層引き立ちて見ゆ然れども之に反して美麗なる服装并に綺羅なる后地幕及其他の裝飾を用ふるときは其主要なる被寫者の面貌よりも裝飾に甚しき注意を惹き此等の物却りて肖像の主要部たるが如く見ゆるものなればなり平座して頭部と肩部とのみを現はす半身像は初學者の最も簡易に撮影し得る所のものなりかゝる位置は光線を取るにも容易にして且つ彼此と位置の排合を定むる等の困難なればなり

野外用の暗筥は室内の肖像撮影にも用ふることを得べし正式の室内用暗筥には特別に繰り出し蓋の備へあるを以て便利なること勿論なれども強かち之れを用ふるにも及はず鏡玉も野外にて用ゐたるものにて良しされど肖像用鏡玉の如く印畫の充分浮き上りて見れざると燧点距離の長きを以て寫度のヤ、長きを要するとの憾あり但し廣角鏡玉を景色撮りに用ひたるときは他の鏡玉と嵌め替ふるを要するな

撮影するに當りては先づ被寫者をして決して窮屈ならしめず自然の姿勢に据へ置き面部に程能く光線を受けしめて后焼点を定むへし而して取枠を嵌め鏡玉を覆ひたる后取枠の引き板を引き出して撮影するなりさて室内撮影は野外に於けるより光線も弱く且つ景色撮り鏡玉なるときは前に述ぶるか如く焦点距離の長さを以て随ひて長さ寫度を與へざるへからすそは第四章に掲けたる寫度の表に對照して以て測算すへし尤も精密なる寫度の時間を知らむには景色撮影の場合に於けるか如く其都度手帳に記し置きて經驗上より判定するを良しとす而して肖像撮影には二枚の乾板を用ひ其中一枚は他の一枚よりも稍長き寫度を與へ其位置をも僅かはかり變すへしかく爲したるときは其位置及び種板の善惡につき恰好の方を撰擇するの便あり概して肖像撮影は少し寫度の過ぎたる方却りて良好なる印畫を得るに適するものなり

集合人物を撮影するに其數二三人なれば前と同じ方法を以て光線を取り位置の配合を定むへけれと其數餘り多きときは戶外に於て撮影するを良しとす此場合にありては后地幕の代りに日陰と成り居る家屋の外壁若しくは塀等を用ふること大ひ

に便なり之を排列するには彎曲形に爲すを通常とす而して可成的各被寫者の位置を自然らしく据ゆること肝要なり若し集合人物の數餘り多からざるときは整列せしむるよりも寧ろ不規則に排列せしむる方却りて趣きあるものなり然れども各被寫者の視線をして或一個の中心點に向はしめざるときは各被寫者は恰も別々に寫したるか如き觀ありて見苦しきものなれば此場合に於ては撮影者自身は其中心點となして各被寫者の視線を向はしむるを宜しとす

現像及び印畫を爲すの方法は景色板と同じ仕方にして其要點に於て別に異なることなし然れども肖像種板は定着後に於て修整を施すを要す其法は鉛筆を以て板面の不完全なる部分を補理するなり例へば老人の顔などを撮影するときはその波實際よりも一層目立ちて見苦しきものなれば斯の如き點若しくは光線の都合にて面部に陰陽の差甚しき場合等は鉛筆の尖頭にて徐かに補理するなり然れども若し修正の度過くるときは實物より遠さかりて見苦るしく却つて修正せざるよりも惡しきものなり故に素人にありては寧ろ修正せざるを可とす

「ぼかし」と稱する印畫法は半身肖像に於て最も多く見る所にして頗る優美なるものなり即ち畫像の全体を顯はさずして只其中央主眼の部分のみを顯はし縁の部分と

なるに従ひ其影を漸々淡くして竟に全く素白となす法なり此法は別に面倒なきを以て初學者と雖も容易に行ふを得へし其仕方は種々あれども當時一般に行はるゝ簡易なる方法は厚紙を焼棒と同じ大さに切り其中央に寫し出さむと欲する畫像の大きさより稍小にして夫れと同形の穴を穿ち之を焼棒の上面に糊を以て貼り附くるか若しくは畫工用の針を以て留め穴の上に薄紙を張りて日光に曝すなり而して種板と厚紙との距離の遠き程光線斜めに内部に擴かりて柔らき「ぼかし」畫を得るものなり

「ぼかし」畫を作るには最初試めし焼を爲して穴の適否を檢し不適當なる箇所は之を切り開くか若しくは更に紙を張り替へて刻むへし

景色板并に其他各種の種板にて「ぼかし」畫を製するは前法に同じ

第七章 瞬間撮影

瞬間撮影を爲すことは素人に取りて一層興味あるものなり之に用ふる暗箱と鏡玉とは景色を寫すに用ひたるものと同一にて良し是れ近世の乾板は僅かの光線若しくは寫度の遅鈍なる鏡玉にて瞬間に撮影を爲し得る程感光し易ければなり

然れども天氣曇り且つ被寫体の餘り迅速に動搖するときには短時間にて撮影し得る鏡玉を用ひざるへからず其鏡玉は構造複合にして速正又は速直鏡玉と稱するものなり鏡玉中には瞬間撮影器械の附屬しあるものあり之は能く意のままに寫度の長短を加減することを得て肖像、景色、又美術品等の撮影にも適用せらるゝを以て殊に便利なり

景色撮影若しくは肖像撮影に用ひたる鏡玉を以て瞬間撮影を爲さんには其鏡玉の前方蓋のある部分に瞬間撮影器械を添ふるなり此器械は其種類多くあれども通常落ち蓋と稱するものは頗る簡便なるを以て初學の間は之にて充分なり此器械は容易に鏡玉に備へ附け得るか故に若し此助けを要せざる時には鏡玉より取り外づけし置くべし落ち蓋には護謨管の一端に附けある球を壓搾し其送る所の空氣の壓力作用によりて開閉するものあり又指頭にて觸るれば直ちに開閉するものあり何れにても其作用を爲すことは同じきものなり

以上述ふる如く瞬間撮影は既に購求したる鏡玉と暗箱とに簡單なる器械を添ふるのみにて爲し得るなり然れども瞬間撮影を爲すには特に携帯用暗箱と稱し種々の形に構造したる手提暗箱を以て甚た便なりとす就中衆人の雜鬧する市街の景況

車馬の急走する道路の有様又は進行中汽車の窓より見ゆる山水の景色航海中汽船の上より眺むる海島の有様等を撮影するには此種の暗箱を用ふること頗る便利なり
通常の暗箱を三脚臺上に据へ付けて用ふるときは見出し鏡を常に暗箱の頂に添ふべし之なきときは暗箱を臺上に運轉して疾行する物体を容易に乾板の中央に撮影すること難ければなり被寫体の見出し鏡の中央に映するとき即ち乾板の中央に正しく寫るべきものなれば此時直ちに撮影すべし
最も迅速に且つ最も良好なる瞬間撮影を爲すに必要な件は既に述べたるか如く成へく迅速に働く鏡玉を用ふるにあり又強力な光線及び清朗なる空氣も必要なりとす故に光線は暗箱の背後より照り渡りて其前方に在る被寫体の全面に最も強き輝きを與へ而して鏡玉は成るべく其口径を大となし光線の多量を通過して乾板に感光し易からしむるなり

瞬間に撮影したる乾板を顯像するには第四章に述べたる現像液にて宜ろしとす初學の間は他種の顯像液を用ゆるよりも却つて用ひ慣れたるものを用ふる方手際良き結果を得るものなり大抵瞬間撮影は其寫度の過ぎたるもの稀れなれば現像液の

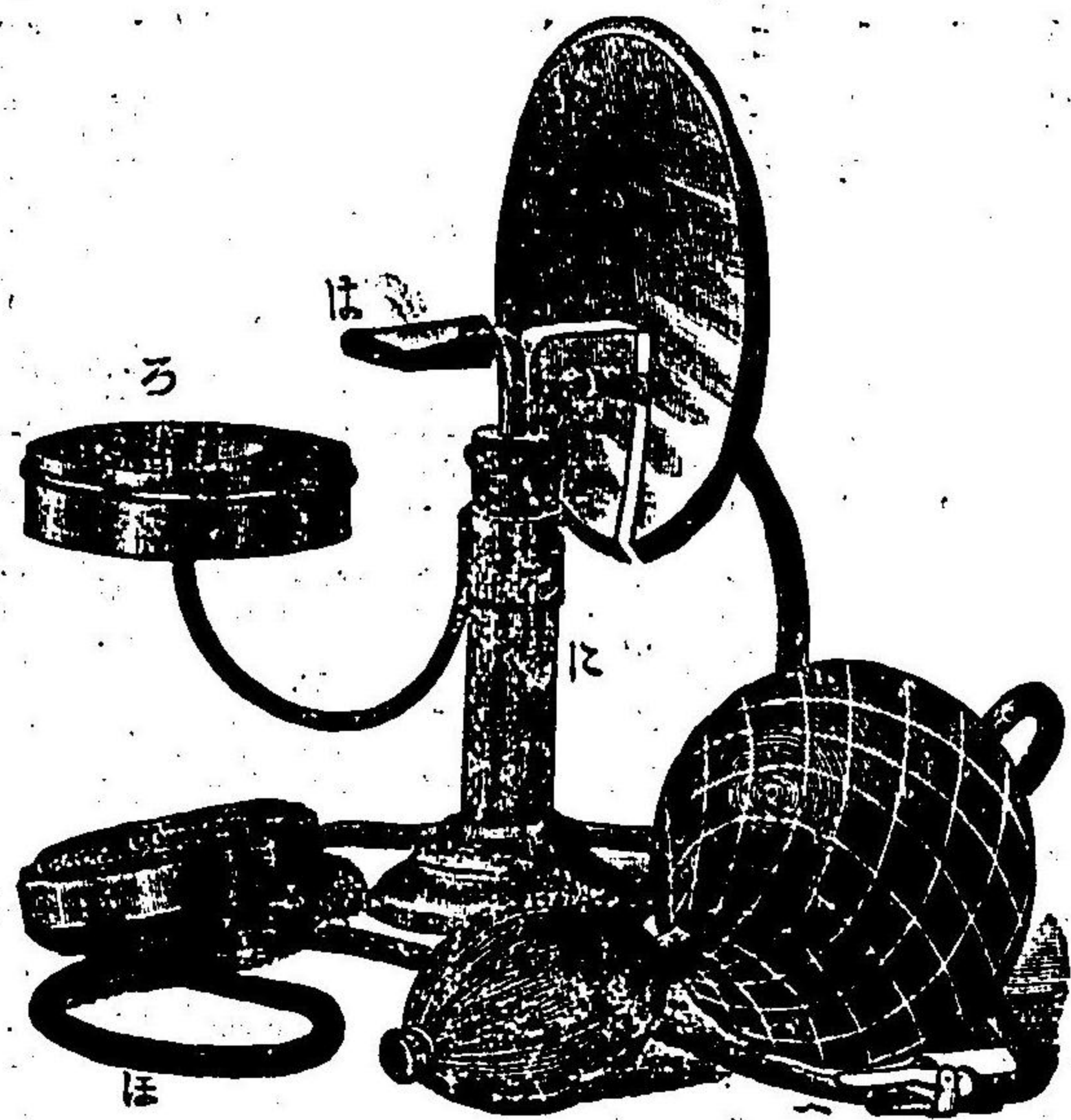
調合は恰も寫度不足の乾板を現像するか如くい液よりも液の量を稍多く加ふべし定着法及び印畫法等の手際は普通寫眞と異なることなし

第八章 閃光撮影

本書中最も奇異に感ずるところの一法は「マグネシヤ」を燃して寫眞用の光線に代用すること是れなり

回旋したる紐狀の「マグネシヤ」錠物を用ひて鑛坑岩窟等の如き暗所に於て撮影することは己に數年以前より行はれたれども此方法に依るときは其仕方稍困難なるのみならず少しく長時間の寫度を要せざるを得ず電光も亦寫眞用光線に代用することあれども之に用ふる器械の高價なるのみならず現今用ふるところの「マグネシヤ」粉末に比する時は其光力微弱なるを免れず故に此兩三年前よりは「マグネシヤ」粉末を専用することゝなれり而して之を使用する方法は幾多の改良を経たるものなるを以て素人と雖も容易に此方法に従ひ夜間若しくは暗所に於て瞬間に撮影することを得べしさて「マグネシヤ」粉末は火藥包の如く装置して寫眞藥舖に販賣しあり之を用ふるに短銃の如き装置のもの又は空氣の壓力に由りて其粉末を「アルコー

ル燭火上に吹き掛くる等の仕掛けに依りて閃光を發射し日光の及はざる暗所若しくは深夜の景色等を撮影するものなり而して之を行ふには如何なる暗室と雖も其用に充て得るを以て甚た容易なりとす即ち夜間に於ける家族の集會、小宴會、骨牌并に他の交際上の集會等の如きは「マグ子シヤ」閃光の應用せられさりし以前にありて



閃光洋燈

は全く撮影すへからざるものと思はれたりしも今日に於ては此簡易なる方法に於て撮影し得るに至れり
 上圖に示す所の閃光用洋燈は頗る簡便にして現今盛に使用する所のものなり即ちいは反射鏡にしてるは「アルコール」洋燈は「マグ子シヤ」粉末を吹き出す口にしてにの管中に「マグ子シヤ」粉末を入れ置くなり而して撮影せんと欲する時はほなる護謨管に附屬したるへなる金物にて空氣をちよりはへ出てさる様護

謨管を塞きてどの袋へ充分に容れ置き夫れより「アルコール」洋燈に點火して將に撮影せんとするに際しへなる金物を放ては空氣は直ちには口より「マグ子シヤ」粉末を「アルコール」燭火上に放散して閃光を發射せしむるものなり

「マグ子シヤ」閃光に依りて肖像を寫さんには深く注意して閃光撮影に於て往々見るどころの明暗の差甚しき畫像とならざる様に爲すへし閃光洋燈は少なくも被寫体より五尺を距つるを要す何んとなれば閃光に近づくに従ひ明暗に差着しくなるを以てなり然れども閃光を遠く距つるに従ひ其光力漸く薄弱となるを以て適度の距離を擇はざるへからず故に「マグ子シヤ」は被寫体より五尺乃至八尺のところにて點火するを宜しとす而して閃光洋燈を被寫者との間に白き薄紙を垂るゝときは最も良ろし又寫真用后地幕は被寫者の暗影の映せざる様少し遠避け置くへし且つ肖像の章に於て述べたると同じき反射幕を用ふるの必要なることあり而して「マグ子シヤ」は暗室の位置より稍上部に於て點火して其光線の鏡玉に透入せざる様に注意すへし

閃光に依りて集合体を撮影するには真正而よりも稍左側或は右側より照すを宜しとす甚た大なるときは其左右兩側より閃光を照らすの要あり何んとなれば一側の

みに洋燈を置きて照せは其一側は勿論他側よりも光線強くして明暗の差従ひて甚しければなり

閃光撮影を爲すには速直鏡玉并に感光し易き乾板を用ふるを良しとす而して焦點を定むるには燭火を用ふるを便利なりとす即ち其室内にて最も鮮明を要する部分に接近して蠟燭に點火し置き或は場合に由りては被寫者の面に接近して据へ焦點を合せたるときは燭火を去り鏡玉を覆ひ取枠を嵌め引板を引き閃光を受くるの用意を爲すべし此場合にありては撮影者は全く暗黒の中にありて鏡玉の蓋を取り外すべし而して其後「マグ子シヤ」を燭すれば電光の如く甚だ強力なる青色の閃光を發す殆んど一秒の二三十分の一時間位燃ゆれば鏡玉の蓋を覆ひ引板を嵌入し是れより現像の用意を爲すなり

現像液并に定着液は通常撮影に用ふるところのものと同し

第九章 正色或は同色寫眞

乾板は赤色并に黄色に感せざるを以て通常の乾板にて此兩色を寫すときは黒色と其觀を同ふし又綠色も殆んど黒色と同じ觀を呈するを以て色彩を有する繪畫若し

くは美術品等を寫したる場合に於ては其色合の見分け難きが爲めに不便を感ずること少からず然れども正色寫眞用乾板を以て之を寫すときは能く各色毎に感應度を異にするを以て容易に其何色たるやを甄別することを得べし

正色寫眞に用ふるところの乾板は正色或同色乾板と稱し販賣しあれども其乾板を所持すれば自ら容易に製することを得るを以て却つて之を購ふよりも自ら製する方素人に取りて興味あるものなり即ち先づ通常の乾板を左の液中に二分間浸すべし

強アンモニア

一ドラム

蒸溜水

七オンス

右の液より出したるときは洗はずして直ちに左の液中に又二分間浸すべし

エリスロシン溶液

一ドラム半(エリスロシン五百部)

強アンモニア

二ドラム

蒸溜水

五オンス

此液より出したるときは暗所に於て乾かし然る后使用すべし

此乾板を用ひ通常の白光にて撮影あするときは感應度を多少正しくして黄色には

感すと雖も赤色には充分感せざるを以て之を完全に正しく寫さんには黄色光線を用ひざるへからず黄色光線を得るの法は種々あれども最も普通なるものは鏡玉の紋りに黄色の透明なる薄膜を挿入するなり此薄膜を作るにはコロデオン中に黄色の染料即ちオールの如きものを混和して硝子面に塗布し乾きたるときは引き剝かして絞りに張り附くるなりかゝる黄色光線を用ふるべきの寫度は白光に於ける通常撮影の數倍を要す又ランプ光線は黄色を負へるを以て夜間に於て圖書等の復寫を爲すには黄色の薄膜を用ふるを要せず而して其寫度は大抵二十分内外を以て足る此場合にありては二個の石油洋燈を用ひ且つ光線の直接に鏡玉を透入せざる様に爲すへし

左に掲ぐる方法は曾て我師バルトン氏と實驗して好結果を得たる所のものなり乾板の染料には「エオシン」と「サイヤニン」どの混和溶液を用ひたり即ち「エオシン」は黄色并に綠色に感應し「サイヤニン」は赤色并に橙色に感應するを以てなり

- サイヤニン溶液 一部 (サイヤニン 一部、アルコール 千部)
- エオシン溶液 一部 (エオシン 千部)
- アンモニア液 四部 (強アンモニア 一部、蒸溜水 九部)

蒸溜水 十四部

右の液中に乾板を二分間浸したる后暗室中にて乾かすへし
黄色光線は左の方法に依りて得たり

- ピリツク酸 一部
- 蒸溜水 五百部

此液は極めて平面なる二枚の硝子板を撰ひ其四周の中間に護膜板を挿みて筥の如く作りたるもの、中に入れ之を鏡玉の前部に密接せしめて撮影し寫度は大抵通常撮影の十倍を興へたり

正色寫眞用乾板は前に述ふる如く通常の乾板と異なりて赤色并に黄色に感ずるものなるを以て之を取扱ふ際は暗室を僅少なる濃赤色の光線の外他の光線の入らざる様にすへし又現像を爲す際に於ても殊に注意せざるへからず半は以上現像したらは赤色に感ずるの力減するか故に稍多くの赤色光を入るゝを得るなり概して正色板は「かぶり」を生し易きを以て現像液は「アルカリ」を減し「ブロマイド」を多く加へて用ふへし

第十章 引延印畫

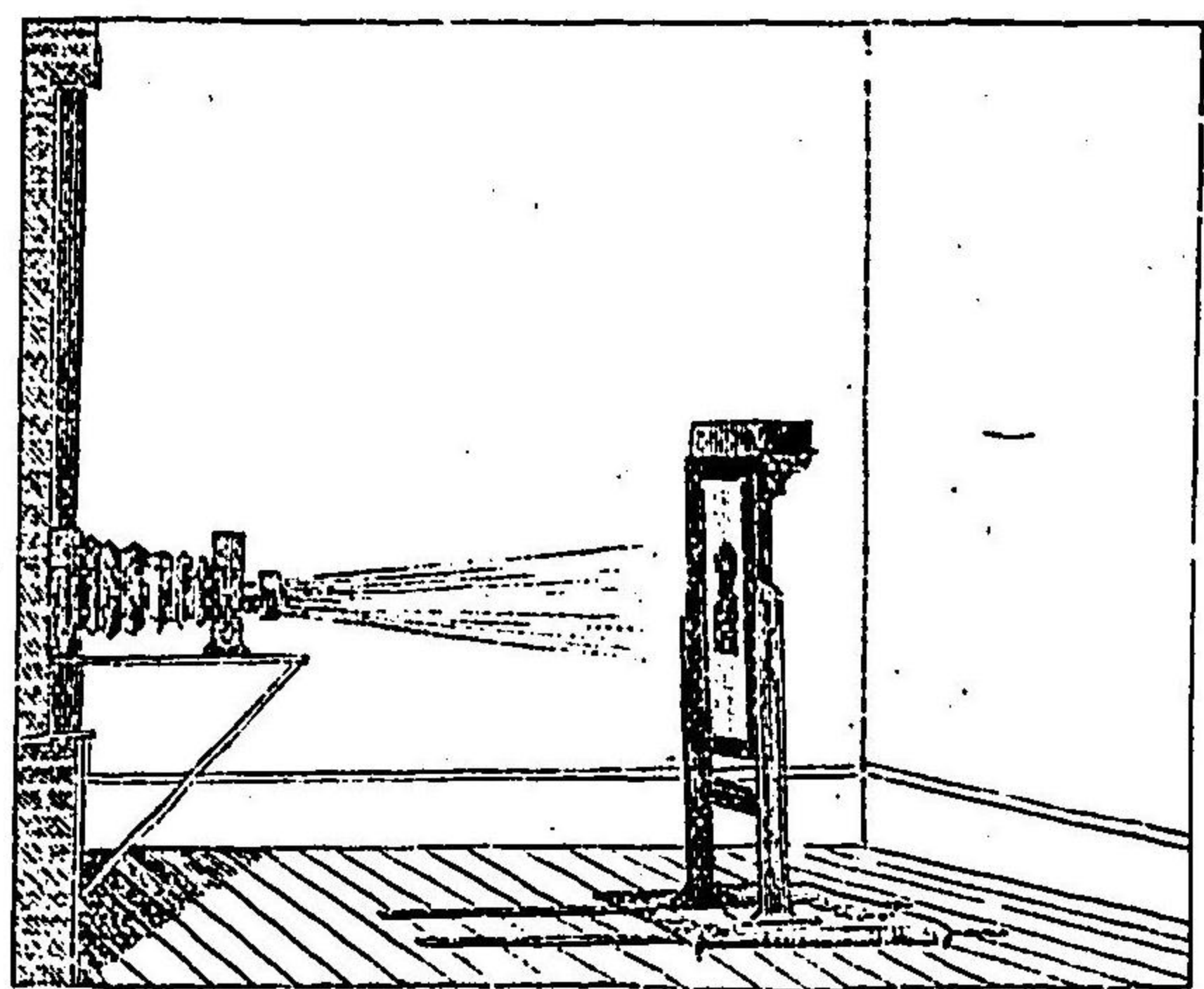
大なる印畫を得んとするに之と相當なる暗室を用ふるときは其取扱非常に煩しきのみならず之に對する用具及乾板等の費用も隨ひて多きを以て初學者にあつて之を用ふることを得策にあらず故に引延法に據るを良しとす引延とは小さき種板より已れか欲する大さの印畫を作るの法なり從來此法を用ふる人少かりしか近頃臭素紙の世に出つるに及び其施術の容易にして且つ費用の僅かなるを以て此法大に行はるゝに至れり

引延に用ふる種板は其畫像の鮮明に寫りたるものにあらずれば好印畫を得ること能はざるは勿論なり故を以て引延印畫を作らんとする種板の撮影の際地硝子面に焦點を合はするに當り焦點顯像鏡を用ひて精密に映像を檢し置くを要す而して種板の濃度は通常銀印畫にて好印畫を得るに適するものなれば充分なり

引延を爲すに用ふるべきの器械は幻燈の一種にして映畫の代りに種板を入れ其影の正しく鮮明に映する所に臭素紙を置きて適當の曝露を與へたる后現像するとき引延印畫を得るなり此法たるや頗る簡便なれども其器械を備ふるには若干の費用を要するのみならず小さき種板には適すれども稍大なる種板より引延を爲す

に適せざるを以て茲に普通の暗室と鏡玉とを用ひて引延を爲す法を記すべし

左圖の如く暗室の日當り能き一方に暗室と同様の大きさなる窓を穿ち暗室を以て之



を塞き光線の洩らざる様に爲し前部にある立板上に畫像を映せしむ而して立板は前後に移動し得る仕掛に爲し置くべし又窓の外部より薄き紙を張り光線を平等に受けしめ若し日光の充分に照り渡らざるときは窓外より鏡を用ひて反射せしむべし

引延を爲さんとする種板は暗室の地硝子と感光膜面を内部にして嵌め替へ(若し地硝子より種板の小なるときは同大の普通硝子の中央に種板の四周を紙片にて貼り付け黒き紙にて四端より光線の進入を防ぐべし然るときは種板

の影は鏡玉を通して立板面上に映するなり即ち臭素紙を立板面に針留めして適當の曝露を爲すなり而して其映像の大小は種板と鏡玉と立板との距離に關係するも

のなり

左の表に依るときは容易に其距離を見出し得べし

引延倍率 立板距離	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
5	10 10	15 7.5	20 6.7	25 8.3	30 6	35 5.8	40 5.7	45 5.6	50 5.6	55 5.5
6	12 12	18 9	24 8	30 7.5	36 7.2	42 7	48 6.9	54 6.8	60 6.7	66 6.6
7	14 14	21 10.5	28 9.3	35 8.8	42 8.4	49 8.2	56 8	63 7.9	70 7.8	77 7.7
8	16 16	24 1.2	32 10.7	40 10	48 9.6	56 9.3	64 9.1	72 9	80 8.8	88 8.8
9	18 18	27 13.5	36 12	45 11.3	54 10.8	63 10.5	72 10.3	81 10.1	90 9.9	99 9.9
10	20 20	30 15	40 13.3	50 12.5	60 12	70 11.7	80 11.4	90 11.3	100 11.1	110 1.10
11	22 22	33 16.5	44 14.7	55 13.8	66 13.2	77 12.8	88 12.6	99 12.4	110 12.2	121 12.1
12	24 24	36 18	48 16	60 15	72 14.4	84 14	96 13.7	108 13.5	120 13.3	132 13.2
13	26 26	39 19.5	52 17.3	65 16.3	78 15.6	91 15.1	104 14.9	117 14.6	130 14.4	143 14.3
14	28 28	42 2.1	56 18.7	70 17.5	84 16.8	98 16.3	122 16	126 15.8	140 15.6	154 15.4
15	30 30	45 22.5	60 2.0	75 18.8	90 18	105 17.5	120 17.1	135 16.9	150 16.7	165 16.5

表中一欄二段内に数字の記しある上段の数字は鏡玉と立板との距離にして下段の数字は種板と鏡玉との距離なり

仮令は十吋の焦點鏡玉を用ひて五倍の大きに引延さんには横欄上部にある(5)と縦欄左側の(10)なる数字を見出し其會合する欄内を見れば(60)とあるなり即ち六十吋は鏡玉と立板との距離にして十二吋は鏡玉と種板との距離即ち暗窩を伸長したるところの長さなり

本表に掲げざるところの大きに引延さんとするときは即ち左の算出法に據り容易に知ることを得べし

- 引延さんとする倍数を.....(い)とし
- 鏡玉の焦點距離を.....(ろ)とし
- 鏡玉と種板との距離を.....(は)とし
- 鏡玉を立板との距離を.....(に)とす

$$(s+1)r = k$$

$$\frac{(s+1)r}{k} = \frac{f}{v}$$

仮令は五吋半の焦點鏡玉を用ひて十六倍に引延さんとするには即ち左の如し

(16+1)5.3 = 93.3 鏡玉と立板との距離
 (16+1)5.3 = 93.3 鏡玉と種板との距離

臭素紙の現像法は種々あれども、稀酸鉄現像法を以て最も良しとす其調合法は左の如し

- | | | |
|-----|------|--------|
| 第一液 | 稀酸加里 | 一ポンド |
| | 白湯 | 四十八オンス |
| | 酢酸 | 三ドラム |
| 第二液 | 硫酸鉄 | 一ポンド |
| | 白湯 | 三十二オンス |
| | 酢酸 | 三十滴内外 |
| 第三液 | 臭化加里 | 一オンス |
| | 水 | 十オンス |

之を使用するには第一液の六オンス中に第二液の一オンスを加へ第三液の二三十滴を混加すへし

印畫したる紙を最初水にて濕し然る后通常の乾板を現像するか如くに爲し畫像の

鮮明に顯出したるときは液を去り左の清淨液を注加すへし

- | | |
|--|--------|
| 酢酸 | 一ドラム |
| 水 | 三十二オンス |
| 上の液中にて能く揺り動かし一分間毎に凡そ三回程液を取り替へ夫より一回冷水にて洗ひ左の定着液中に十分間浸すへし | |
| 次亞硫酸曹達 | 四オンス |
| 水 | 十六オンス |

前液より出したるときは能く水洗ひして次亞硫酸曹達の残留するとなからしむへし

同一の種板より數十枚の引延印畫を得んとするときは一々左の手續を繰り返すこと甚た面倒なるを以て引延種板を作り通常の種板より印畫を爲すか如く燒枠に入れて印畫を爲す方大ひに便利なり即ち臭素紙の代りに乾板を以てなすにあり然れども映像の焦點を定むるには先づ立板に乾板と同じ厚さの白無地蠟紙を針止めして其面に爲すへし然る后乾板を當て替ふるなり現像の方法等通常乾板と更らに異なることなし

引延種板を作るに二法あり即ち種板より直ちに乾板に引延し是れは透明畫板即正畫と云ふたる后夫れに同大の乾板に合せ燧棒に入れ洋燈の光線に曝して種板を得る法と今一は引延さんとする種板より同大の透明畫板即ち正畫を作り置き夫れより大なる乾板に引延し直ちに種板を得る法なり即ち第二の法に依るときは大なる乾板二枚を要せざるを以て費用の點には差あれども第一の法に依りて得たる種板と比較するときは多少映像に鮮明を欠くを以て第一の法に依るを良しとす

以上の各章に於て述ふる所は原書フエニユニアホトシラビ素人寫眞術に載するところとは多少の變更を爲したりと雖其大要に於ては更らに異なることなし本書は實に初學者の爲めに可成簡易に寫眞術の一斑を示したるのみなれば此書に依り撮影及其他の方法をも實地に試み既に初學者たるの境界を脱したるは高尚なる他書に就き研究せられんことを希望するものなり

素人寫眞術 終

明治二十七年三月七日印刷

明治二十七年三月十日發行

定價金五拾錢

著作者

有藤金太郎

麹町區永田町二丁目七番地バルトン方

發行者

淺沼藤吉

東京市日本橋區本町二丁目

發行所

淺沼商店

東京市日本橋區本町二丁目

印刷者

三島謙三

東京市神田區南神保町十番地

印刷所

三島印刷所

東京市神田區南神保町十番地

版權
所有

○寫真新報 毎月一回發刊

寫真新報は此寫術に經驗ある内外人數名が我寫真學術社會の進歩を謀るに熱心なるに起りたれば其記事は此學の原理を明らかにし此術の蘊奥を究むるに最良なる羅針盤なり

○光線并寫真化學

石川 巖君校閱
小川 一眞君譯

○各種寫真術印畫法

バルトン君校閱
有藤金太郎君著述

○素人寫真術

バルトン君校閱
有藤金太郎君譯

○實地寫真術

バルトン君校閱
石井八萬次郎君譯

○増補 寫真藥功用略解

石川 巖君著述

○寫真術獨習書

江崎禮二君著述

アリスト紙

アロマイド紙

アイコノゼン

使用法

市岡太次郎君著述

ソリヨペーパー印畫法

○アミドル顯像藥使用法

ニツコーペーパー印畫法

淺沼商店發兌

東京市日本橋區本町二丁目

大坂心齋橋筋安堂寺町

賣 所
淺沼商店
桑田商店

淺沼商店廣告

當商店は創立後寫真器械及び藥品製造販賣の業に従事すると既に二十有餘年當店附屬の工場に於て製せる寫真器械を第三回内國勸業博覽會へ出品し最高の賞を得たり藥品と器械とを問はず其品質の善良なるを撰み廉價に販賣候間不相變寫真家諸君の御愛顧を乞ふ

○各種寫真術印畫法

バルトン君校閱
有藤金太郎君著述

○寫真術獨習書

江崎禮二君著述

○素人寫真術

バルトン君校閱
有藤金太郎君譯

アリスト紙

アロマイド紙

アイコノゼン

使用法

市岡太次郎君著述

○實地寫真術

バルトン君校閱
石井八萬次郎君譯

ソリヨペーパー印畫法

○アミドル顯像藥使用法 淺沼商店發兌

○寫真新報

毎月一回發刊

ニツコーペーパー印畫法

東京市日本橋區本町二丁目十六番地

寫真器械及諸藥品
石版器械及附屬品
洋藥問屋

淺沼藤吉

商標 電話五百四十九番



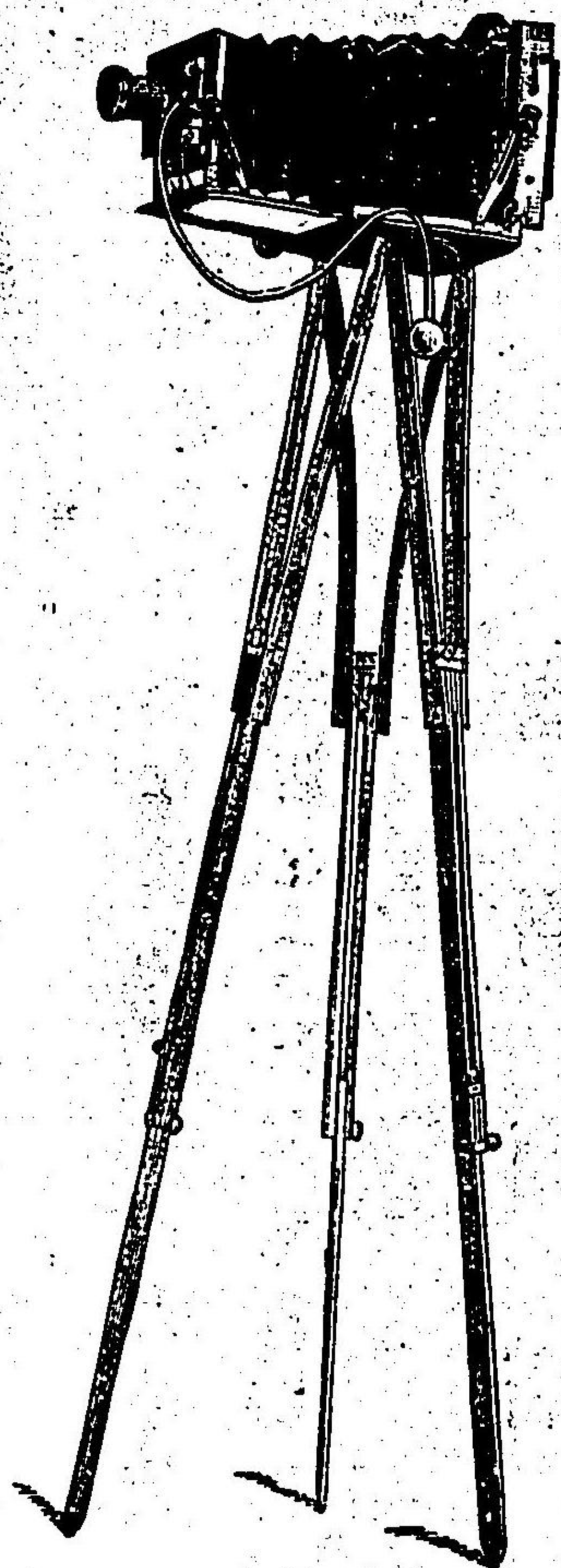
寫真器械及諸藥品定價表

東京日本橋區本町二丁目十六番地

寫真器械製造藥品輸出入商

淺沼商店

電話五百四十九番



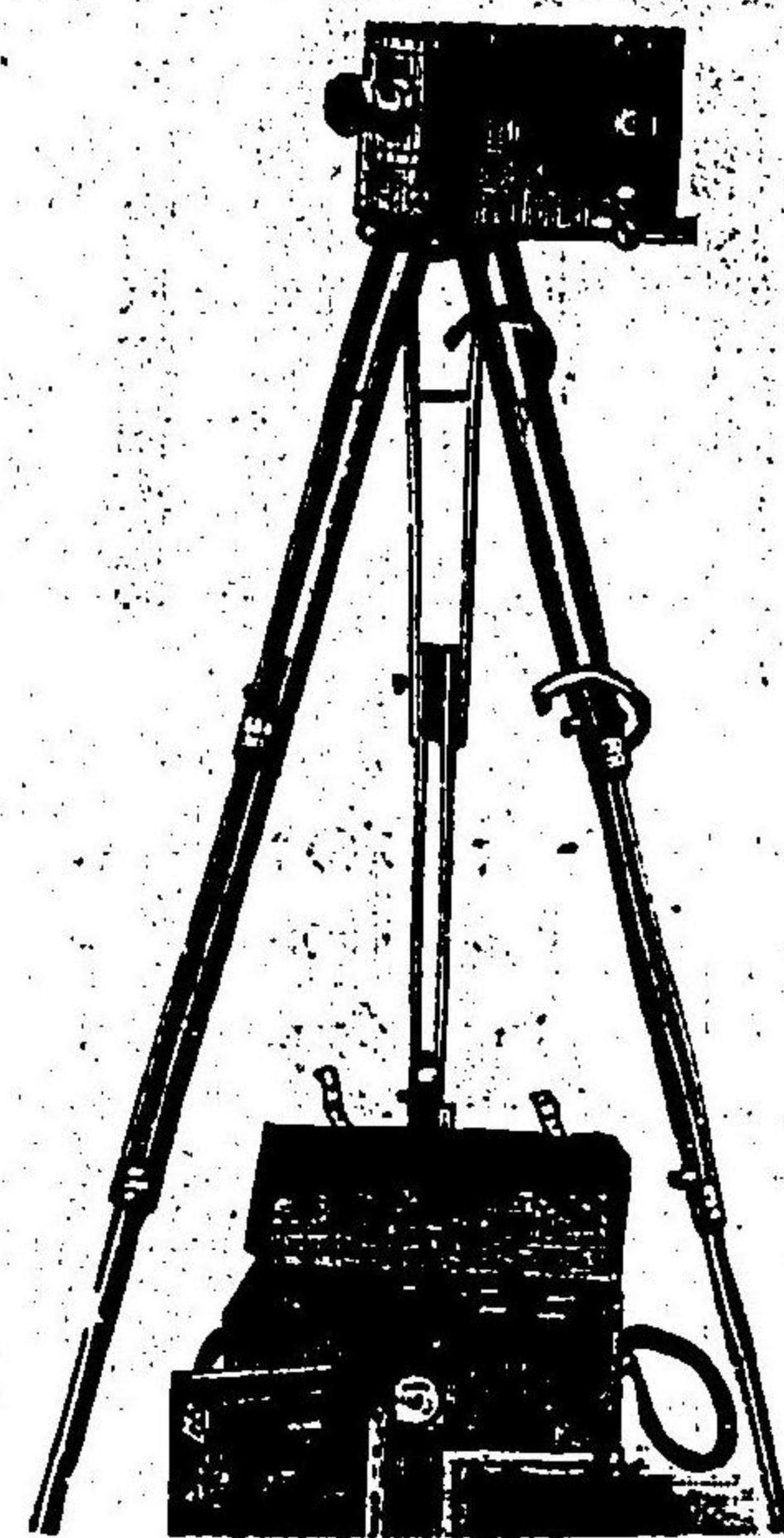
有功賞牌拜受

寫真器械及諸藥品
石版器械及附屬品

洋藥問屋

淺沼藤吉

東京市日本橋區本町二丁目十六番地
商標



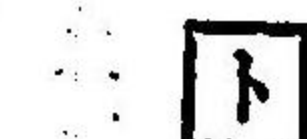
MEDALS AND HIGHEST AWARDS
JAPAN, NATIONAL THIRD EXHIBITION, 1890

PRIZE MEDAL

"FOR PHOTOGRAPHIC MACHINES
AND LITHOGRAPHIC MACHINES
AND MATERIALS."

MANUFACTURER OF
PHOTOGRAPHIC AND LITHOGRAPHIC
APPARATUS,
MATERIALS AND CHEMICALS.

HONCHO NICHOME
TOKYO, JAPAN.



TRADE MARK

TELEPHONE NO 549

T. ASANUMA.

淺沼商店廣告

當商店は二十有餘年の久しく専ら該業に力を竭し第三回博覽會へ出品し最高の賞を得たり又本表には暗箱并に寫眞用器械の最新形を登載せり御望みの方は御申越し次第遞送す

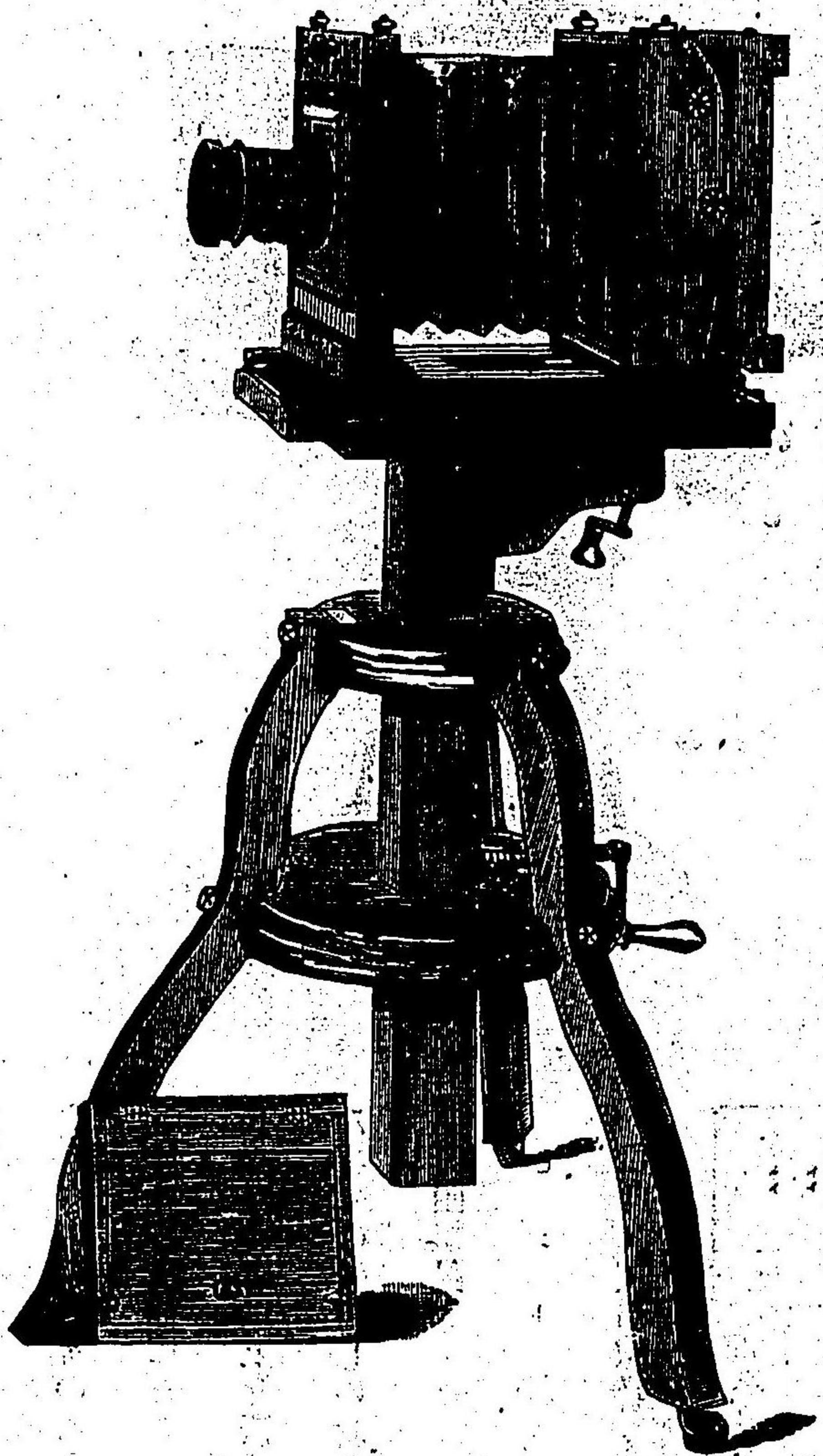
暗箱并に諸器械臺紙等は本店の工場に於て製作せるを以て貴意に應ず

輸出向の荷物には特別注意を加へ仕送り可申候寫眞術の進歩に後れさらんとする御方は本店にて發兌せる寫眞術の書籍を御購讀ありたし

淺沼商店

●淺沼製寫眞場用暗箱

此暗箱は野外暗箱の如く携帶するものにあらずは頗る堅牢を主とし且つ「ジャバラ」の伸縮は前後の兩部に於て爲し得るの仕掛を有しあをりも亦完全にして据付臺の如きは繰出しの裝置なるを以て自由に伸縮することを得る



なり全體の構造現今歐米各國に用ひらるゝ有名なる器械と異なることなし

繰出し臺には楓と櫻との二種あり何れも良材を撰みあるを以て損所を生ずるの患なし

附屬品

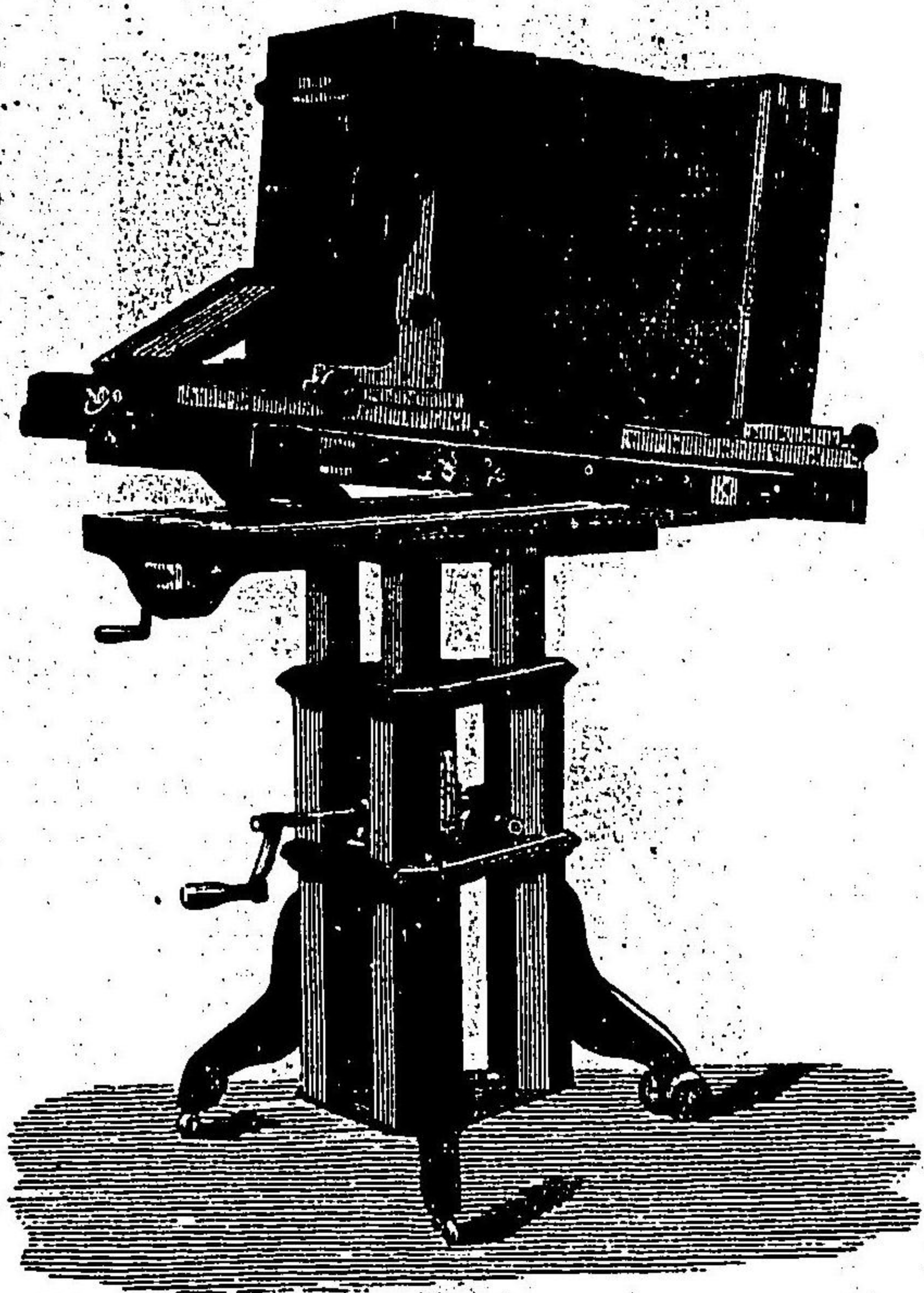
両面乾板用取枠 壹個
片面濕板用取枠 壹個
但繰出し臺の材料は楓櫻にて左表の代價と知るべし

第 壹 號

區 別	本 邦	櫻 材	舶 來	マ ホ ガ ニ ー 材
手札ヨリ八ツ切用途	布製ジャバラ	革製ジャバラ	布製ジャバラ	革製ジャバラ
カビ子ヨリ四ツ切用途	參拾貳圓	參拾五圓	參拾四圓	參拾七圓
	四拾五圓	四拾九圓	四拾八圓	五拾貳圓

第 貳 號

●淺沼製寫真場用暗箱



此暗箱は四ツ切以上全紙迄の寫眞を作らんとするに用ゆるものにして其装置殊に綿密なり而して其後部にある「ピント」板は四ツ切り以下と四ツ切以上を嵌め替て用ゆる様に爲しあるなり○繰出しの材料は第壹號と相同し

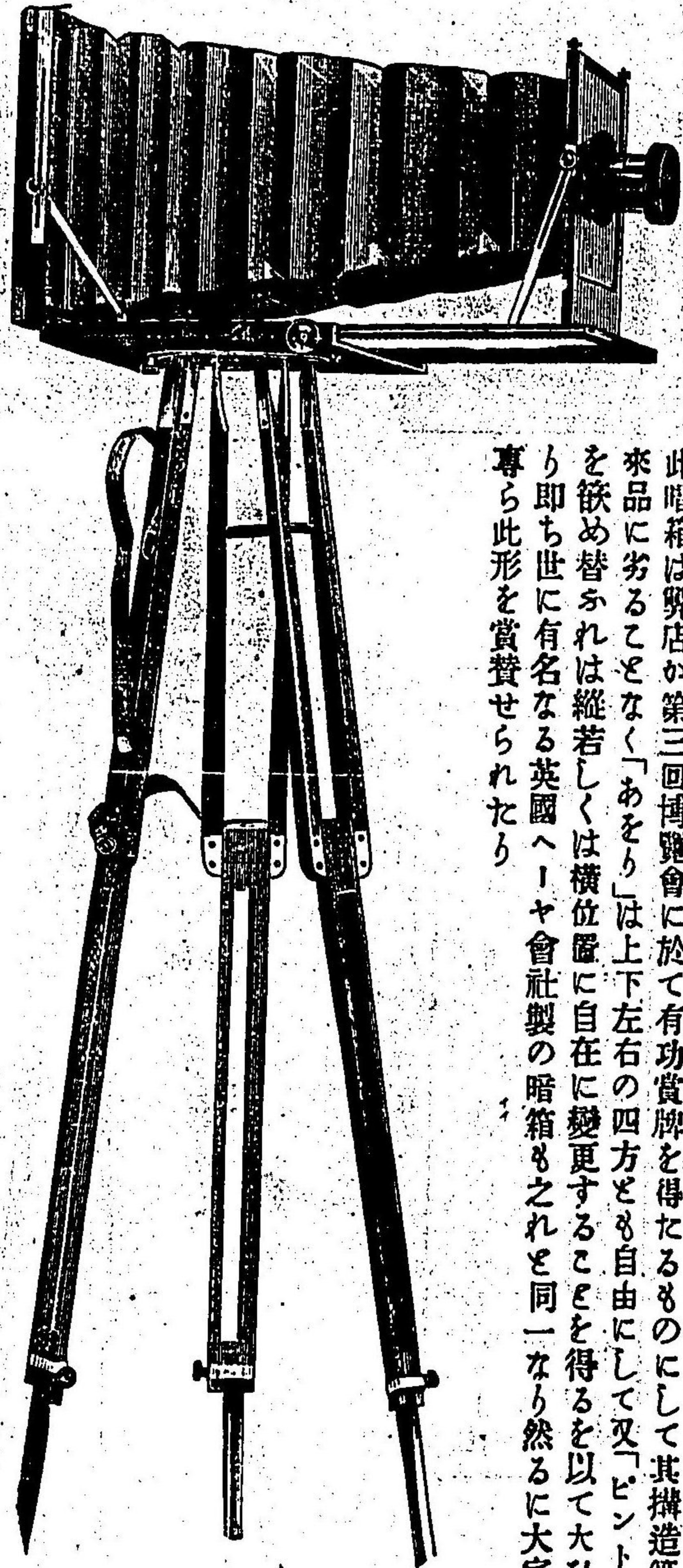
附屬品

ピント 枠 全紙用 壹個 四ツ切 壹個
片面濕板用取枠 全紙用 壹個 四ツ切 壹個

本邦	布製ジャバラ	革製ジャバラ
櫻材	百參拾圓	百四拾五圓

第 參 號

●淺沼製野外用暗箱



此暗箱は弊店が第三回博覽會に於て有功賞牌を得たるものにして其構造等更らに舶來品に劣ることなく「あそり」は上下左右の四方とも自由にして又「ピント」板の位置を嵌め替ふれば縦若しくは横位置に自在に變更することを得るを以て大ひに便利なり即ち世に有名なる英國ヘーヤ會社製の暗箱も之れと同一なり然るに大家寫眞師は専ら此形を賞賛せられたり

附屬品 兩面取枠 三個 三ツ折三脚臺 壹組 但三脚の材料は本邦櫻材なり

區別	本邦	櫻材	舶來マホカニ材
カビ子形	布製ジャバラ	革製ジャバラ	布製ジャバラ
六ツ切	貳拾五圓	貳拾七圓	貳拾七圓
四ツ切	參拾五圓	參拾參圓	參拾貳圓
半切	五拾五圓	五拾七圓	六拾八圓
全紙	七拾五圓	八拾五圓	八拾圓
			九拾圓

● 淺沼製野外用暗箱

此暗箱は第三號暗箱と共に有功賞牌を得たるものにして目今盛んに行はれ就中海陸軍に於て専ら賞用せらるゝ處のものなり其構造は第三號と殆んど同一なれども蓋其後部「ピント」硝子の部分に於ける装置を異にし縦横の位置を変更する際「ピント」板も取り外すことなく之れを回轉するの仕掛なり
但第一圖の「カビ子」形へは二ツ割の蜘蛛なれど第二圖四ツ切には丸形にて回轉の自在に出來得る蜘蛛なり覺めは第三圖の如し

號 四 第



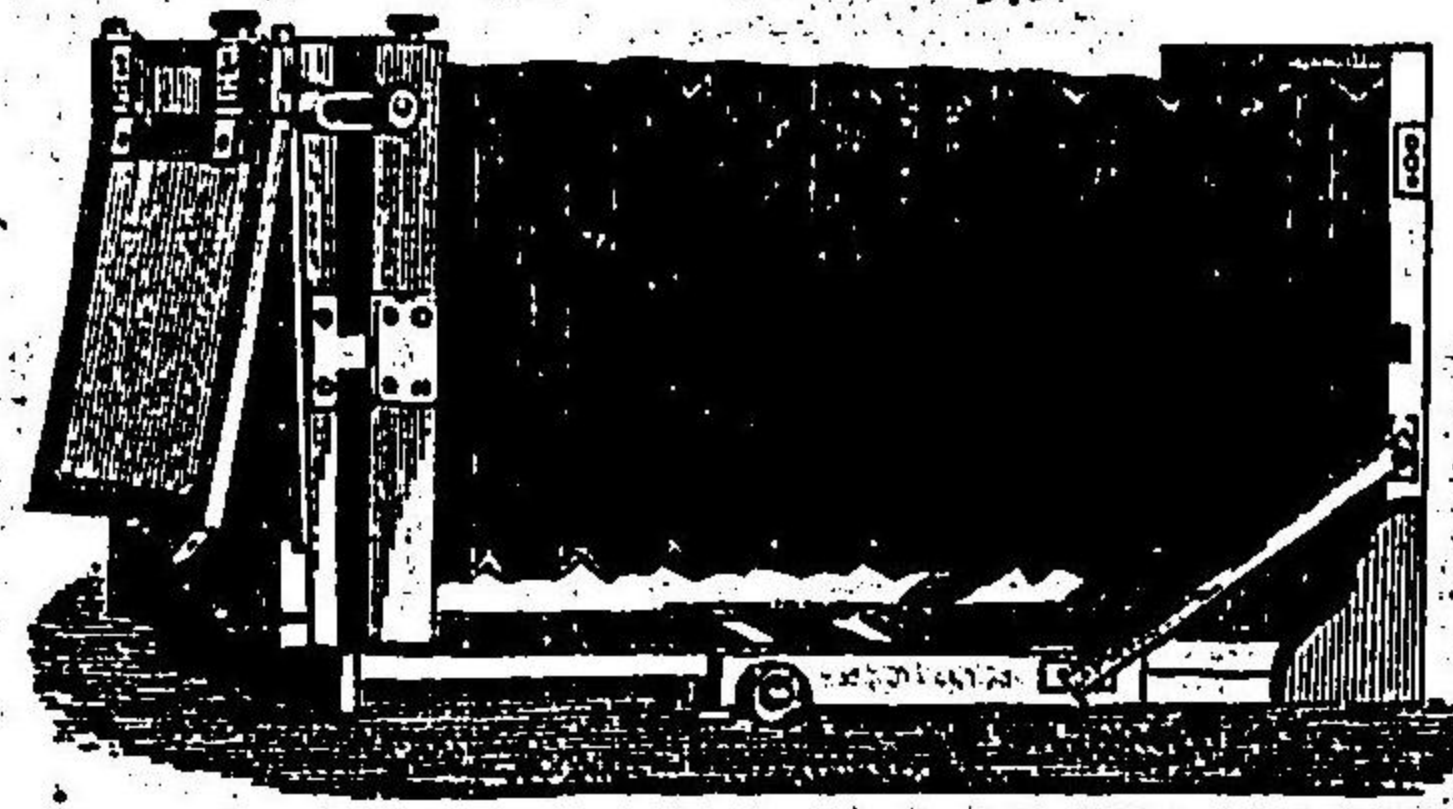
附屬品 兩面取枠 三個 三ツ折三脚臺 壹組
但三脚の材料は何れも本邦櫻なり

區別	本邦櫻材	舶來マホガニ材
カビ子形	參拾八圓	四拾壹圓
四ツ切	五拾八圓	六拾參圓

● 淺沼製野外及室内用暗箱

此暗箱は其「ジャバラ」前後共に同じ大さにして其伸縮は後部の右端にある螺旋棒にて爲し得るなり又縦横の位置を變するは「ピント」板の位置も微め替ふ「あそり」は前後左右の四方なり

號 五 第

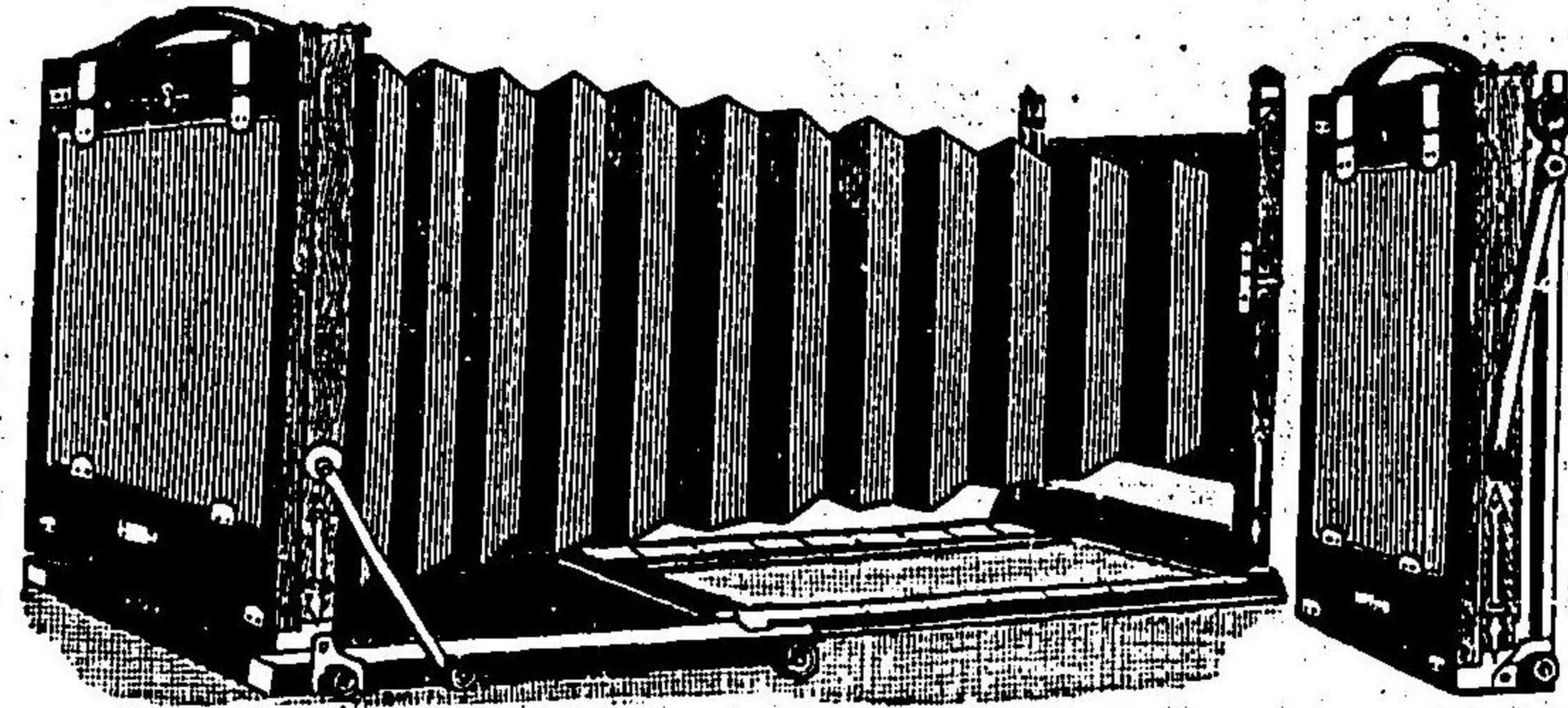


本邦櫻材布ジャバラ	カビ子代金拾九圓
	四ツ代金拾九圓
	全紙代金拾五圓
附屬品取枠兩面壹個	片面壹個

● 野外用暗箱

此暗箱は第三號暗箱に模製したるものなり上下の「あそり」自由なり又廉價にして携帶に輕便なり

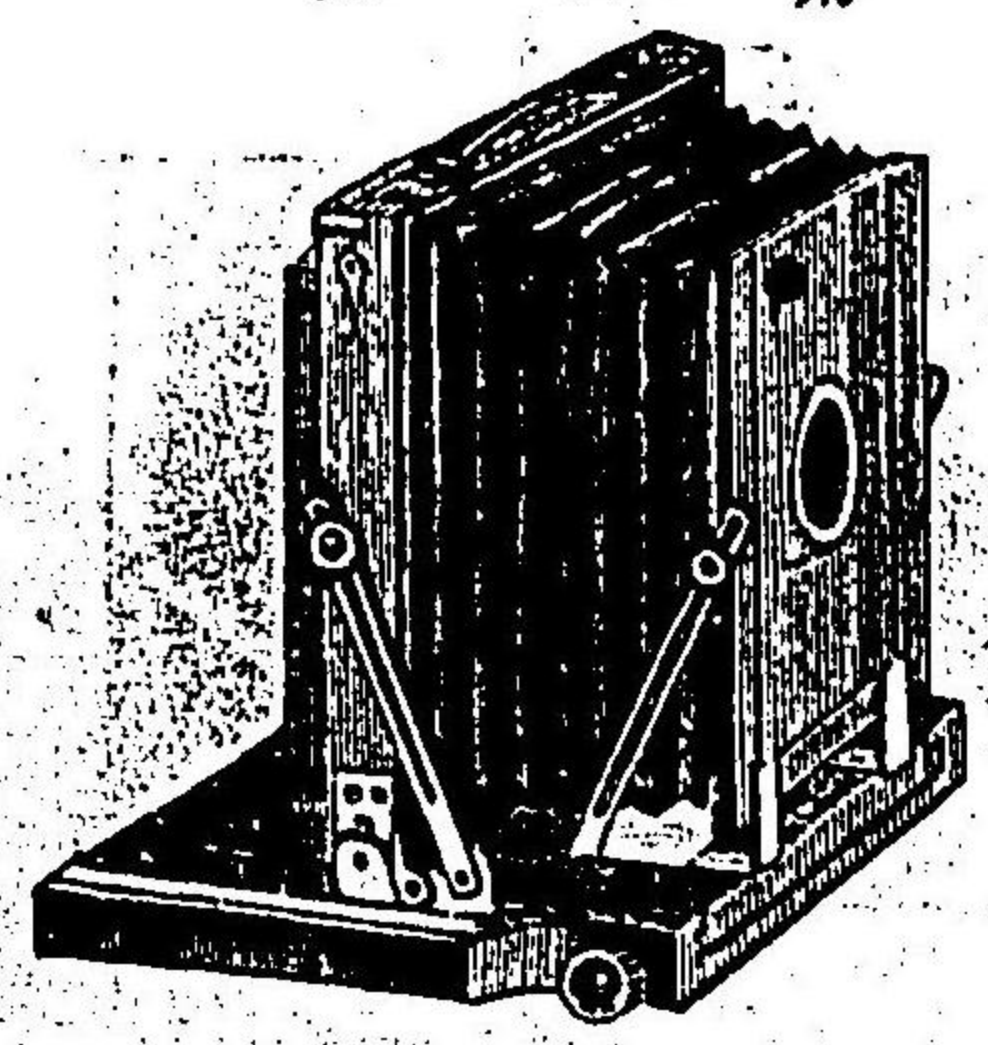
號 六 第



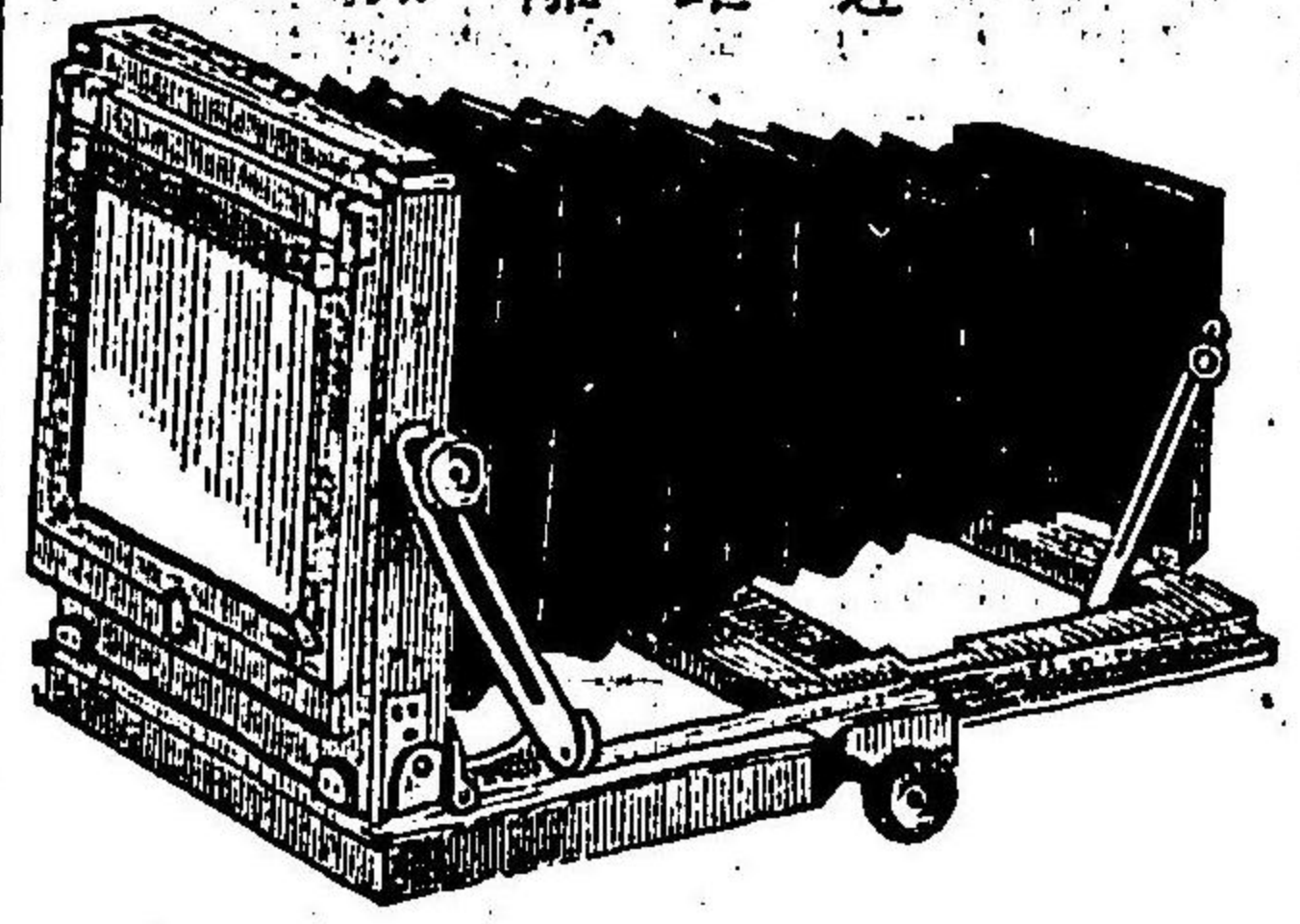
本邦櫻材布ジャバラ	カビ子代金拾七圓
	四ツ代金拾七圓
	全紙代金拾五圓
附屬品取枠兩面三個	

● 淺沼製野外用暗箱
 此暗箱は前部及後部の兩所ともに伸縮し得るの装置なるを以て廣角鏡玉を用ひて寫さんとすの際前後の兩部を接近せしむると容易なり且つ通常の暗箱に於ては見ざる處の即ち鏡玉の欲めある前後板にも「あをり」の仕掛あるを以て一層便利なりとす縦横の位置も變更するに「ピント」板の位置を欲め替へて爲し得るなり
 附屬品 兩面取枠 三個

第七號

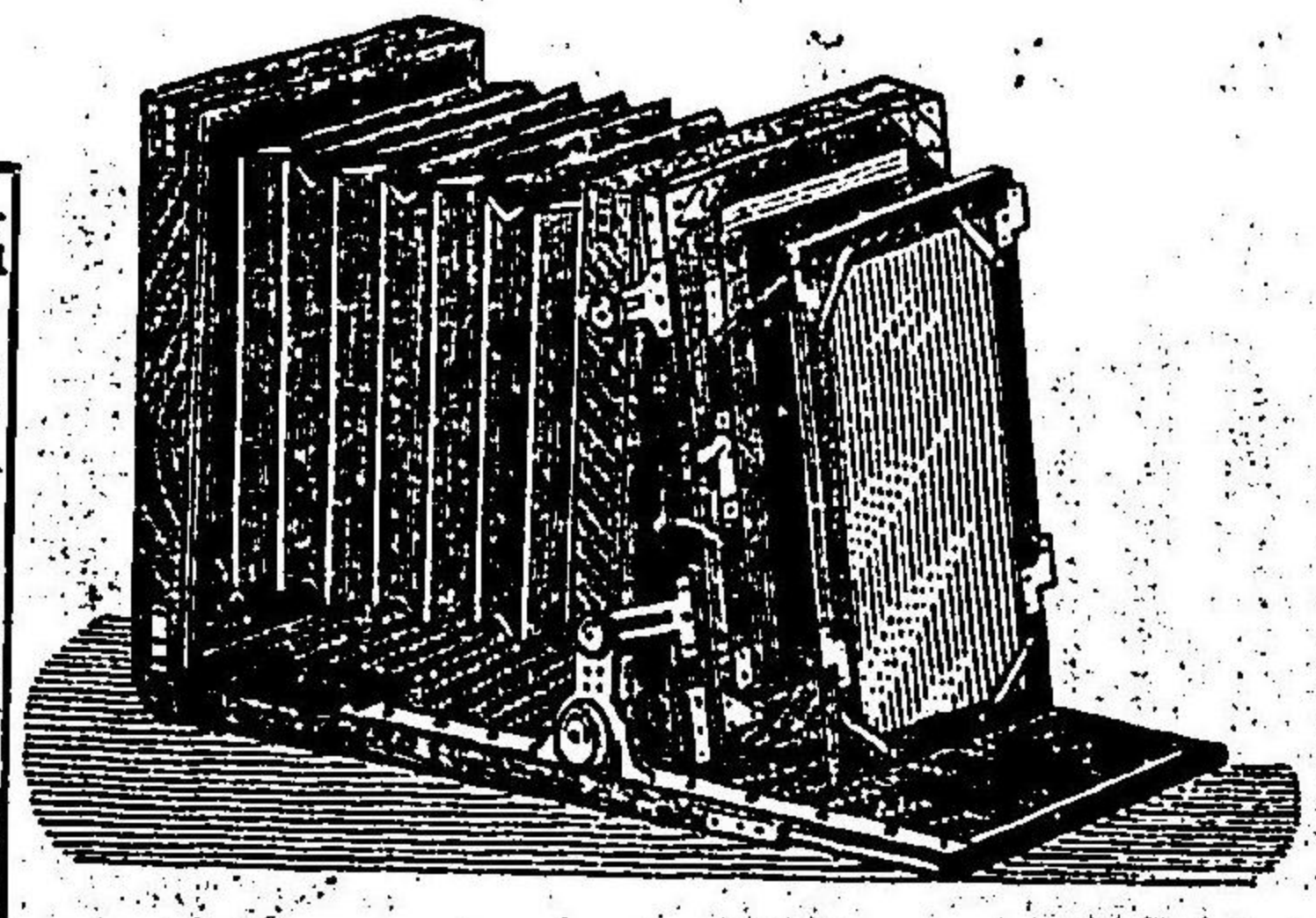


近距離用



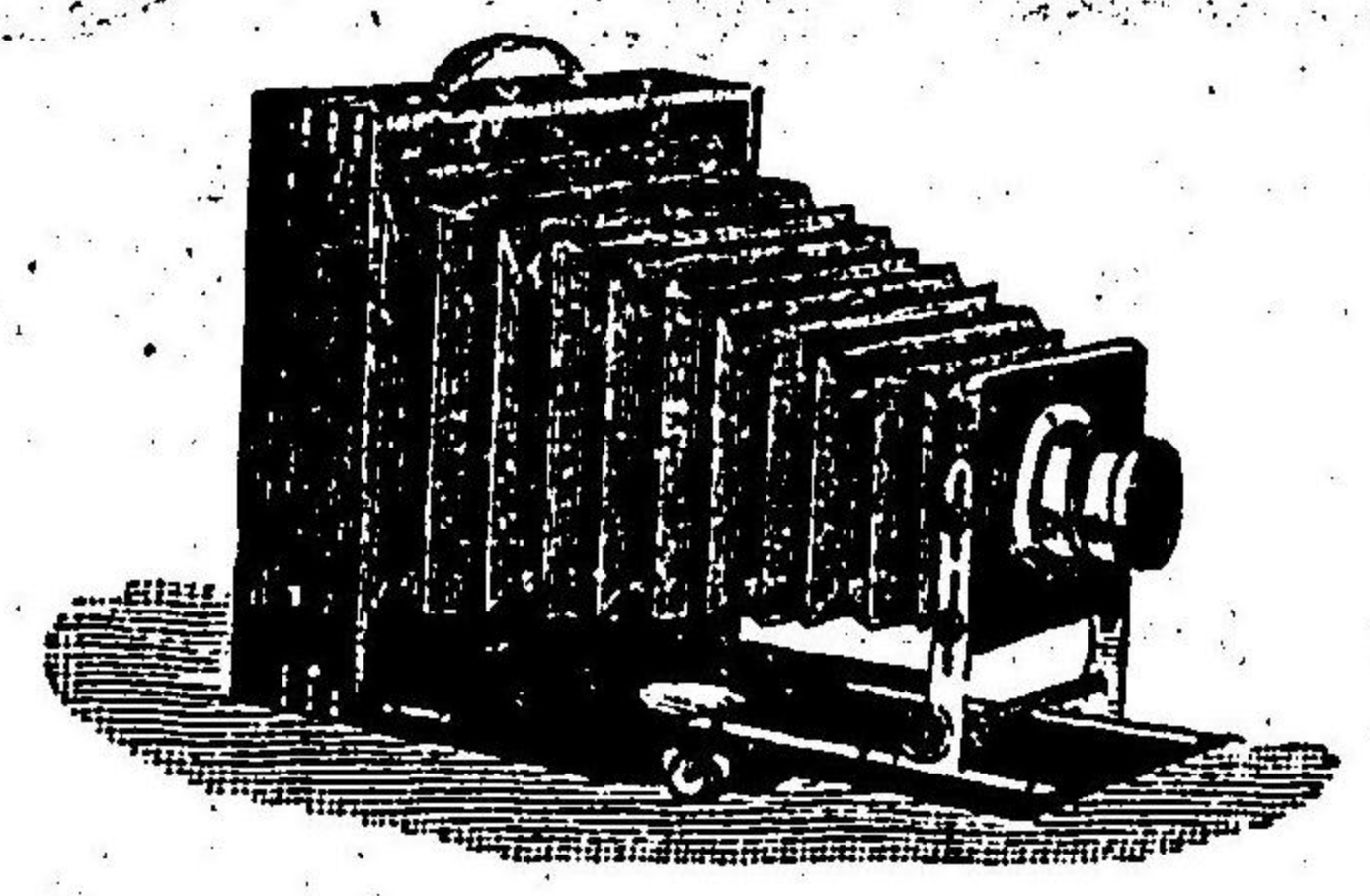
區別	布製ジャバラ	革製ジャバラ
カビチ	本邦	本邦
形用	船米マホ	船米マホ
四ツ	廿拾貳圓	貳拾五圓
切用	廿拾四圓	貳拾六圓
	參拾四圓	參拾五圓
	參拾八圓	參拾八圓

● 淺沼製野外用暗箱
 此暗箱は第五號暗箱の如く後部に於て伸縮するものにして「あをり」は前後左右共に自在なり又「ピント」板は四個の蝶番ひにて取付けあるを以て取枠を欲め替ふる際之れを前部より引出すのみを以て爲し得るに依り大ひに便利なりとす且つ縦横の位置を變するに「ピント」板の位置を欲め替ふるのみにて爲し得るなり
 第六號



區別	本邦櫻材布ジャバラ
カビチ	本邦
形用	船米マホ
四ツ	貳拾四圓
切用	參拾參圓

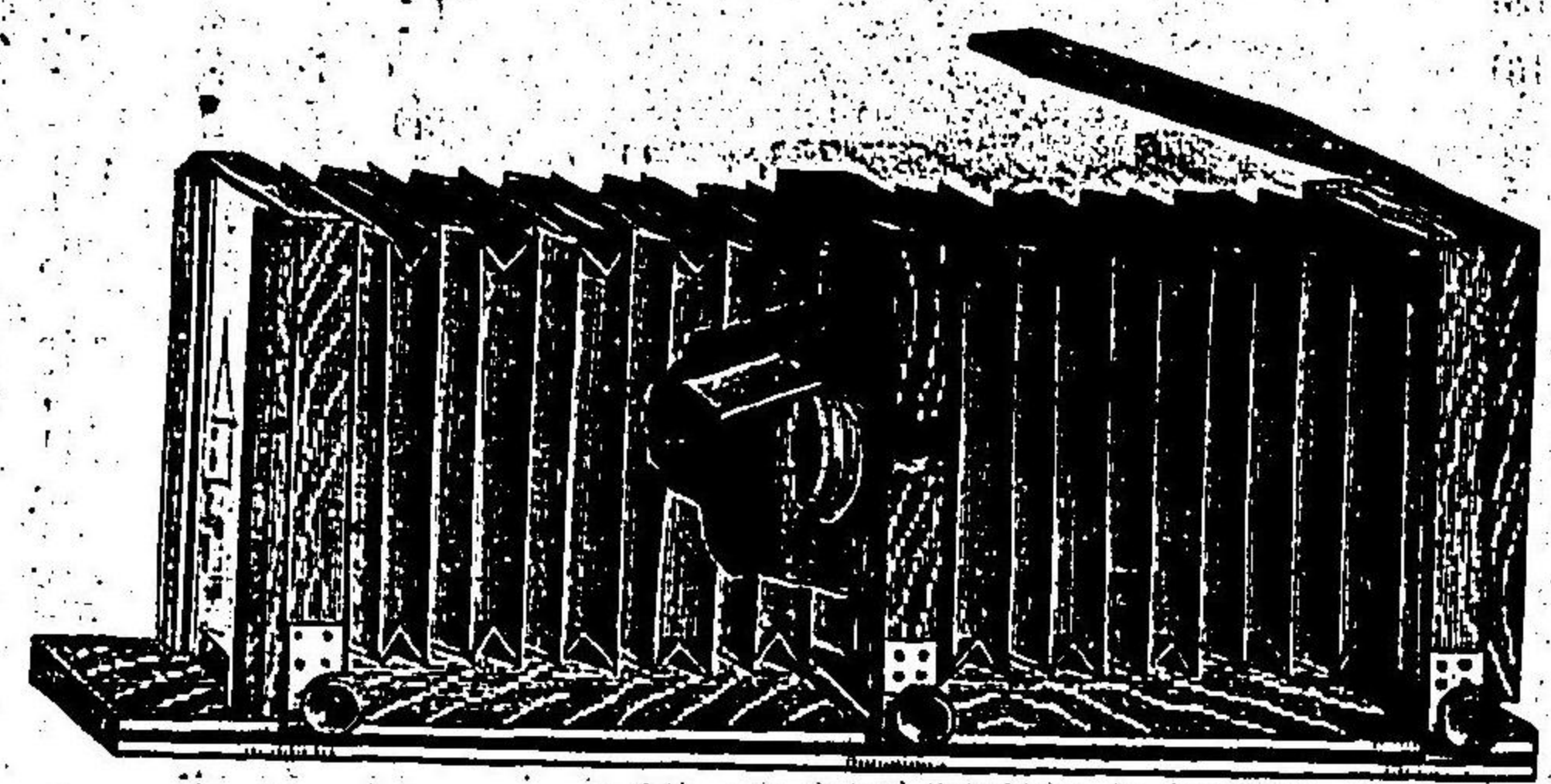
附屬品
 兩面取枠三個



● 淺沼製幻燈映畫用暗箱

此暗箱は幻燈映畫板製造其他種板の引延し若しくは引縮めたる復寫等に專用するものなり
 附屬品 片面取枠 二個

第九號

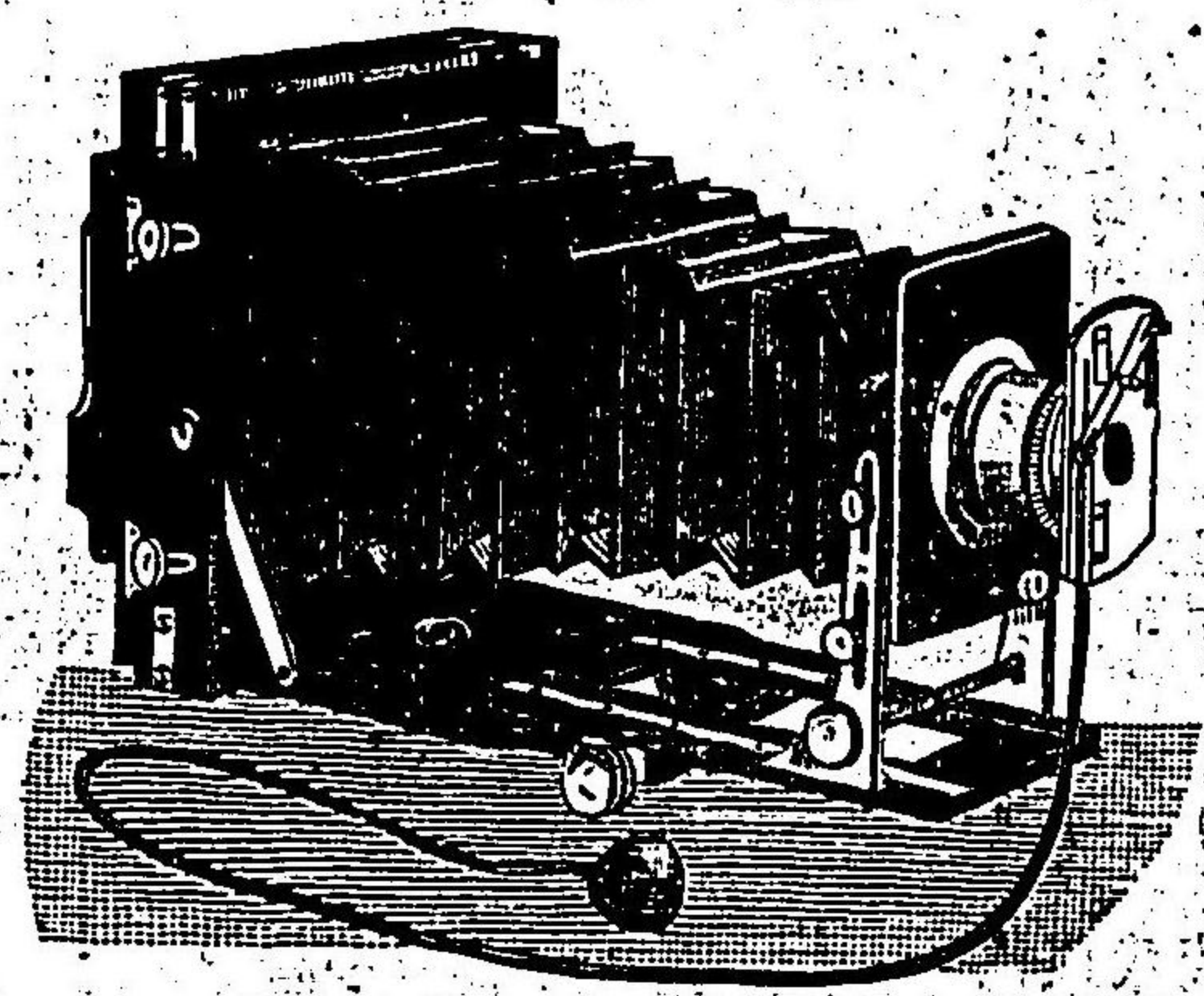


手札カビチ形迄
 代價金貳拾八圓
 四ツ切用
 代價金四拾五圓

● 淺沼製野外用暗箱

此暗箱の装置は第八號暗箱と殆んど同一なり前部の鏡玉を欲めたる板は上下にも移動し得るを以て大ひに便利なり
 附屬品 兩面取枠 三個

第十號

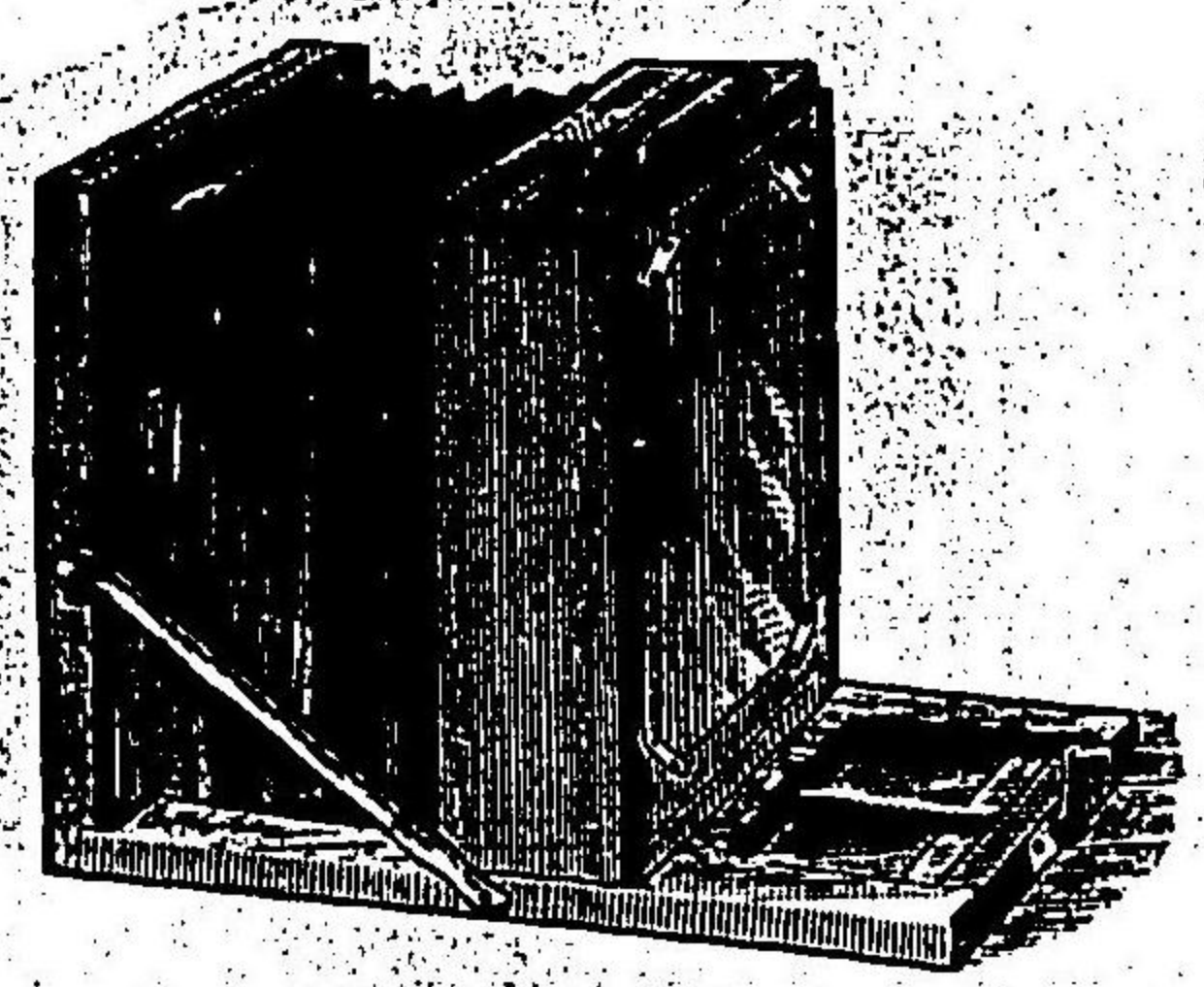


手札形
 代價金貳拾圓
 カビチ形
 代價金貳拾八圓

●浅沼製室内外兼用暗箱

此暗箱は第五號暗箱と殆んど同一なれども價の廉ならんことを主としたれば「ジャバラ」を伸縮すへき螺旋棒並に「あそり」の備なし

第拾壹號



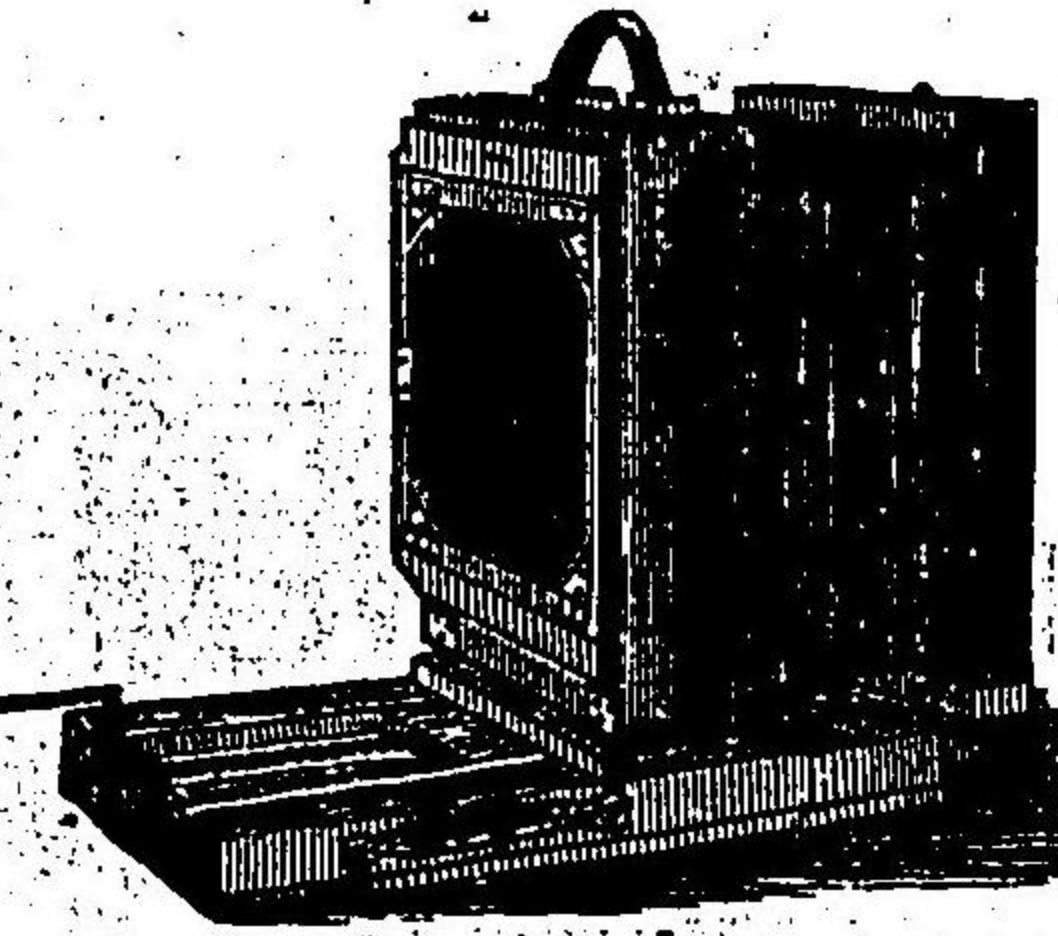
附屬品

- 兩面乾板用取棒 二個
- 片面濕板用取棒 壹個
- 布製ジャバラ 螺旋棒付 代價金拾圓
- カビ子形用 全ナシ 代價金七圓五拾錢
- 全 螺旋棒付 代價金貳拾貳圓
- 四ツ切用 全ナシ 代價金拾八圓

●浅沼製室内外兼用暗箱

此暗箱は携帯するにも輕便なるを以て室内外の用に供することを得るなり

第拾貳號

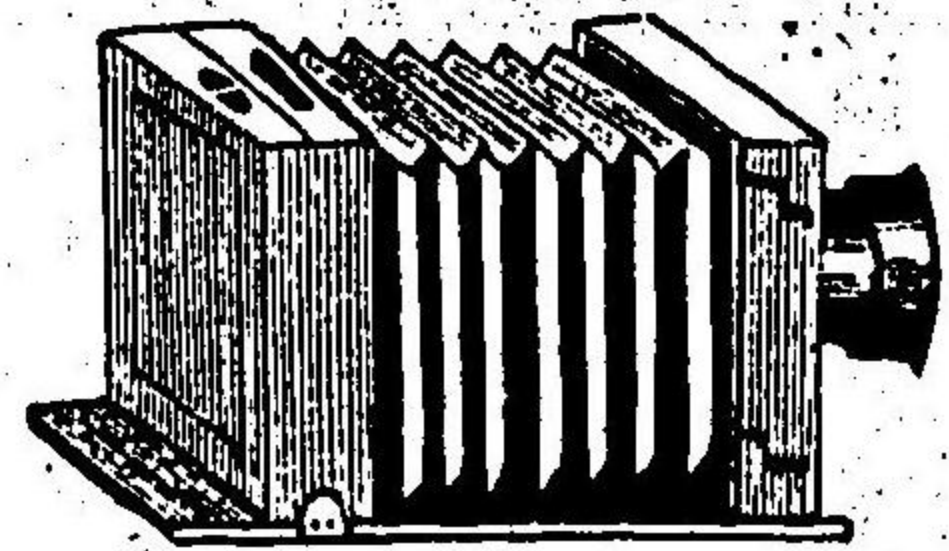


「あそり」は前後のみに動くものと前後左右の四方に動くものとあり又「ピン」板の位置を欲め替はれは堅若しくは横位置と意のままにすことを得るなり

- 附屬品
- 兩面乾板用取棒 貳個
- 片面濕板用取棒 壹個

- 布製ジャバラ 二方アオリ 代價金拾八圓
- カビ子形用 四方アオリ 代價金貳拾五圓
- 全 二方アオリ 代價金貳拾五圓
- 四ツ切用 四方アオリ 代價金三拾五圓

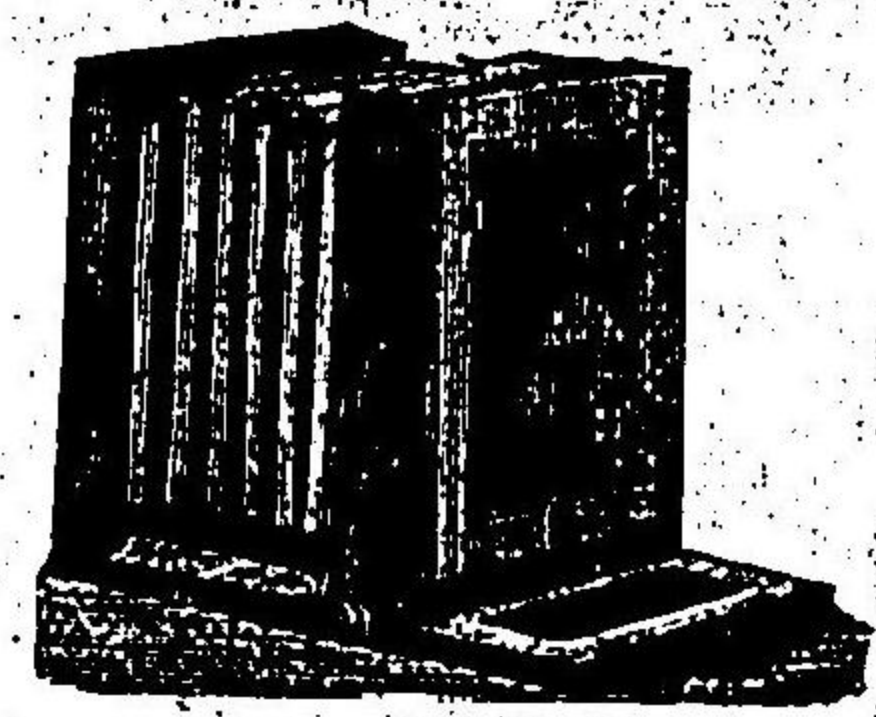
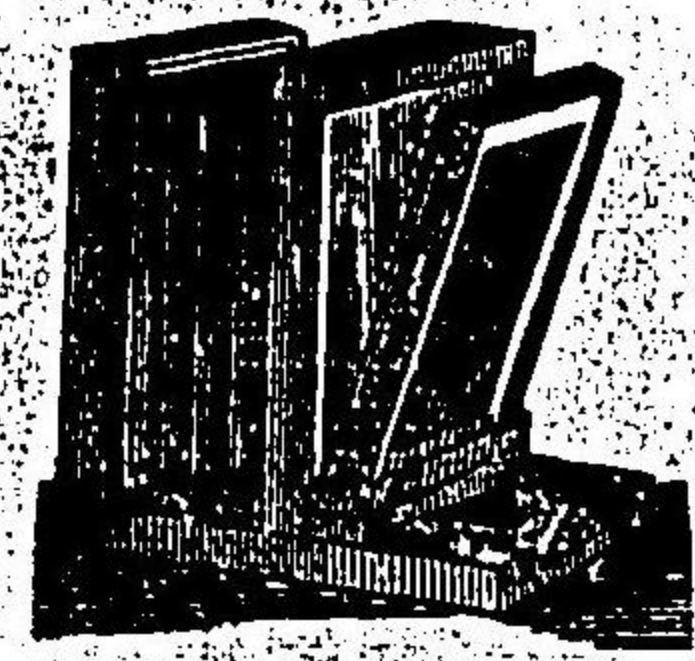
●安價暗箱



●浅沼製寫眞器械一ト揃

此器械は初めて寫眞術を學はんとする人には極めて適當のものにして左の要用なる器械一ト通りを具備す外に藥品一ト通りの代價は凡五圓位より調進致すべし此器械は比例を出せしものにて鏡玉及び暗箱にも種々有之ものに候得共御望みに従ひ何れにも差替可申候

第拾參號



- 附屬品
- 鏡玉 壹個
- 三脚 壹組
- 平バット 三個
- 燒板 壹個
- 種板掛 壹個
- 暗箱 壹個
- 兩面取棒 三個
- 暗室用ランプ 壹個
- メートルコップ 壹個

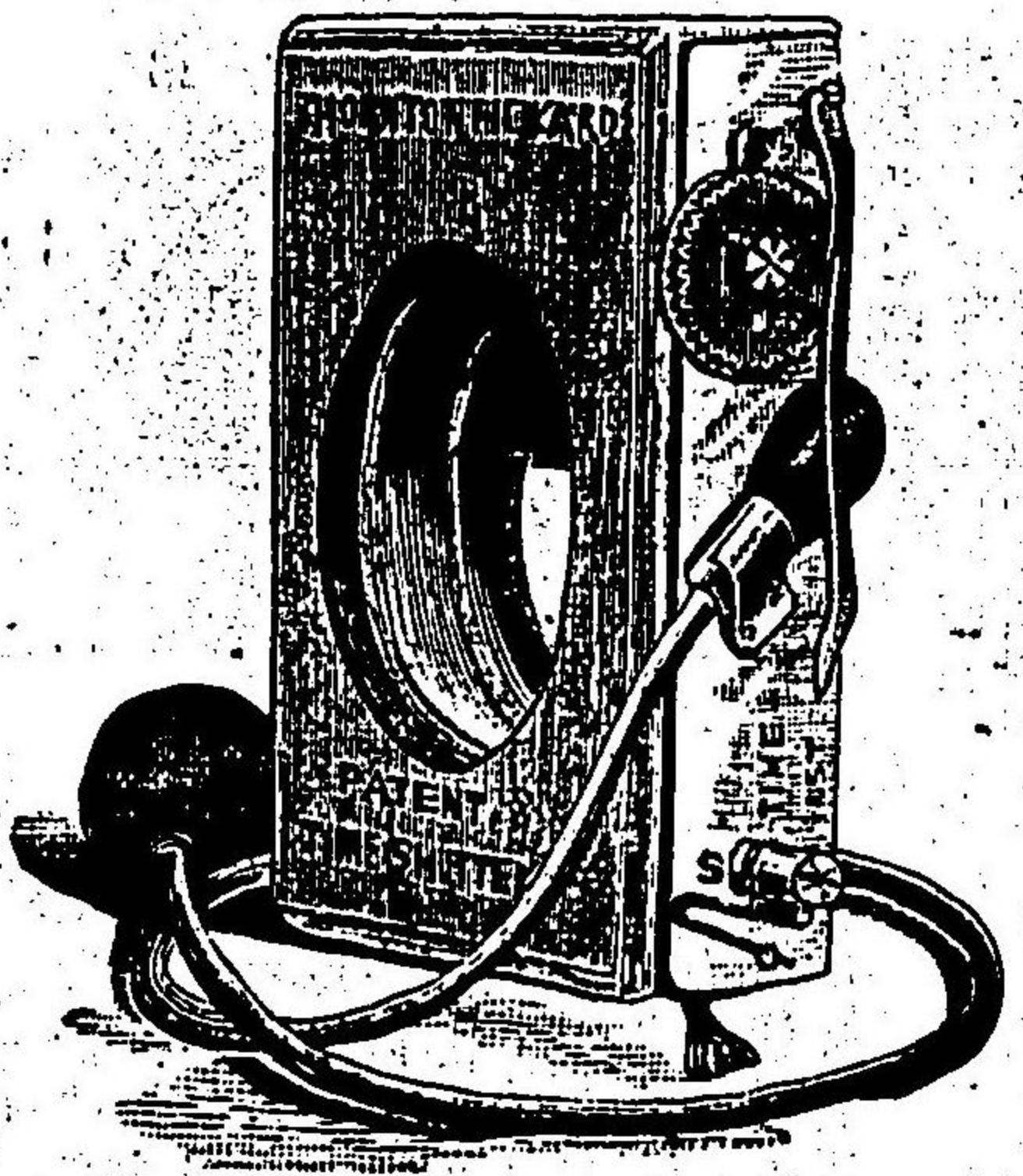
區別	相判方寫ル	カビ子形
甲號	拾五圓	貳拾五圓
乙號	貳拾五圓	參拾五圓

●舶來ソントン、ヒツカード、ダイヤモンド、シヤッター

此シヤッターは鏡玉の蓋の代りに其部分に徹め通常の寫度を與ふる場合及び早取ともに兼用することを得るなり又早取寫度の遲速も意の如く加減することを得べし

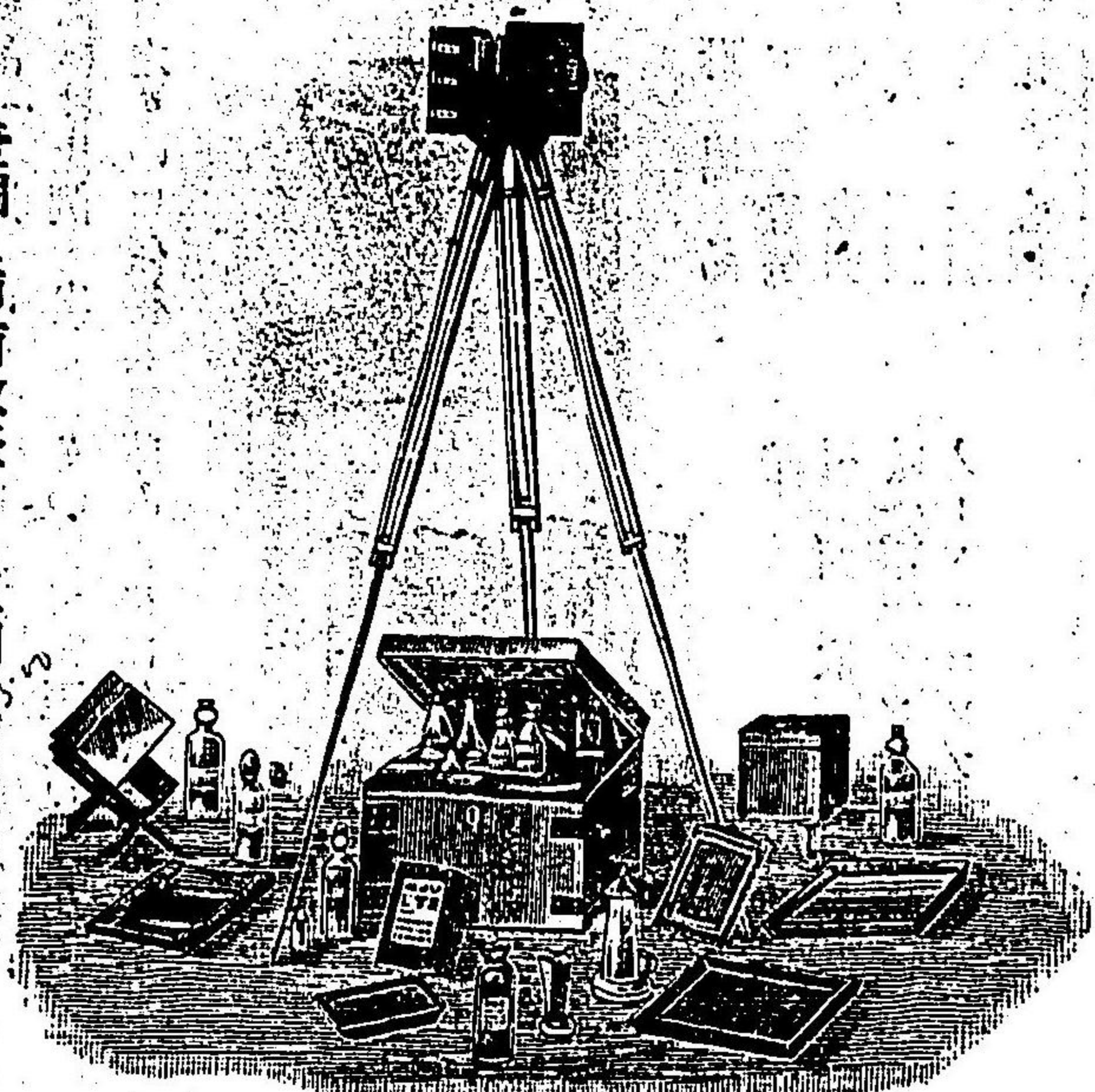
此シヤッターは過くる二年間に於て英國にて使用者一萬以上に達したると云ふ其世に賞用せらるゝ推して知るべし

第拾肆號



代價金

● 淺沼製携帶用寫真器械一ト揃
第拾五號

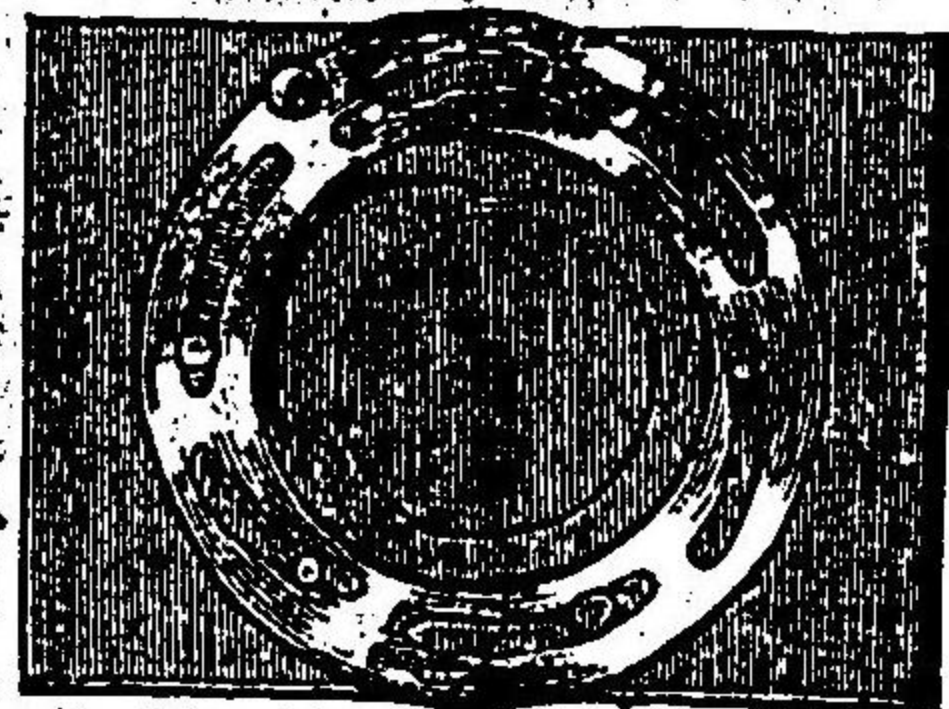


暗箱 壹個
三折三脚 壹組
三脚 壹個
暗板 壹個
暗箱及三脚外箱並に附屬品入外箱付鏡玉暗箱等御望みに従ひ差替可申候

此器械は殊に携帶に適し且つ鏡玉等も上等のものを付けたる如き構造の如き携帶の便なる

別	區
甲	乙
八拾貳百圓	八拾貳百圓
八拾貳百圓	八拾貳百圓

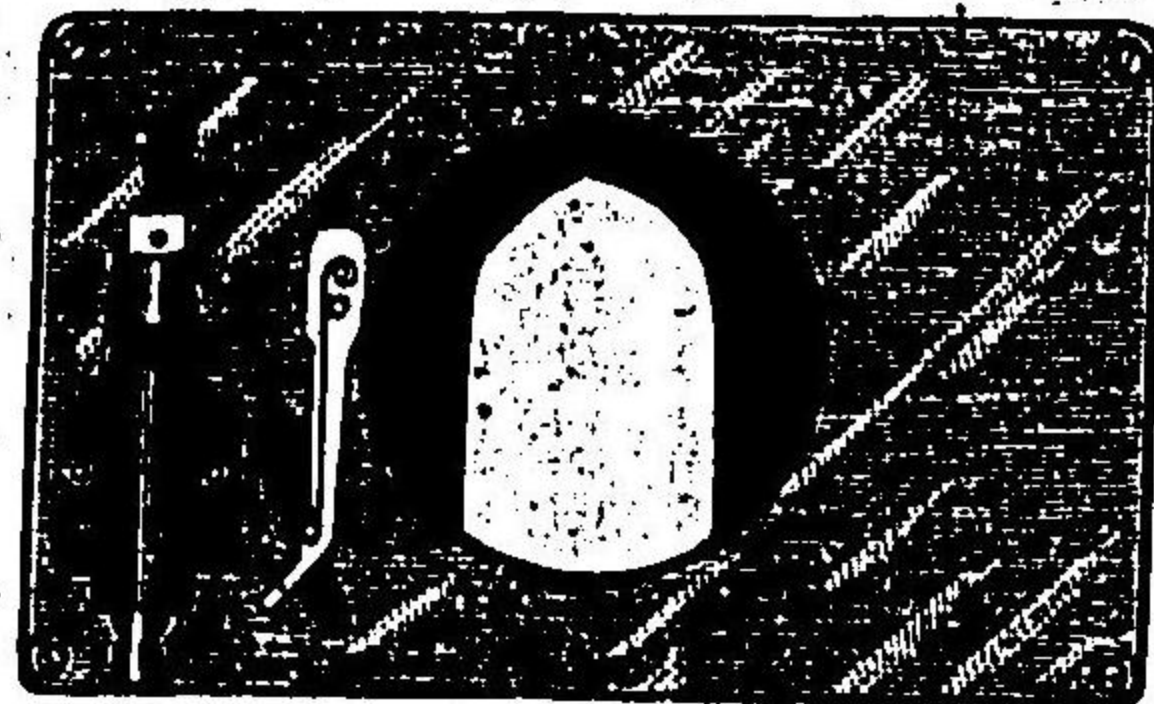
● 第六拾號



此取付板はロー、シヤッター及びカメラに用ゆるに鏡玉の取付に自由なり此取付板は鏡玉の取付に自由なり此取付板は鏡玉の取付に自由なり

● 取付板

● 第七拾號

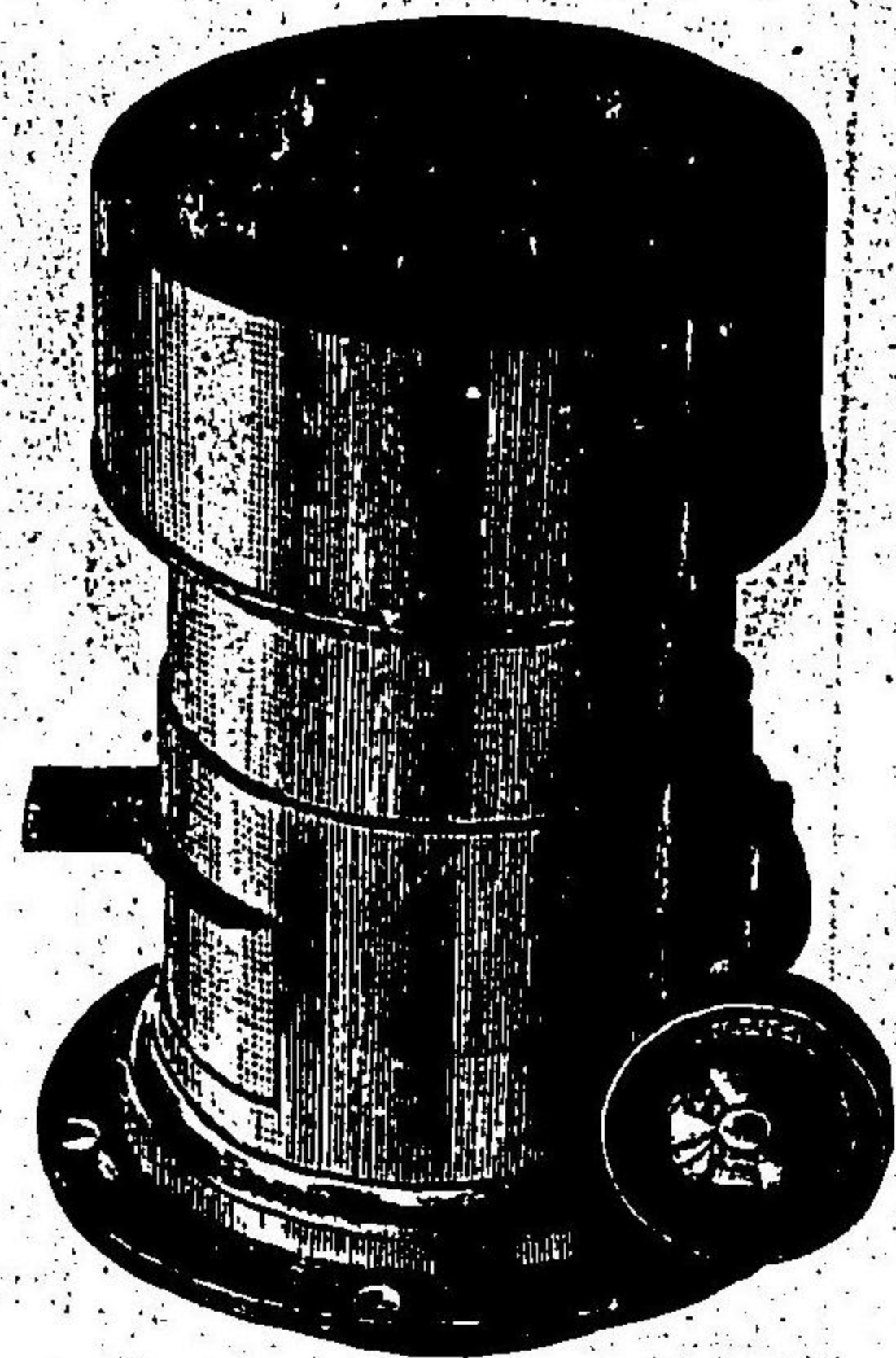


此ロー、シヤッターは暗箱の前板の内部に取付くるものにして撮影の距離を隔て、使用の距離を得るなり又真鍮製の小さな針を出入するに依り通常の高度の場合並に早取りに兼用することを得るなり

● 室内人像用鏡玉

此鏡玉は人物を撮影するの爲めに製造したるものにして其速度は極めて大なり且つ此鏡玉を用ひて撮影するときは他の鏡玉を用ひて寫したるよりも畫像浮き上りたるか如く一層美麗なる印畫を得るものなり

● 第八拾號

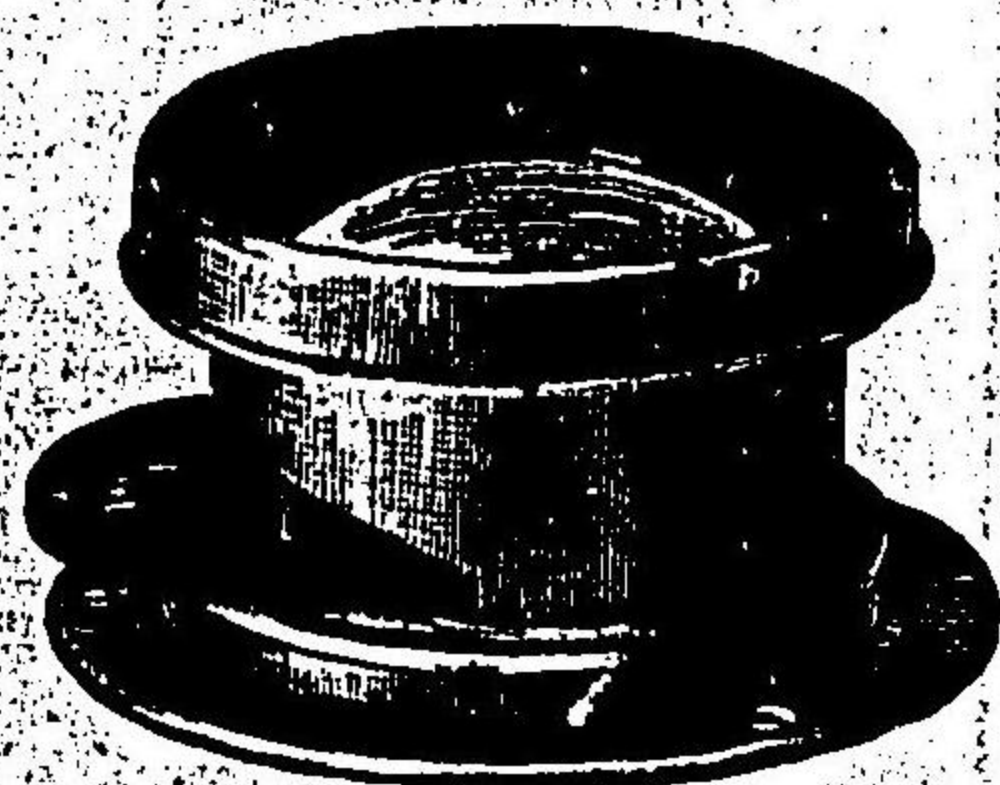


區別	手札	カビ子	四ツ切	全紙
タルメヤ	九拾五圓	百八拾圓	三百三拾圓	六百五拾圓
ヘルマ	貳拾八圓	五拾圓	百六拾圓	貳百八拾圓
英國製	五拾圓	百圓	貳百圓	四百圓
佛國製	拾八圓	四拾圓	百貳拾圓	貳百圓

● 近距離用廣角鏡玉

此鏡玉は其速度は大ならざるも角度廣きを以て距離なき場所に於て全景を寫し込まんとする場合等即ち室内の撮影等には必用の鏡玉なり

● 第九拾號



區別	カビ子	四ツ切	半切	全紙
タルメヤ	四拾圓	六拾五圓	百貳拾圓	百九拾五圓
ローズ	四拾五圓	六拾八圓	百參拾圓	貳百圓
英國製	參拾圓	五拾圓	九拾圓	百七拾圓
佛國製	貳拾圓	參拾五圓	五拾圓	百拾圓

●速直鏡玉

此鏡玉は二個の鏡玉より成立ち其速度は大なるを以て早取り寫具を作るには殊に必要のものなり其他人物撮影及び何等の場合にも適用せらるゝを以て實に便利なるものとす此鏡玉に附屬しある絞りには一々中間の穴へ挿入するものと又いりすとて唯回轉するのみて自由に鏡玉の口徑を伸縮することを得るものとの二種あり

號拾貳第

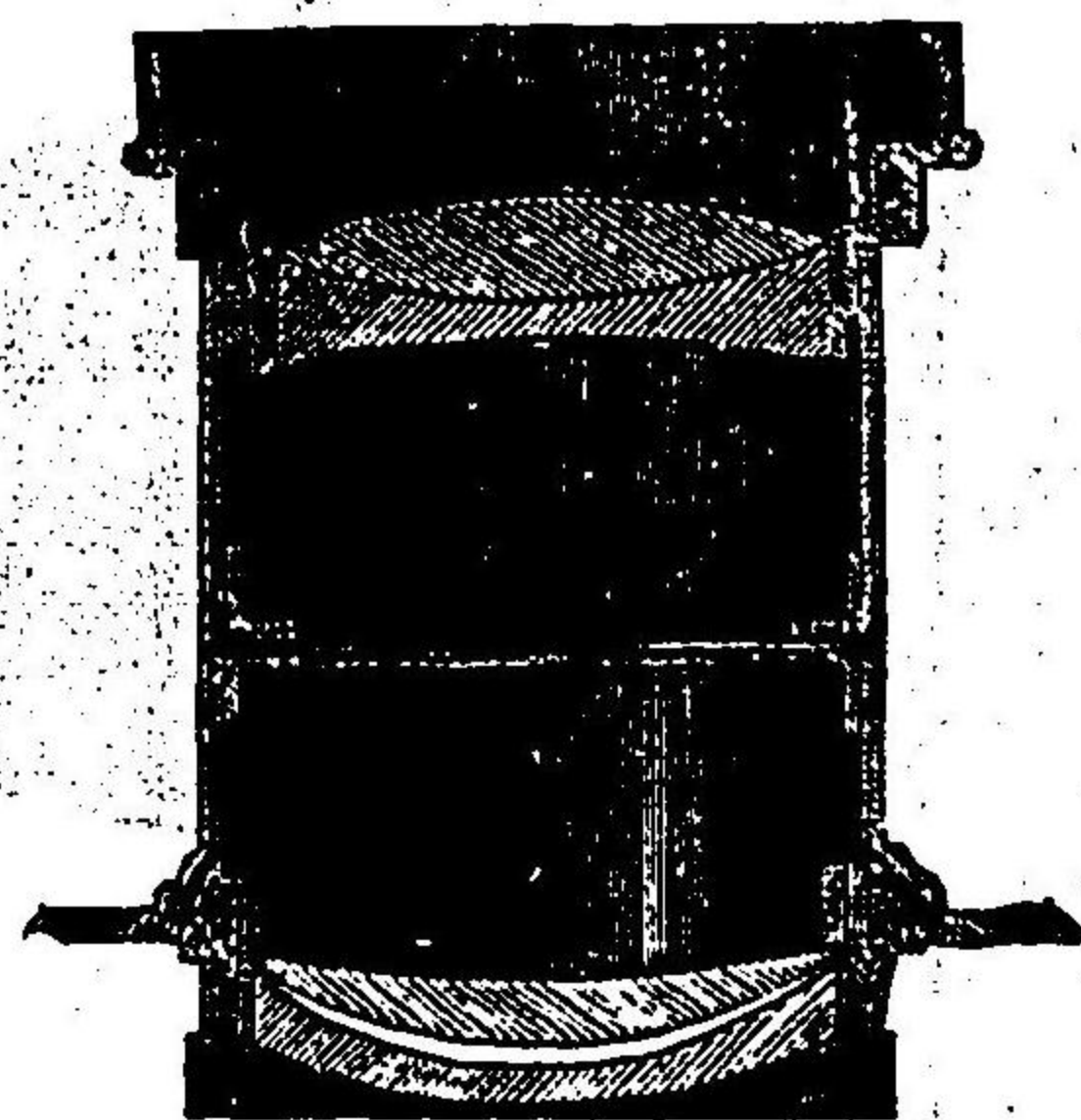


區別	手札	カビ子	四ツ切
タルメヤ	參拾八圓	六拾圓	百拾圓
英國製	參拾圓	五拾圓	七拾圓
佛國製	拾圓	貳拾圓	參拾圓

●速直鏡玉

此鏡玉は二個の鏡玉より成立たるものにして第十八號第二十號の鏡玉の間に位せる鏡質にして寫度も速かに寫し得らるゝ至極便利なり

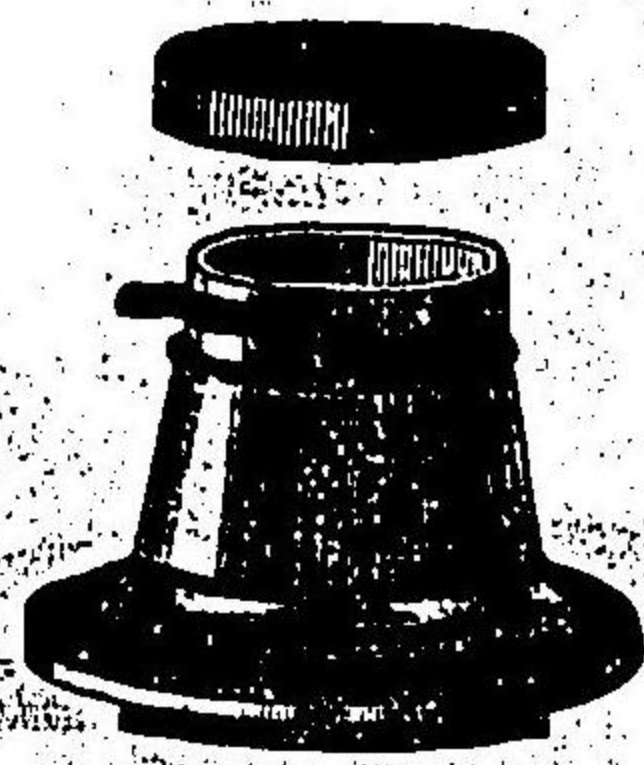
圖壹拾貳第



區別	カビ子	四ツ切	半切	全紙
タルメヤ	五拾五圓	九拾五圓	百八拾圓	貳百八拾圓
ステンヘル	四拾圓	六拾五圓	百貳拾圓	貳百圓
佛國製	貳拾圓	參拾五圓	七拾圓	百貳拾圓

●單玉鏡玉

號貳拾貳第

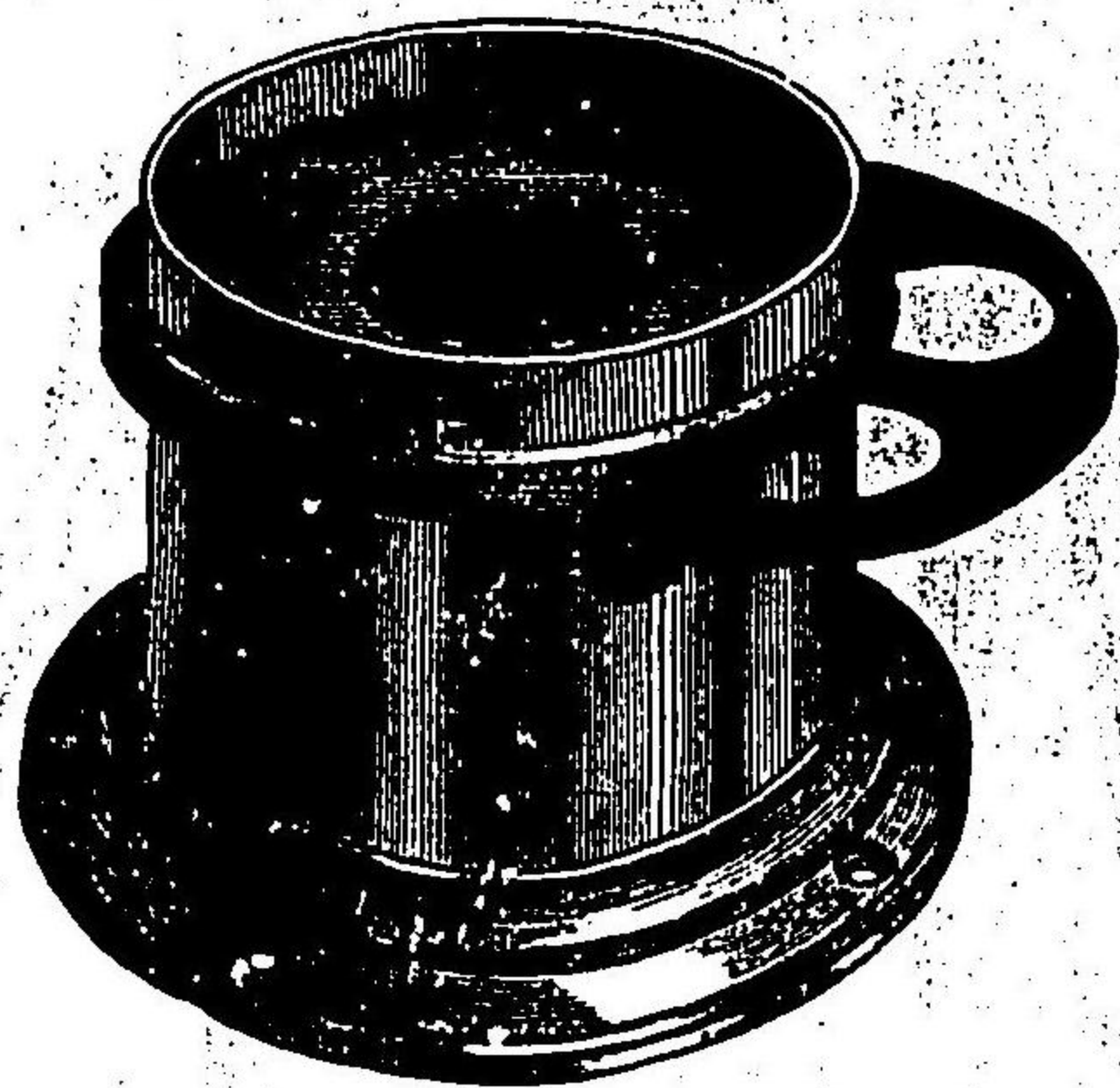


此鏡玉は普通一般に景色撮影等に用ゆるものにして大抵の場合に於て角度の廣狹寫度の速度も更に差支あることなく集合人物等の撮影を爲すことを得へし

紙全	切ツ四	子ビカ
圓拾八	圓拾三	圓貳拾

號參拾貳第

●單玉鏡玉



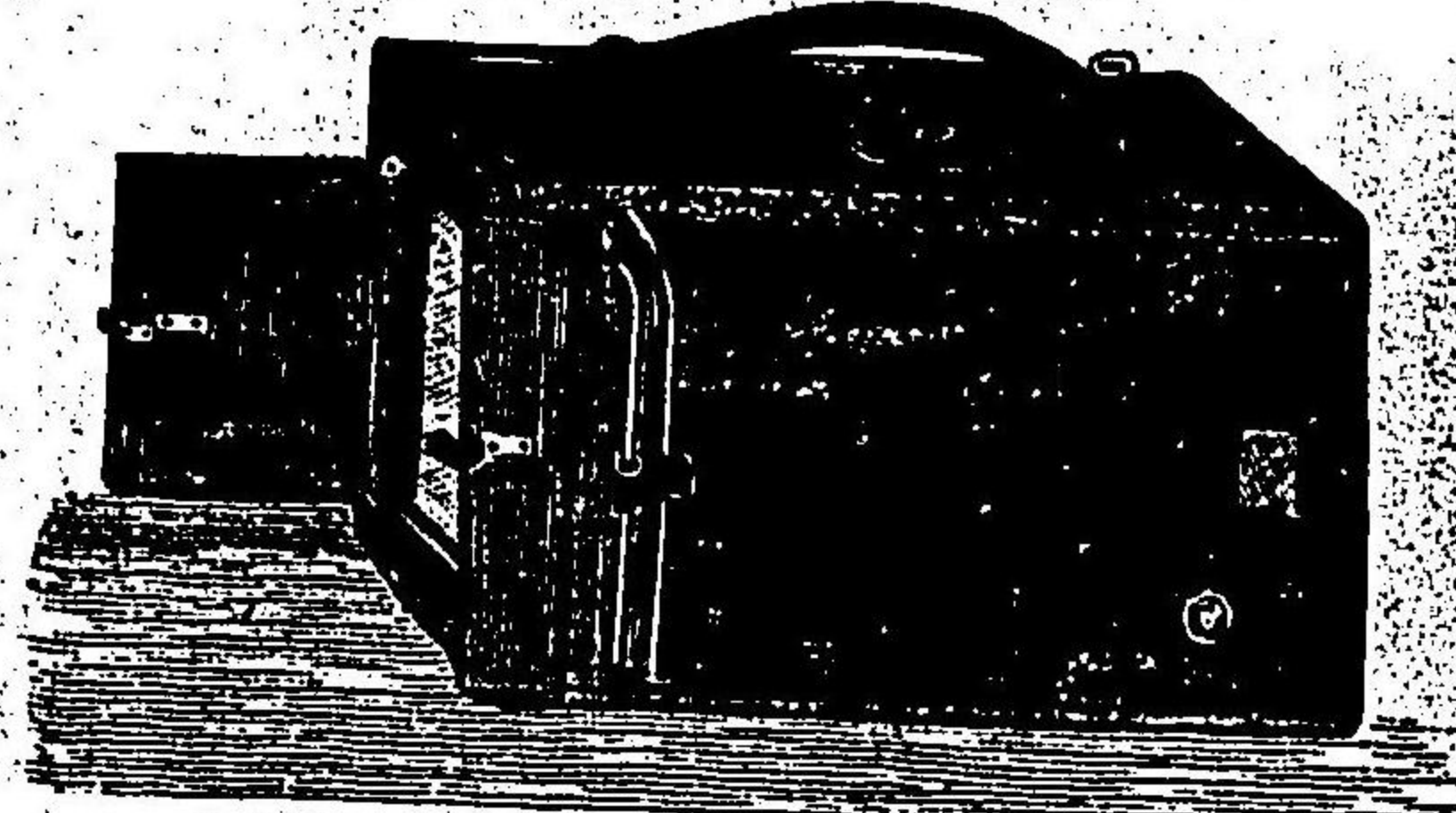
此鏡玉は單玉にして遠近を問はず景色撮影に用ゆるを適當とせり又價も廉にして輕便の鏡玉なり

紙全	切ツ四	子ビカ
圓拾六	圓五拾貳	圓拾

鏡玉名稱	區別	鏡玉種類
ダルメヤ		室内人像用
ロツス		集合人像用
ステンヘル		景色用
ヘルマジース		室内近距離用
ワイチング		野外遠景用
ベスト		廣角圖取用
シュター		遠景ヲ廣角用
オークランド		近距離廣角用
アルバー		幻燈用
デロジ		顯微鏡寫真用
ランカスター		景色速寫用
アサマ		人像速寫用

上段名稱の鏡玉を特約し廣く本邦に販賣し諸彦の御愛顧に報す

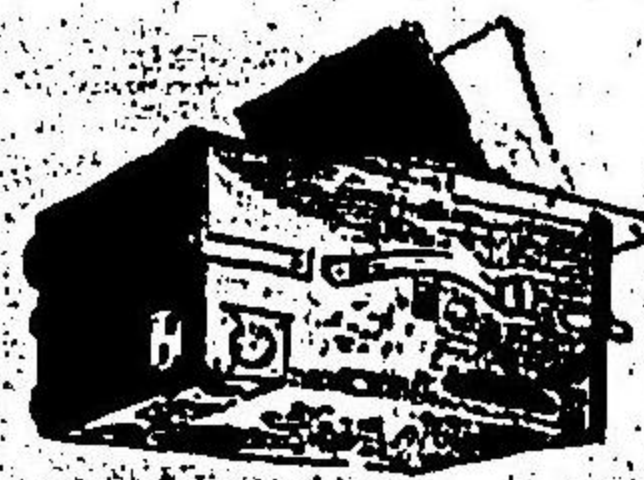
第 貳 拾 九 號



手札形
代價金
二枚掛形
代價金

此暗箱は第廿八號の如きも乾板は通常の取枠にて後部より挿入するの仕掛なり

第 貳 拾 八 號

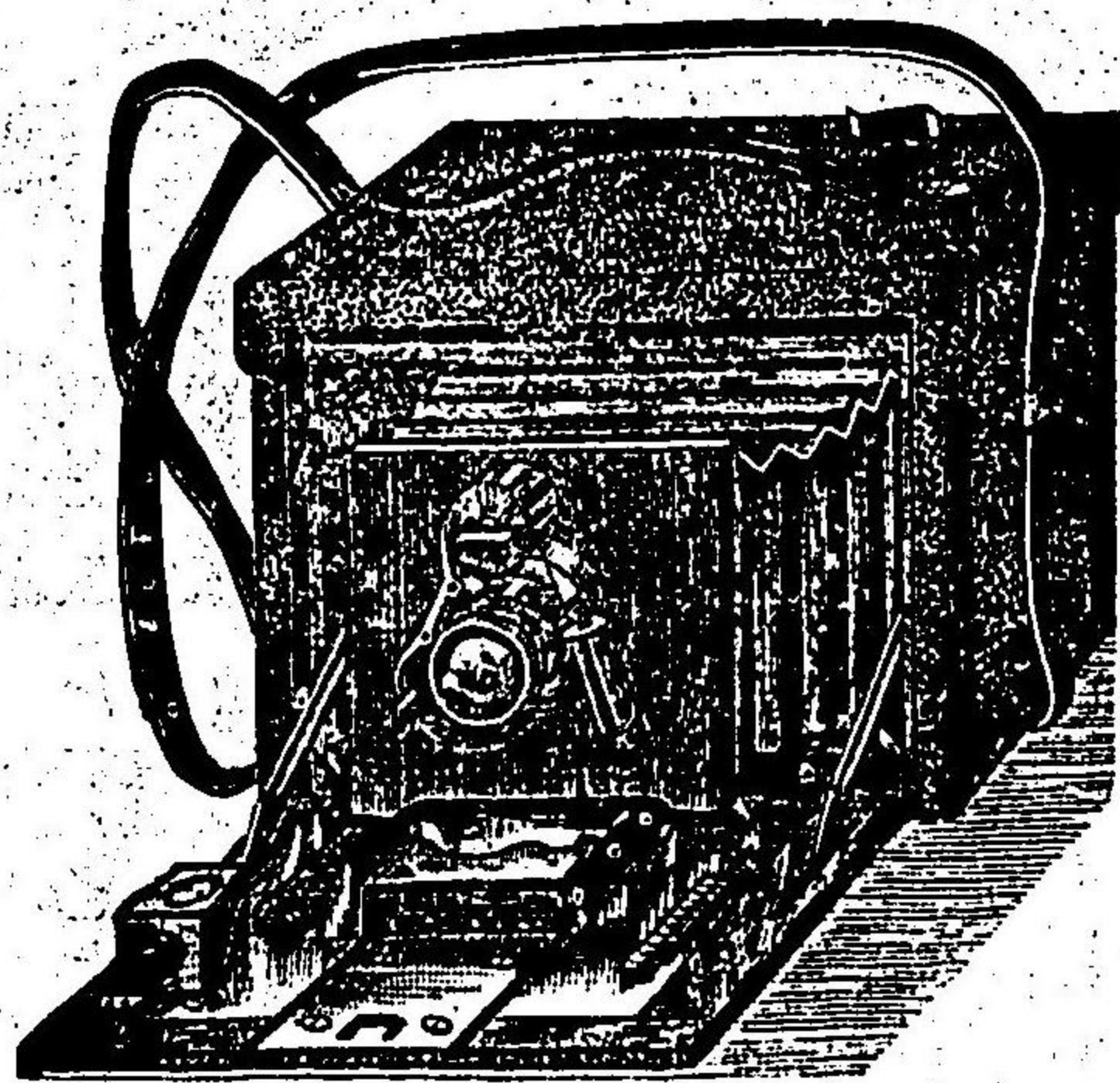


● 全上

● 舶來手提暗箱

此暗箱は取枠を要することなく只其後部に十二枚の乾板を入れ置き撮影の都度横面の蓋を開き少なき革袋にて後へ送り漸次に撮影し得るの仕掛を有するなり又迅速なるシヤターあり其外ピント板の代に見出し鏡玉の附屬しあるを以て撮影の都度焦點を合するの勞なし
手札形代價金
カビ子形代價金

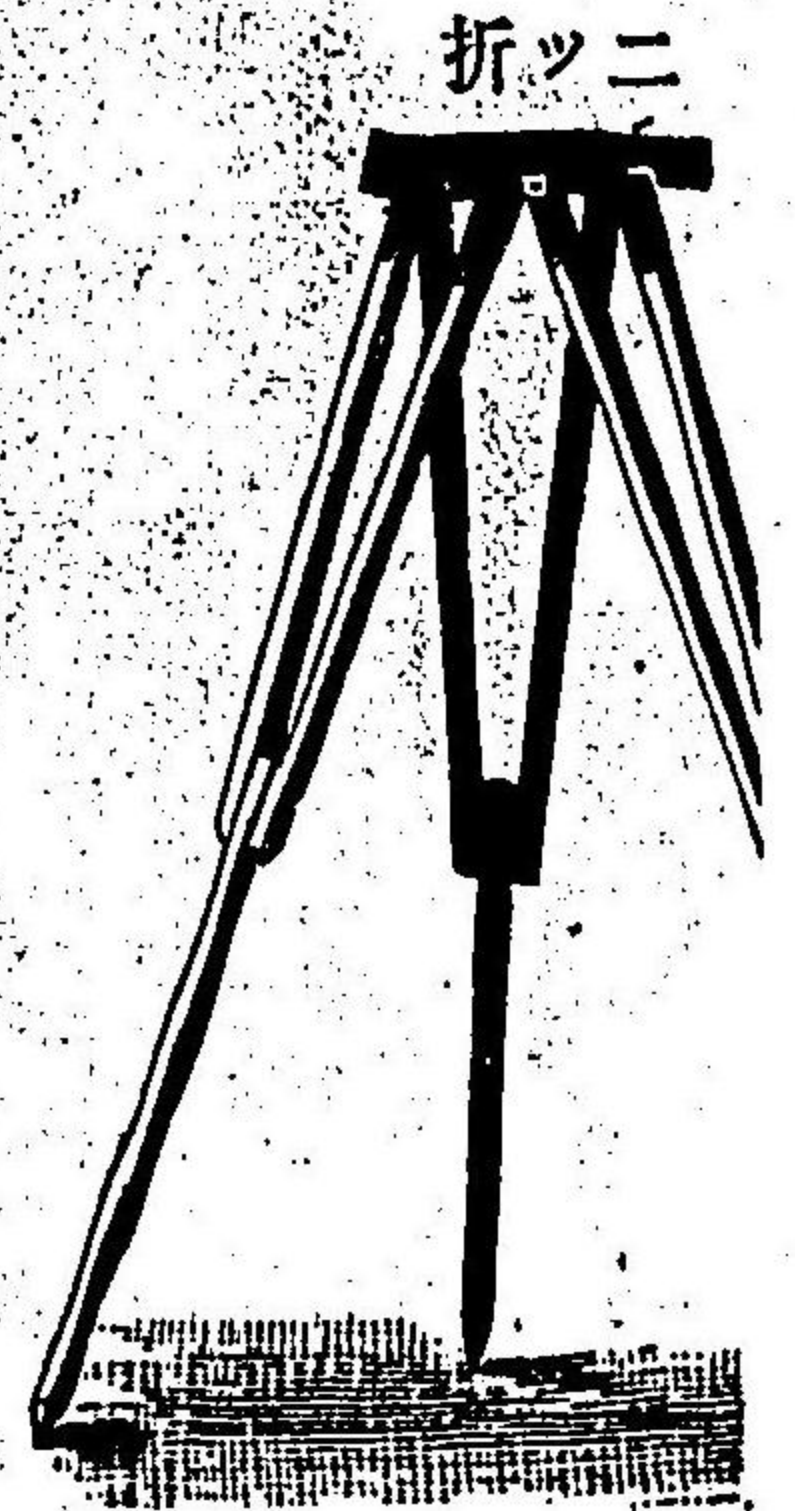
第 參 拾 號



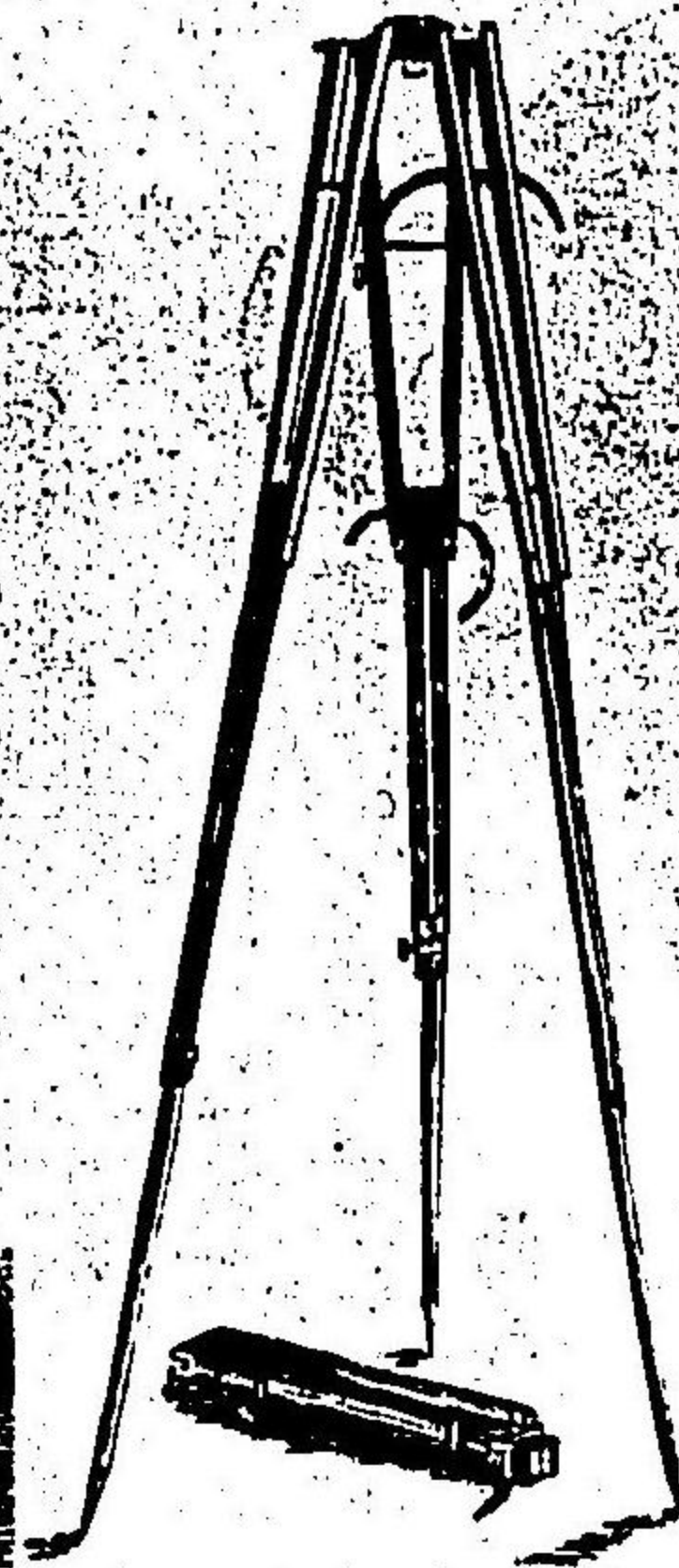
手札形代價金
二枚掛代價金
カビ子代價金

● 舶來手提暗箱
此暗箱は圖の如く一面部を開けて罽狀のシヤターありて通常暗箱の如く自由に伸縮することを得而して取枠は矢張後部より挿入するの仕掛なり又殊に大なるシヤター付屬したるを以て如何に迅速に運動する物体をも容易に撮影し得るなり

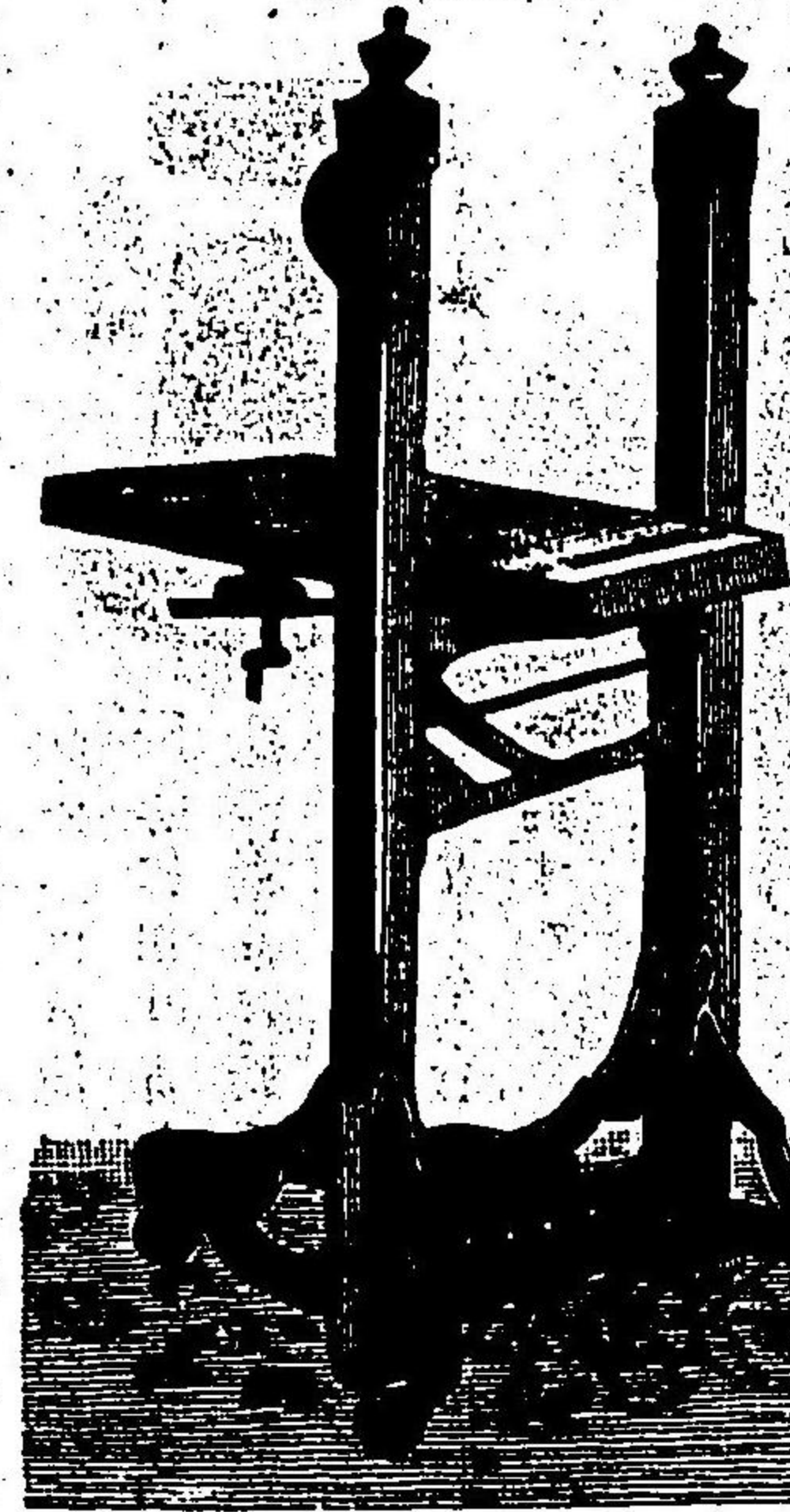
第 貳 拾 四 號



第 貳 拾 五 號
折ッ三



第 貳 拾 七 號



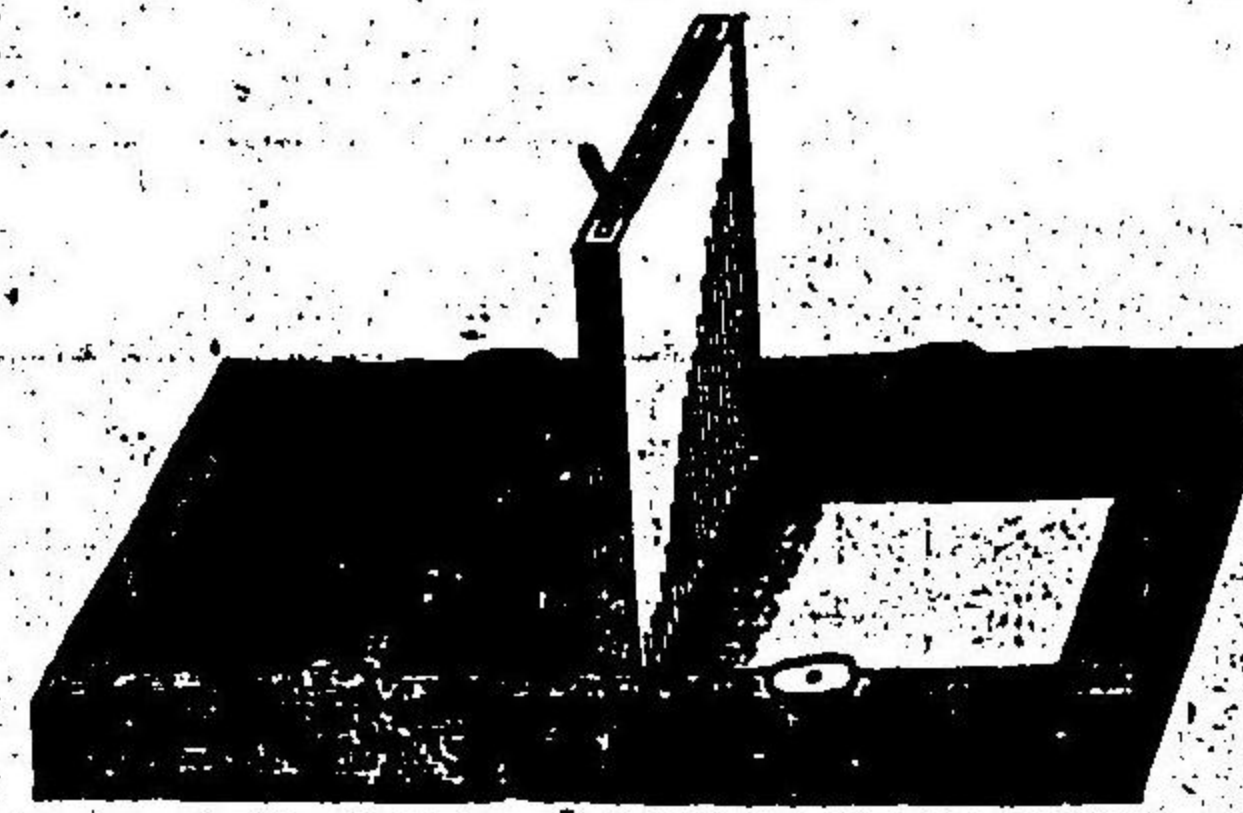
● 淺沼製三脚臺

區別	延脚	二ツ折	三ツ折
手札ヨリカビ子迄ノ箱用	壹圓參拾錢	貳圓七拾錢	四圓參拾錢
カビ子ヨリ四ツ切迄ノ箱用	壹圓八拾錢	參圓貳拾錢	四圓八拾錢
四ツ切ヨリ全紙迄ノ箱用	貳圓五拾錢	四圓	五圓五拾錢

外三 第壹號 線出し臺 代價八圓拾五錢
第貳號 全 參拾圓
右何れも本邦櫻材を以て重量を軽くし且つ堅牢に製したるものにて蜘蛛も附屬せり又該表中の代價より安直にも製造し及び御注文に應じ製造可仕候

● 燒梓

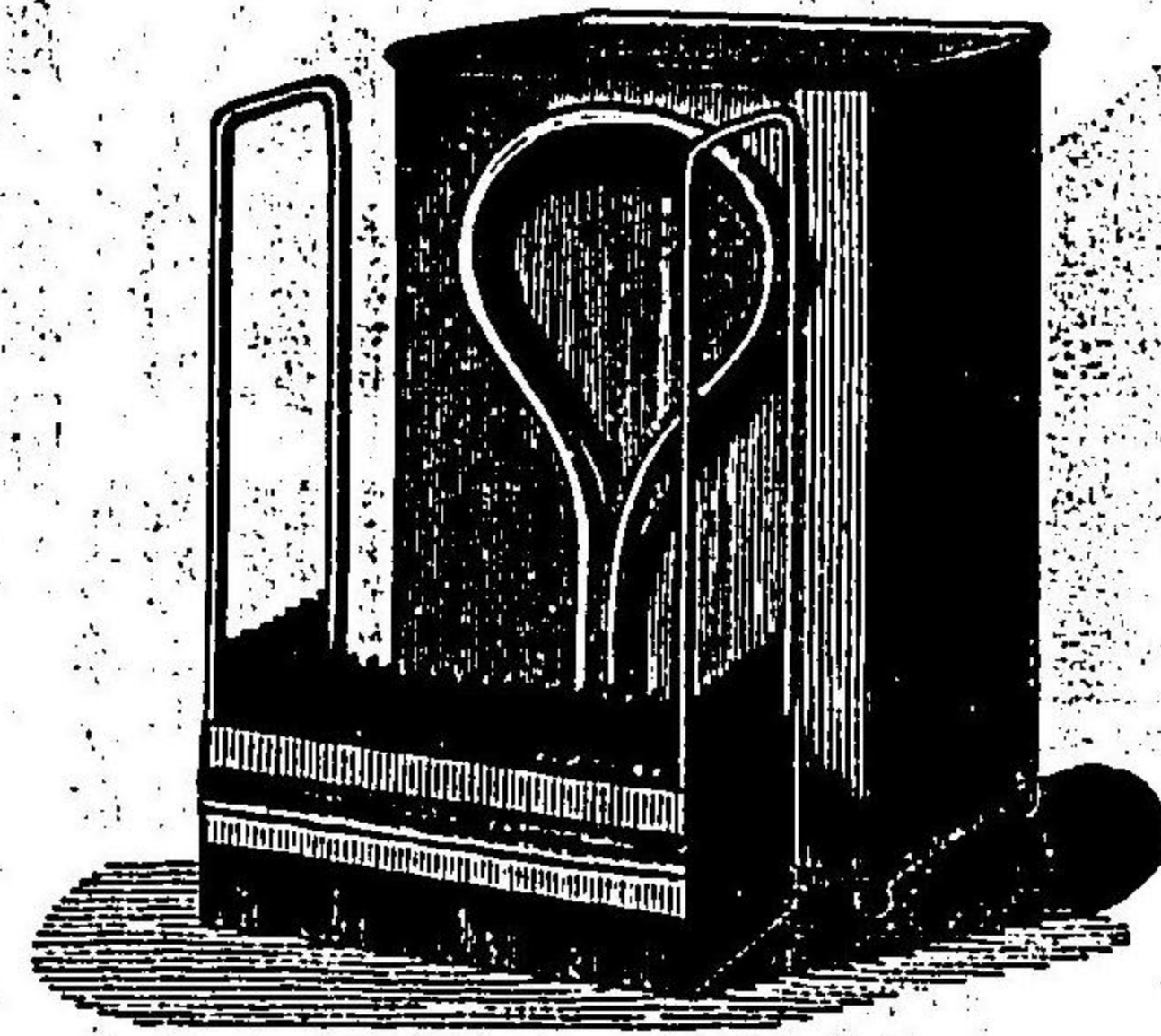
第 貳 拾 六 號



全紙 四圓五十錢
四ツ切 一圓三十錢
カビ子 四十五錢
手札 二十五錢

● 沼淺製種板洗條用箱

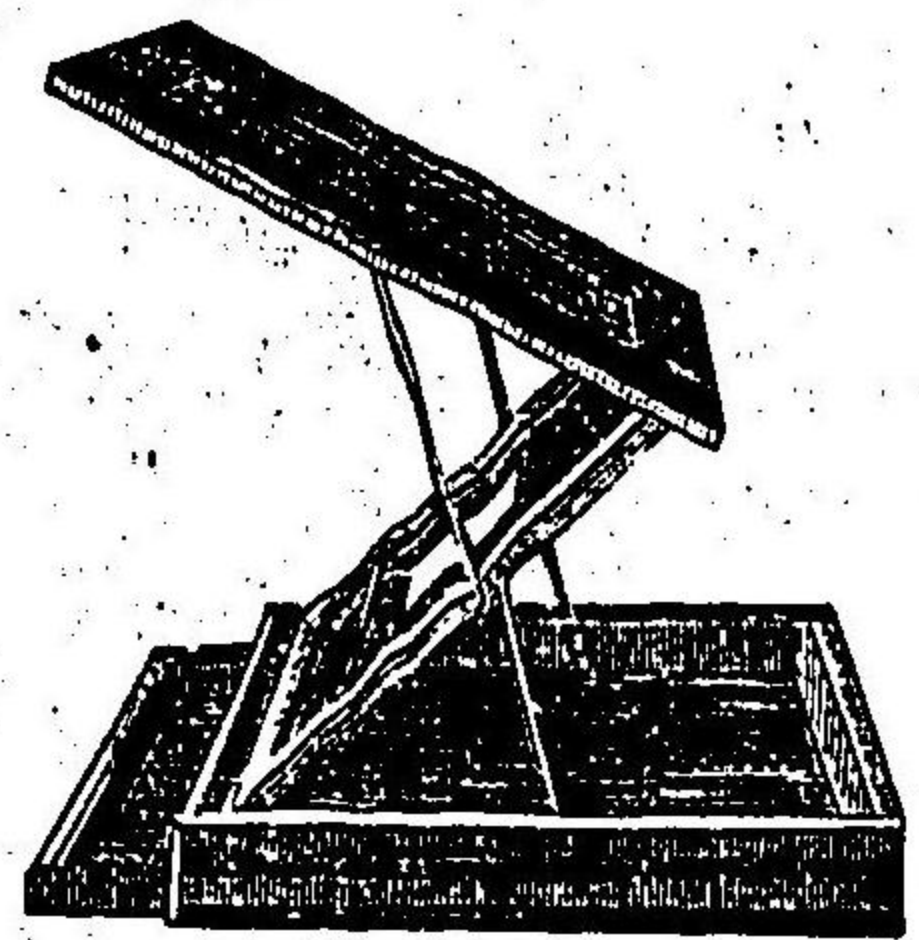
此箱は鐵葉製にして上圖に示すところの外部にある架に種板を狭みて入れ護謨管を以て他の清水を滿らしある桶て此兒とに渡し水を注入（最初護謨管内に水を滿し其儘一端を水桶に他の一端を共箱に入れ置と）せしむるなり而して充分滿るときは水は自ずと流出して斷へす新陳代謝するの仕掛を有するに據り此箱を用ゆるときは水を取り替るの勞を省くことを得へし



手札形以上
カビ子形用 代價金參圓
カビ子形以上
四ッ切用 代價金四圓

● 淺沼製修整臺

此臺の底には一面の鏡備付けありて能く光線を反射せしむ且つ臺の斜度は自由に爲すことを得るを以て修整を爲すには欠りへからざる器具なり



代價金貳圓八拾錢
金參圓五拾錢

第參拾壹號

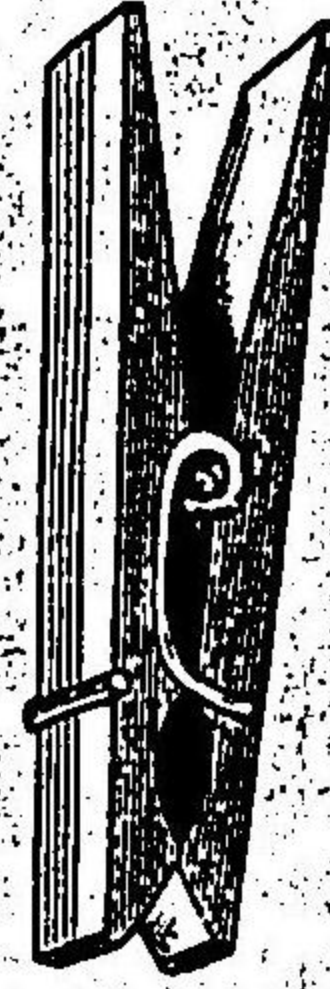
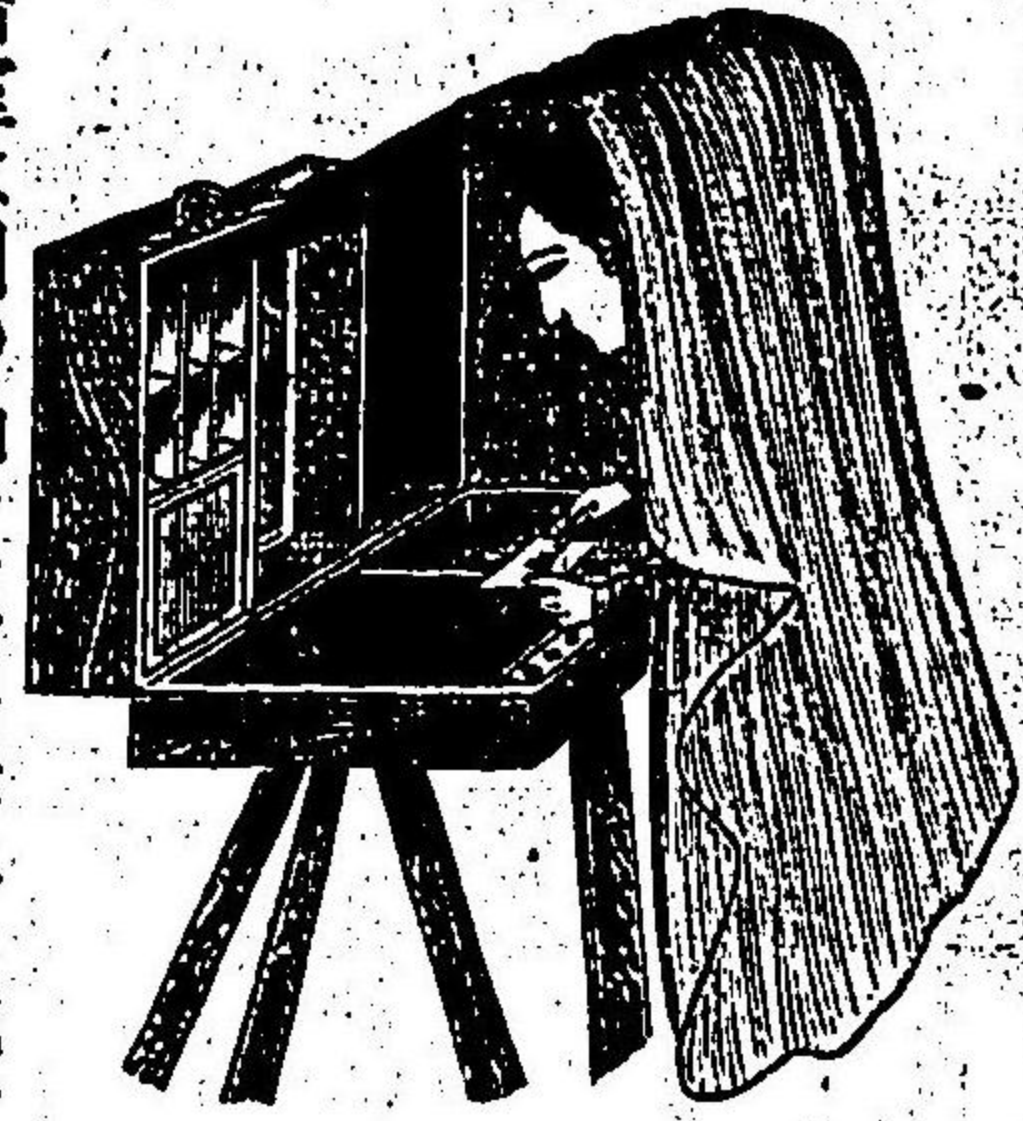
● パピール狹

第參拾四號

● 淺沼製輕便暗室

第參拾五號

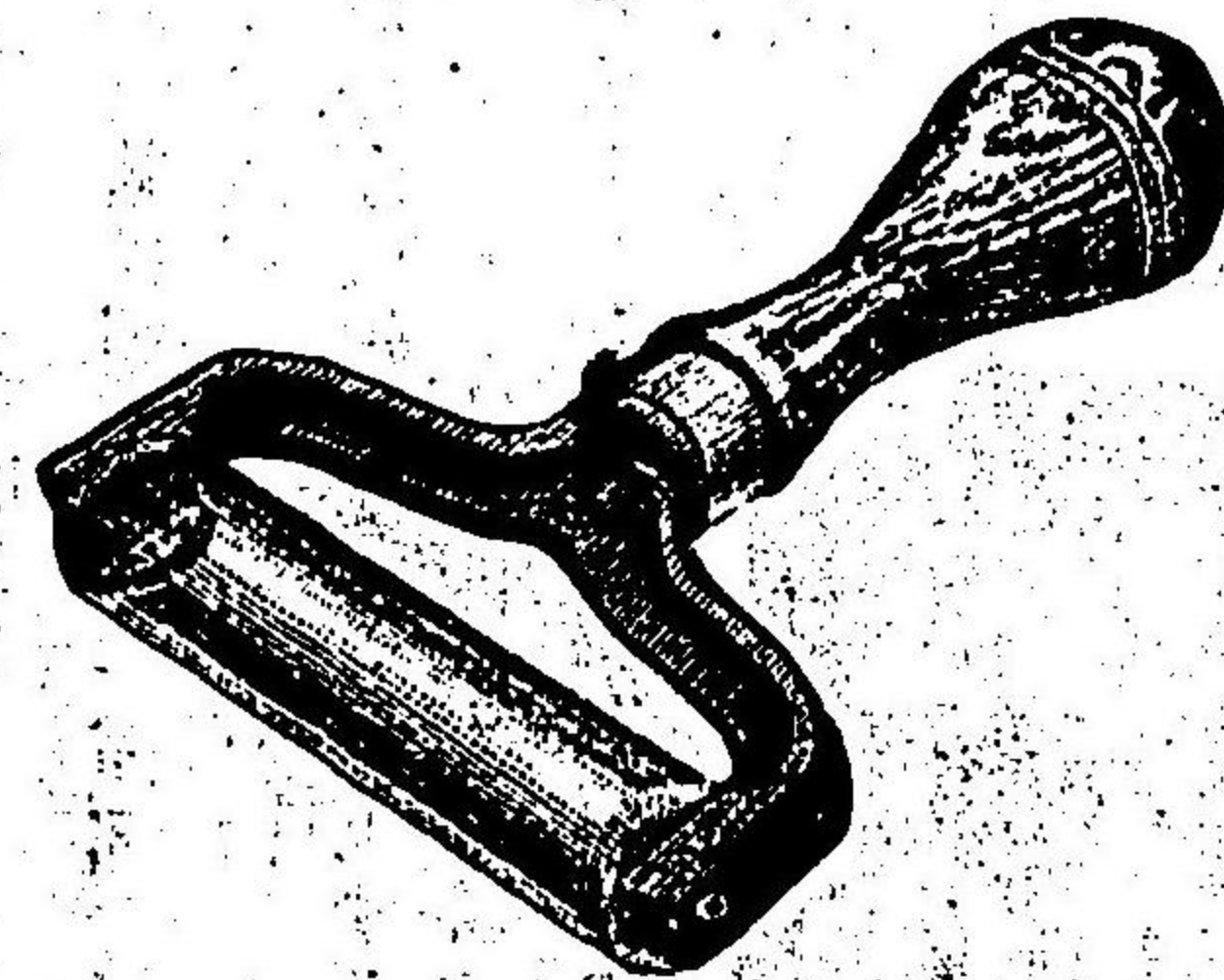
此暗室は圖の如く三脚臺上に載せ蝶番を開閉すへき様に作りたるに據り之を携帶せんには疊みて半切大の暗箱を同大に爲す事を得るなり而して此暗室内には藥瓶等を置くべき棚其他水流し等附屬しあり且つ使用者は自己の半身丈を入るゝ事を得るなり 代價金拾七圓



第參拾參號

第參拾貳號

● 舶來硝子刷毛及櫛形護謨刷毛

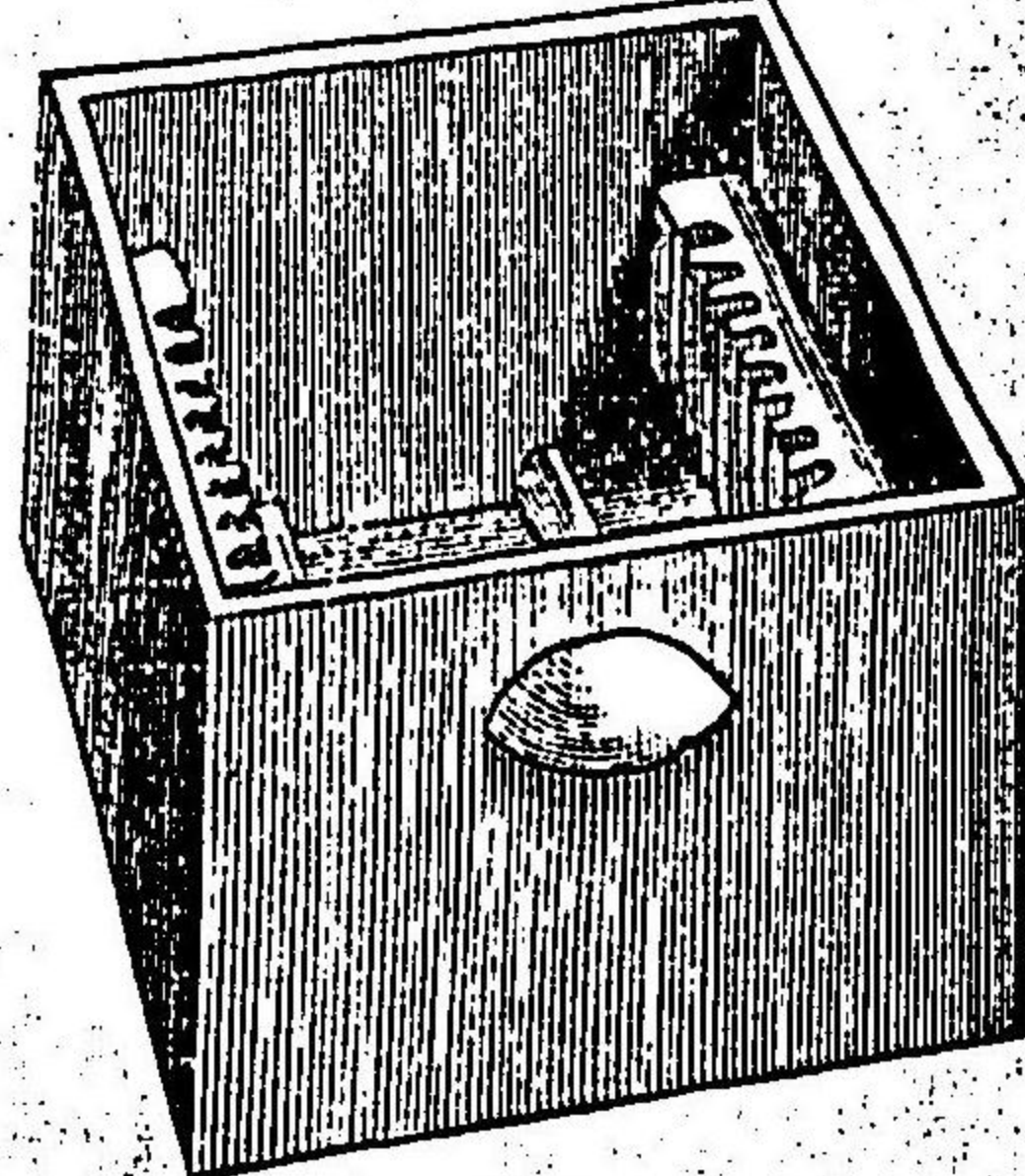


此刷毛の丸軸は硝子を以て作り同轉することを得る様に爲しあるを以て印書を蠶紙に貼り付く際若くはアリスト紙等に光澤を付する爲め硝子板に貼り付くんとするに用ゆるときは決して印書を損する等の患なし

硝子 五寸代價金參圓五拾錢
八寸代價金四圓五拾錢
櫛形 五寸代價金壹圓八拾錢
八寸代價金七拾五錢

● 舶來陶器乾板浸シ

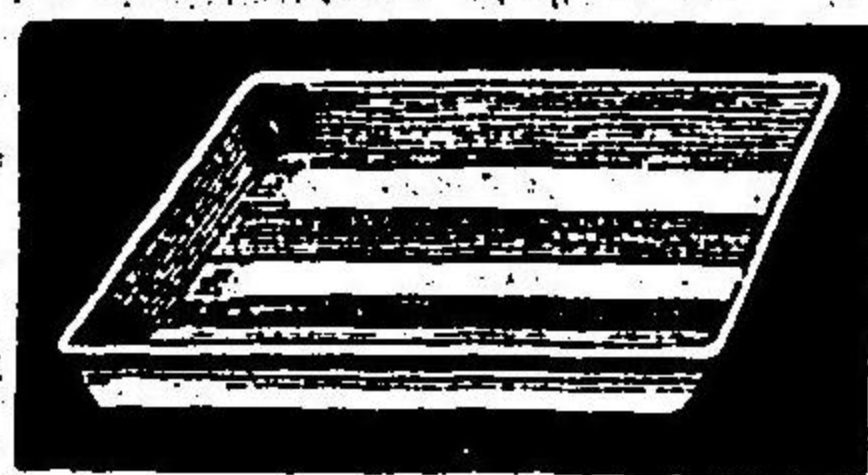
第參拾七號



カビ子用 四ッ切用

第參拾八號

● 舶來護謨製バット



手札 代金
カビ子 代金
四ッ切 代金

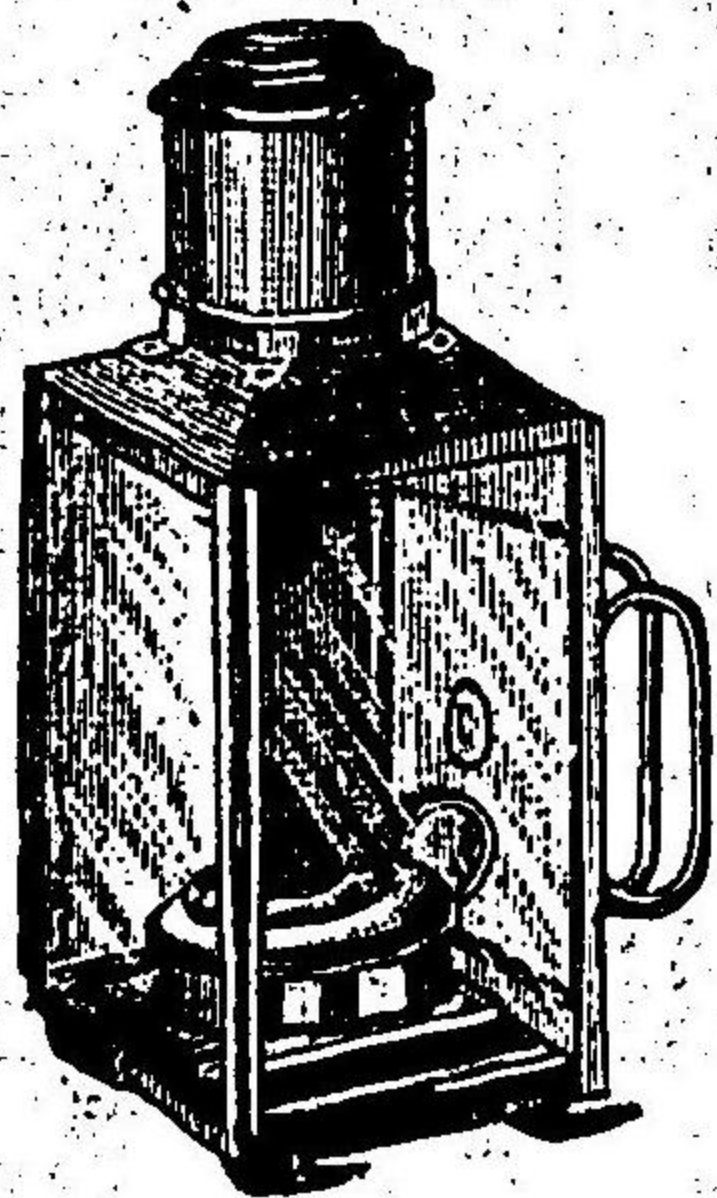
● 淺沼製暗室用洋燈

第參拾六號



代價金貳圓五拾錢

第參拾九號

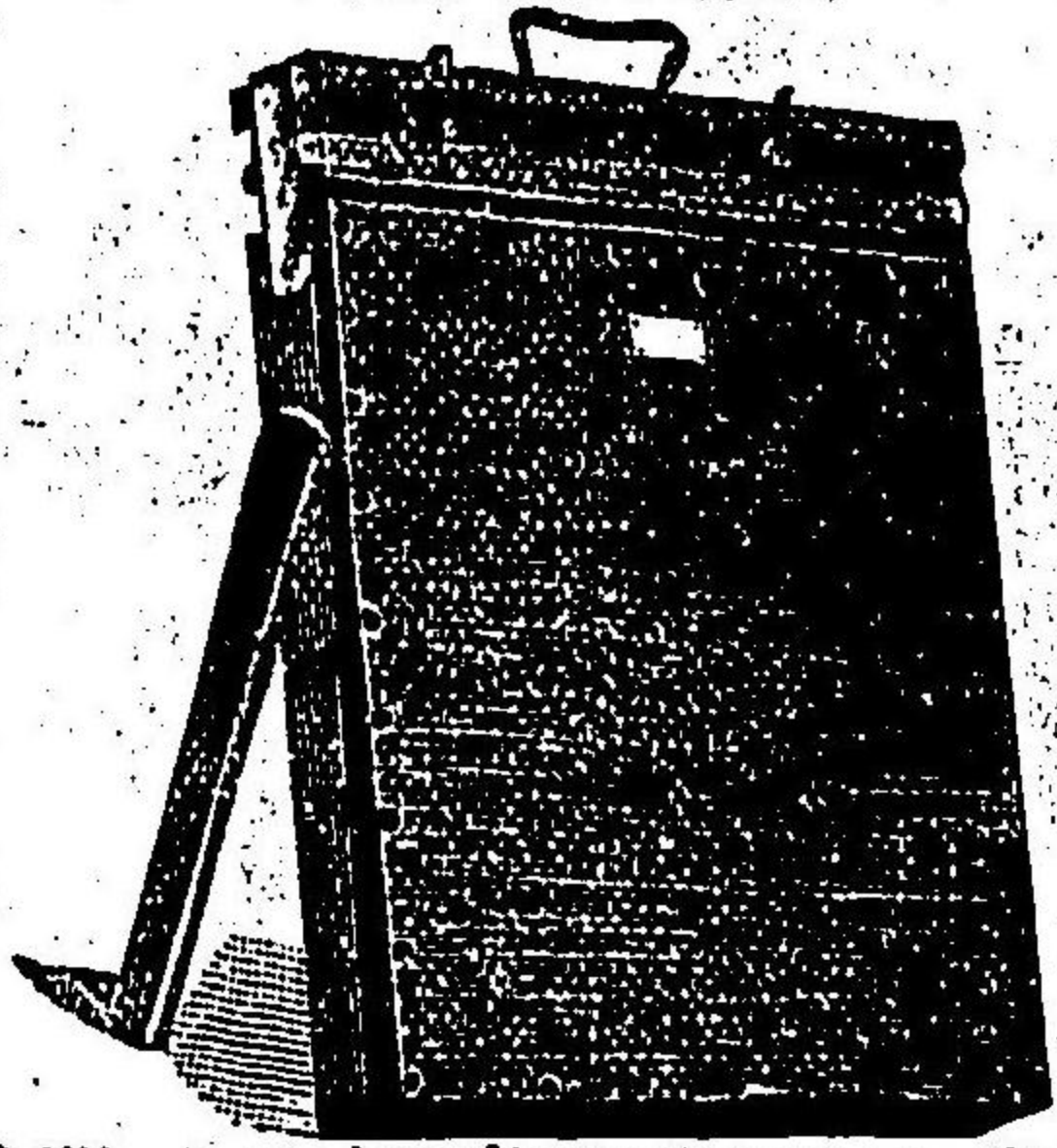


此ランプは色光には充分の吟味しあるを以て決して乾板等に害を及ぼす事なし

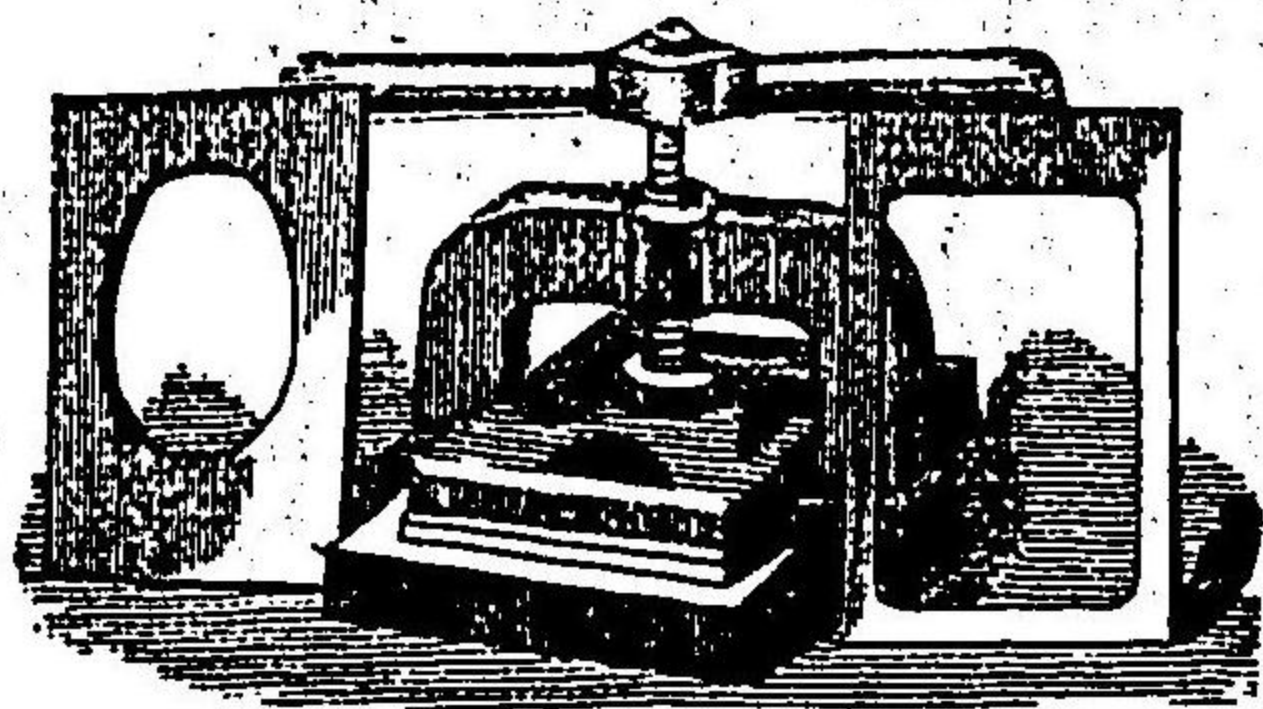
代價金貳圓

カビ子代金七拾錢六ツ切全參圓四
ツ切全四圓但外箱は御注文に應ず

號八十四第



機器シ出押畫印製沼淺



圓四金價代迄子ピカリよ札手

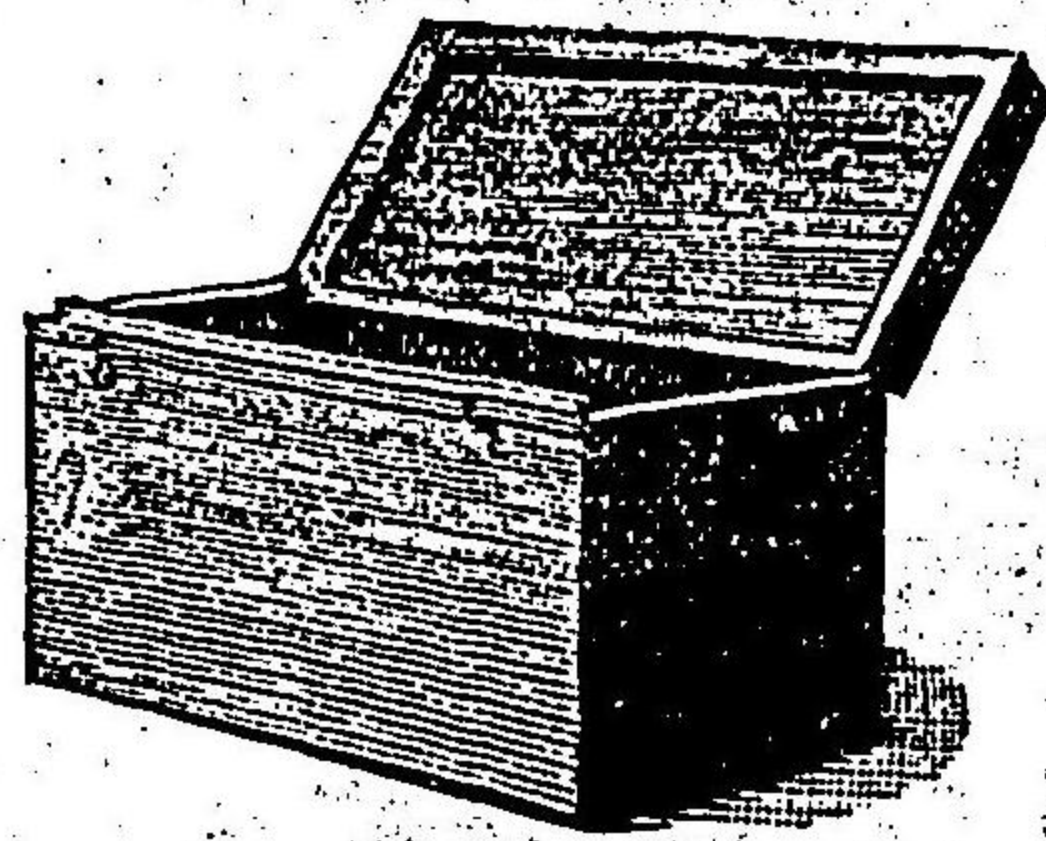
號拾五第, 具畫ヒ繕來舶



第次好御色各但錢拾六價代形小

箱板種製沼淺

號壹拾五第



十九

錢五拾四金價代入スIダニ札手
錢拾六金價代入スIダニ子ピカ

● 硝子立バット

號七拾四第



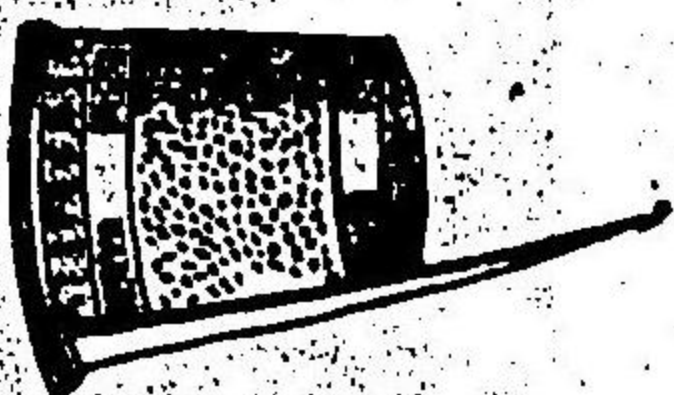
硝子立バット
手札形
二枚掛
カビ子形
カビ子迄

代金五拾錢
同七拾錢
同九拾錢
同參拾錢
同五拾錢

第四拾九號

● 爪ノ用像顯

號四拾四第



● 乾板用刷毛

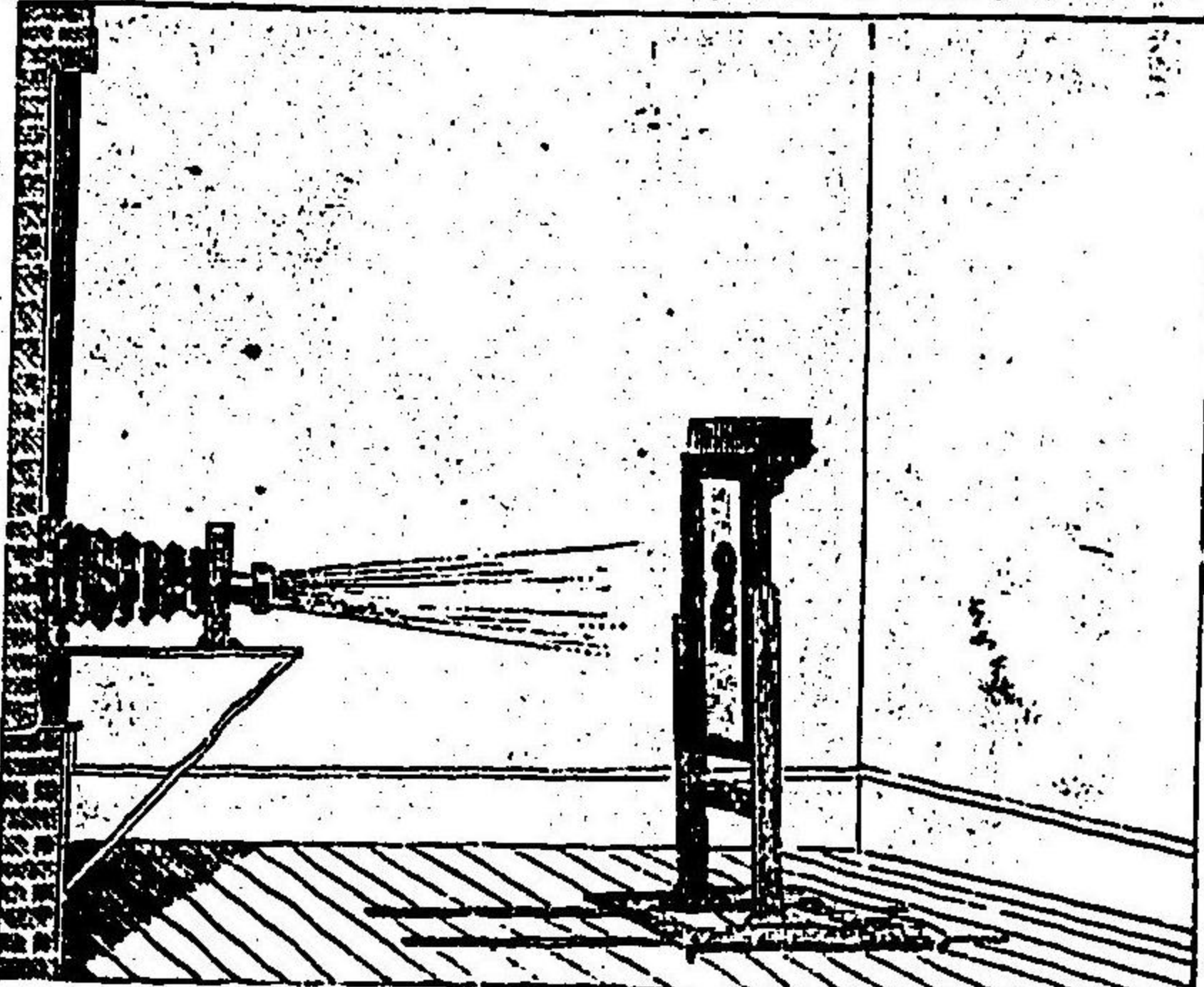
壹イインチ半
貳イインチ
三イインチ

第四拾五號



● 大判臭素紙寫眞器

號六拾四第



號壹拾四第



此暗室は黄及赤の二枚の
布を以て二重に張りたる
を以て光線の透入するの
患なし而して圖の如く編
幅傘様の装置なるに據り
携帯せんとするには疊み
て小形と爲すことを得へ
し之れを使用するには自
己の顔と兩手とを入れて
自由に仕事を爲す事を得
るなり

代價金八圓五拾錢

號拾四第

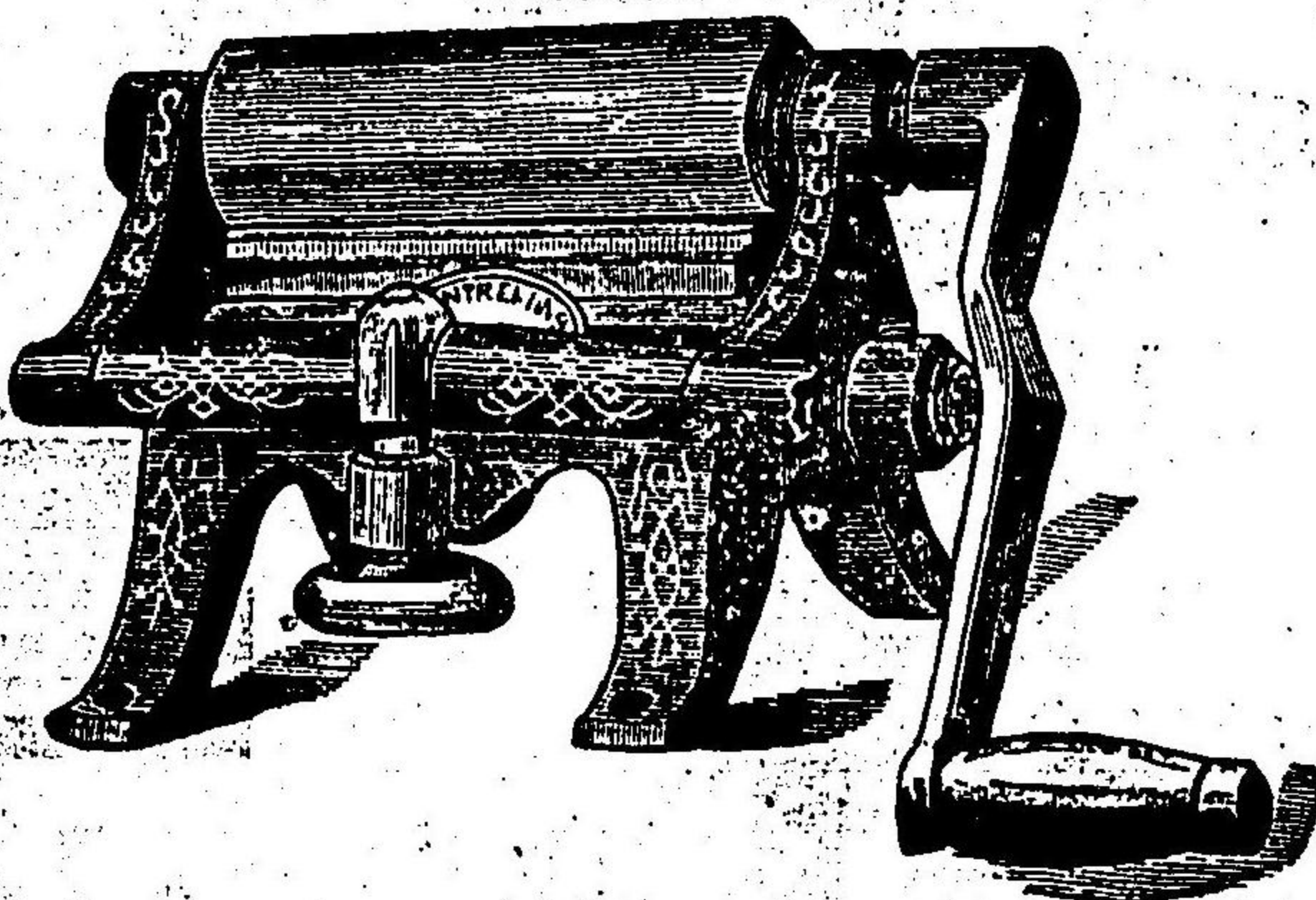
色白 色藤 色桃



● パピール特約商標
特別施附
二十キロ
十キロ
八キロ
二番

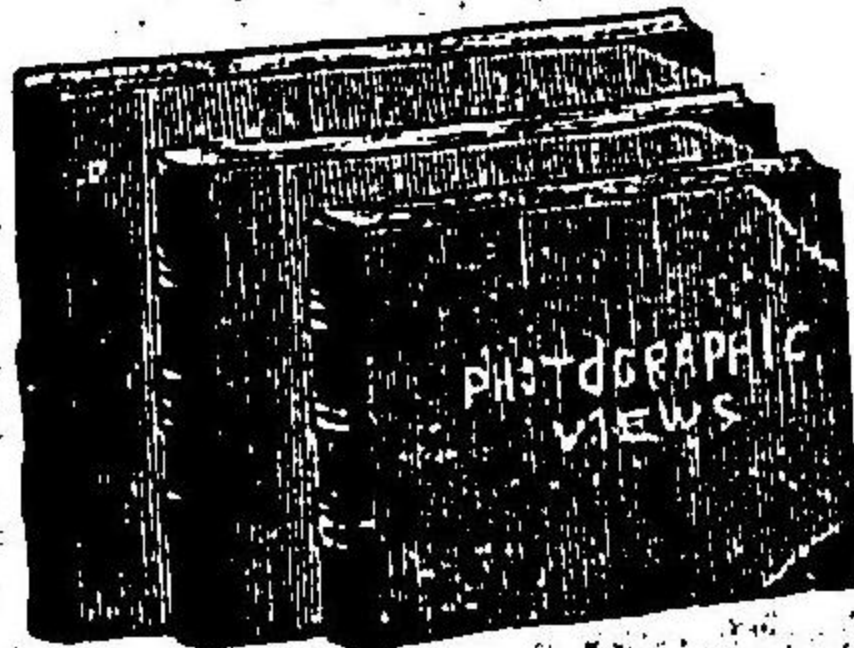
● 機器出艶

號貳拾四第



十八

號參拾四第

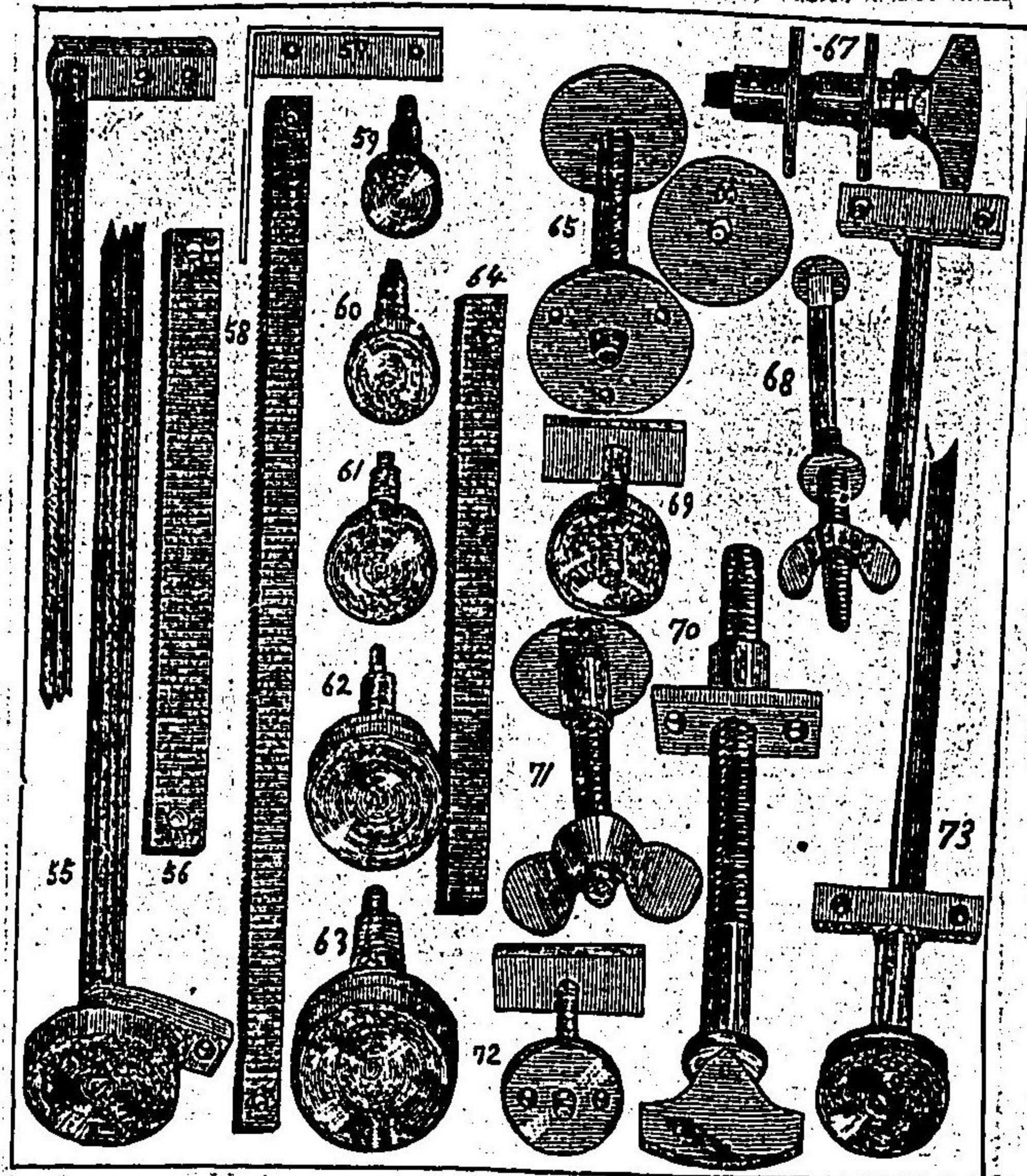


● 寫眞張込ブーグ

カビ子形代價金六拾錢
四ツ切 全 金壹圓三拾錢
大形四ツ切全金貳圓五拾錢
右黒ス表紙背皮廿五枚綴製本な
り此他御好次第調進仕候

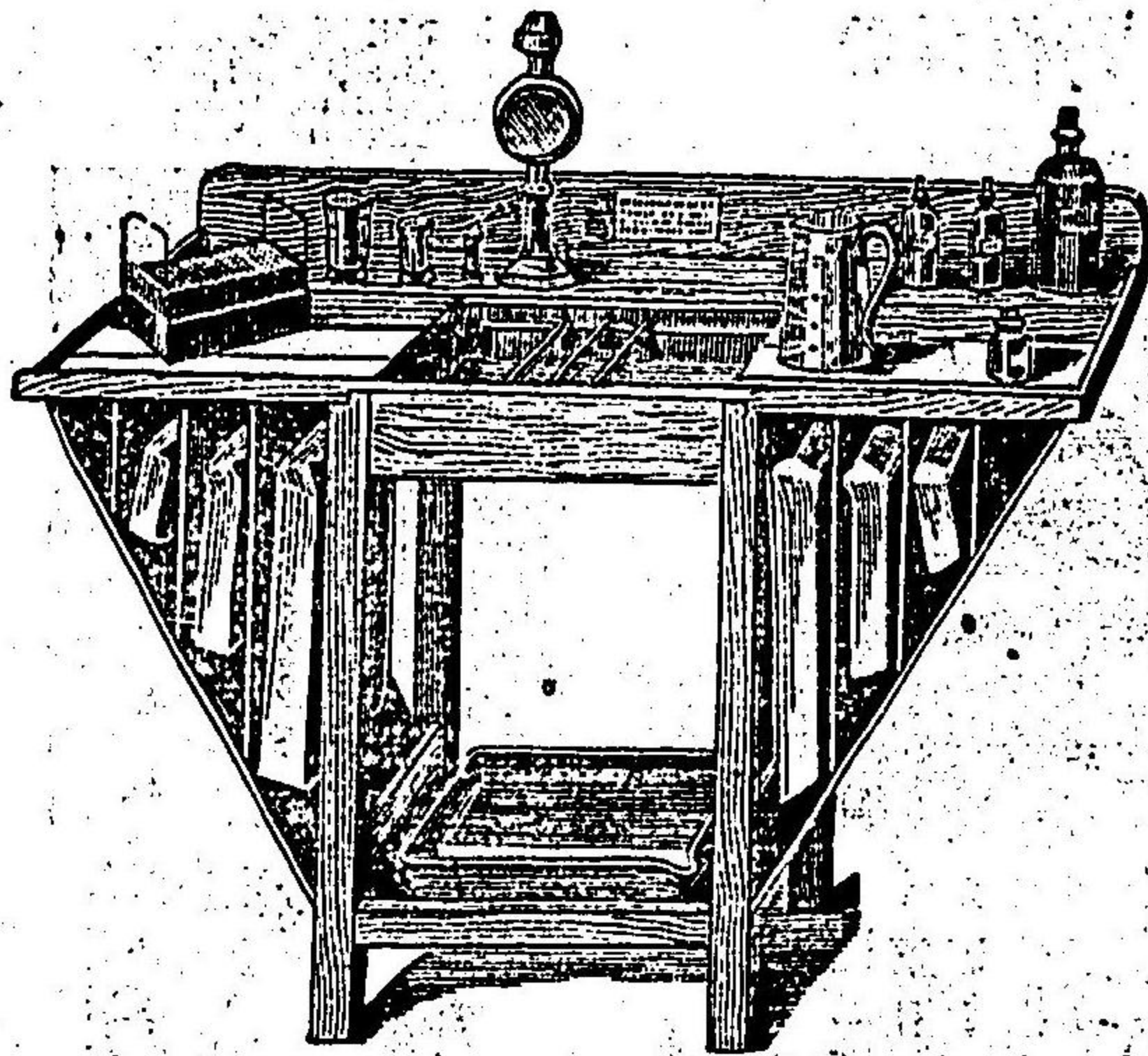
別	六	八	三	拾	拾	廿
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
貳	拾	三	三	三	七	五
拾	圓	圓	圓	圓	圓	圓
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓

カビ子用一式代價金九圓
但四ツ切用一式全拾四圓



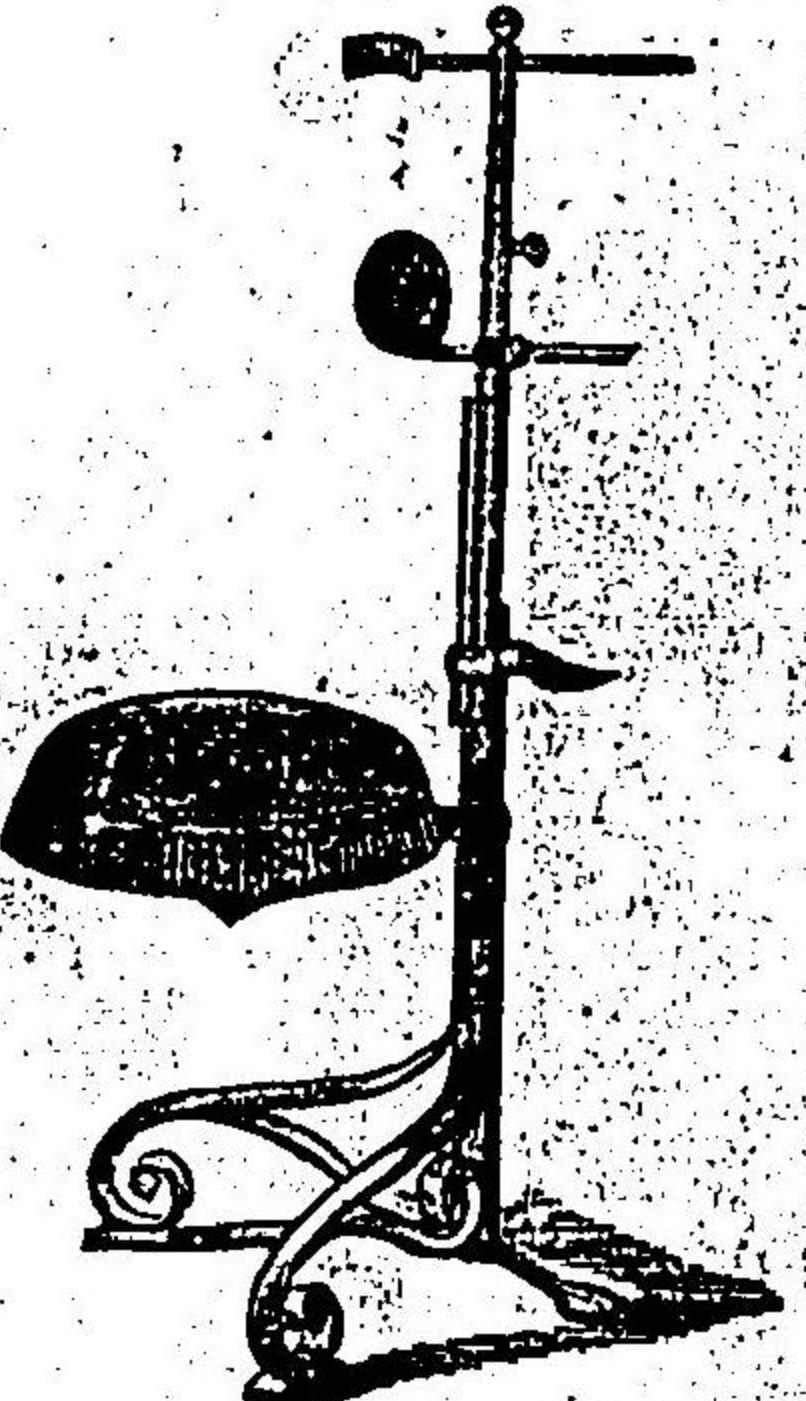
●暗箱金物一通
第五拾六號

●暗室用卓 第五拾八號



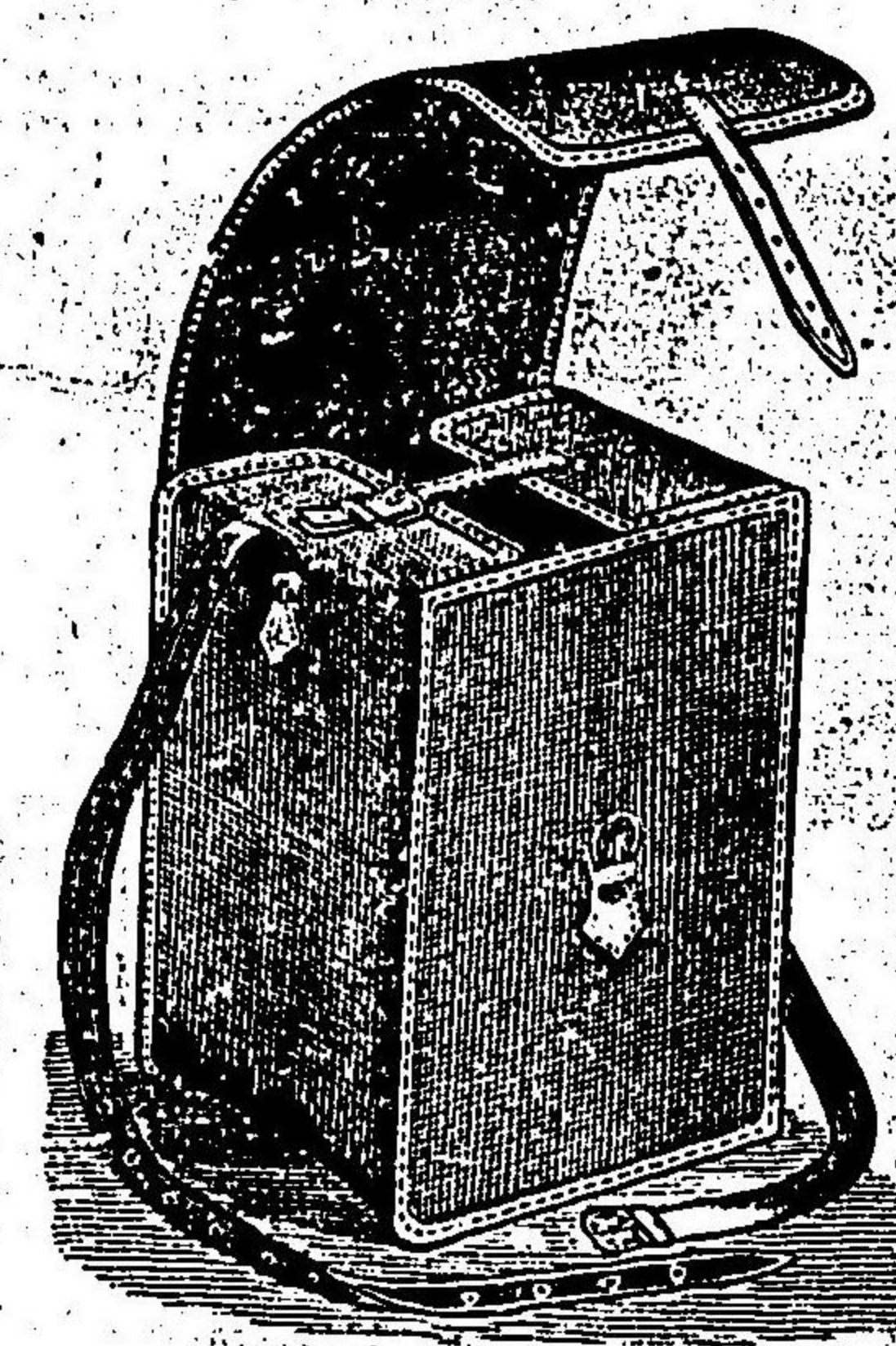
場所の狭と及び構造によてり各直段に高低あり

●首押兼椅子 第五拾七號



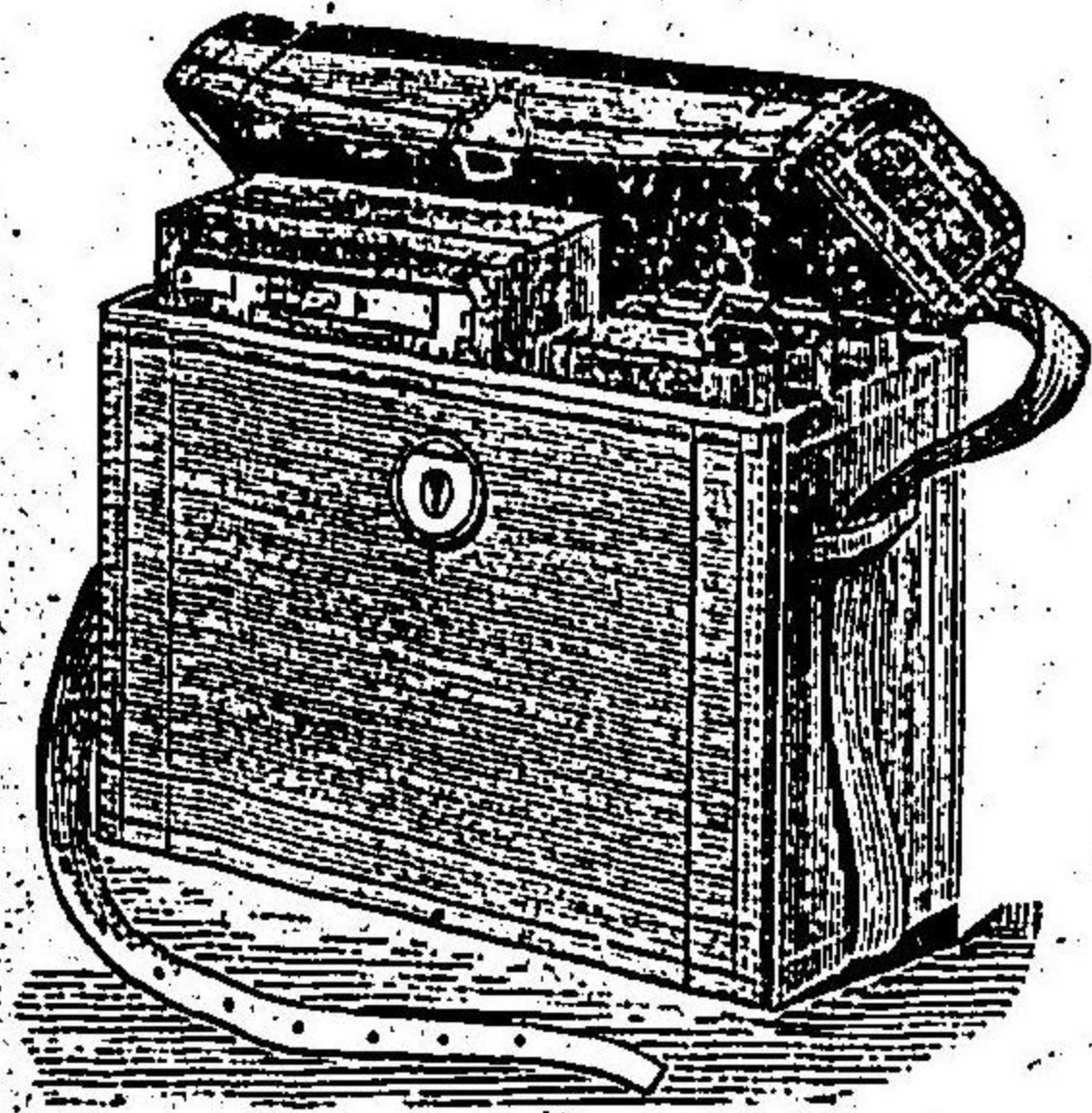
首押兼椅子 代り金四圓
腰掛付 代り金拾圓

第五拾四號



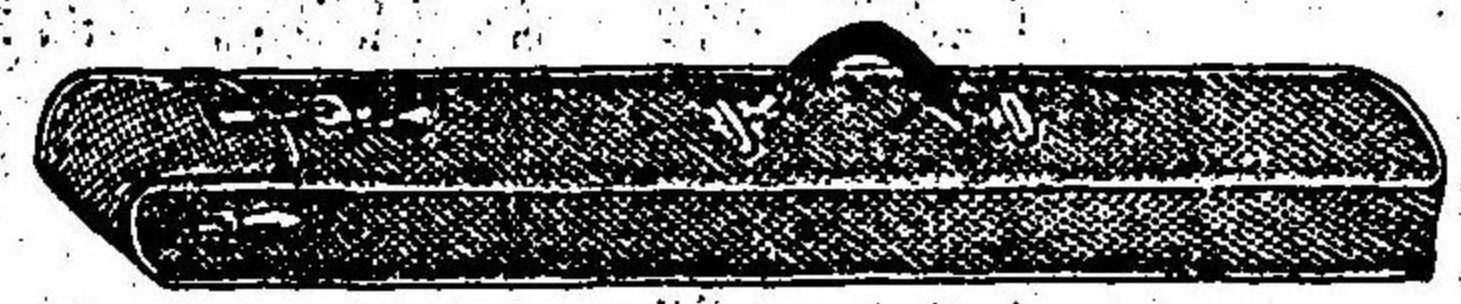
四ツ切用代價金參圓
カビ子用代價金貳圓

第五拾貳號



革製四ツ切用代價金六圓
カビ子用代價金四圓

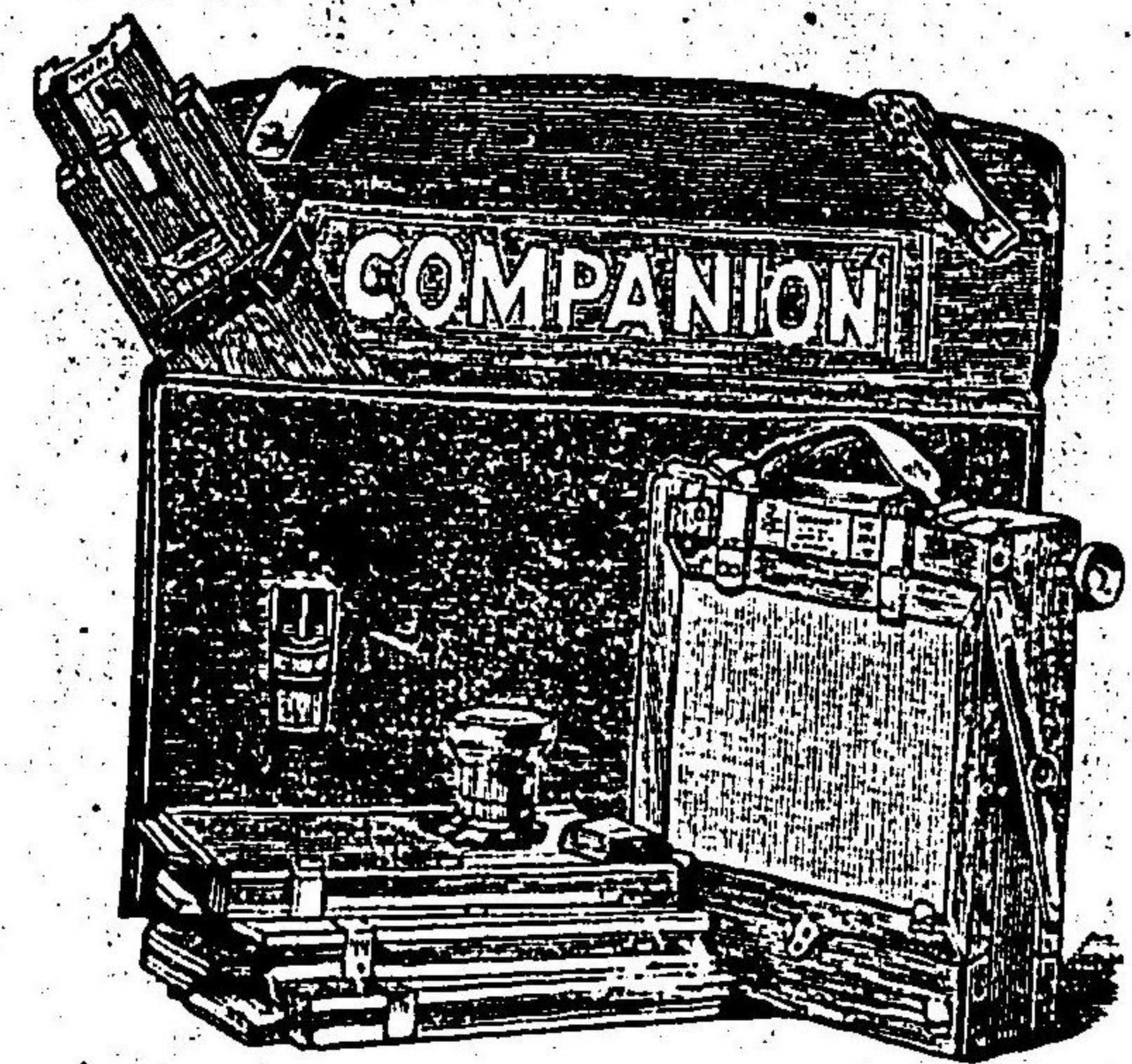
第五拾參號



●三脚籠

●暗箱入箱外

第五拾五號



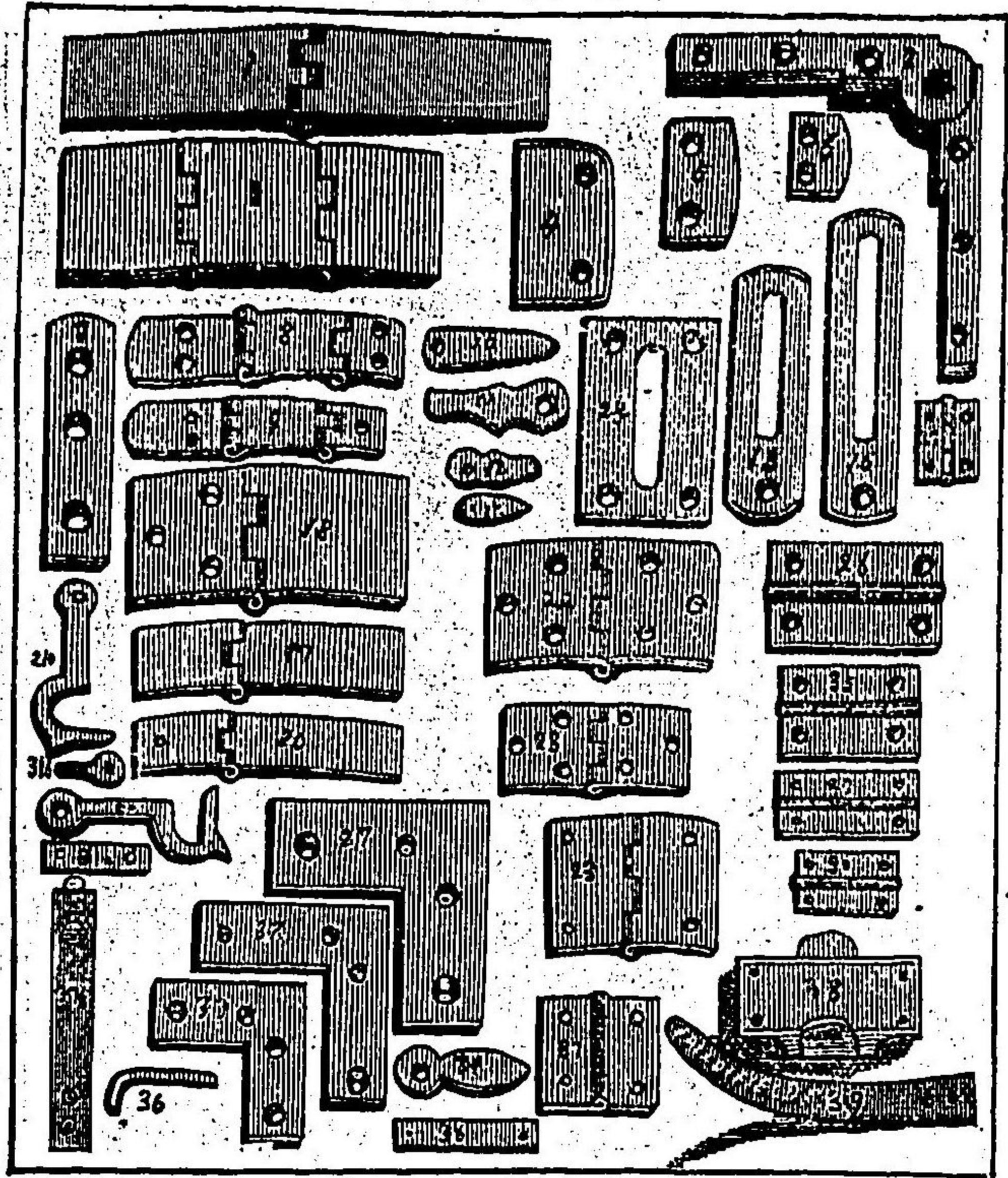
革製四ツ切用代價金貳圓
カビ子用代價金壹圓
茶色ツーク製カビ子用代價金九拾錢
四ツ切用代價金五拾錢
カビ子用代價金壹圓拾錢



二十

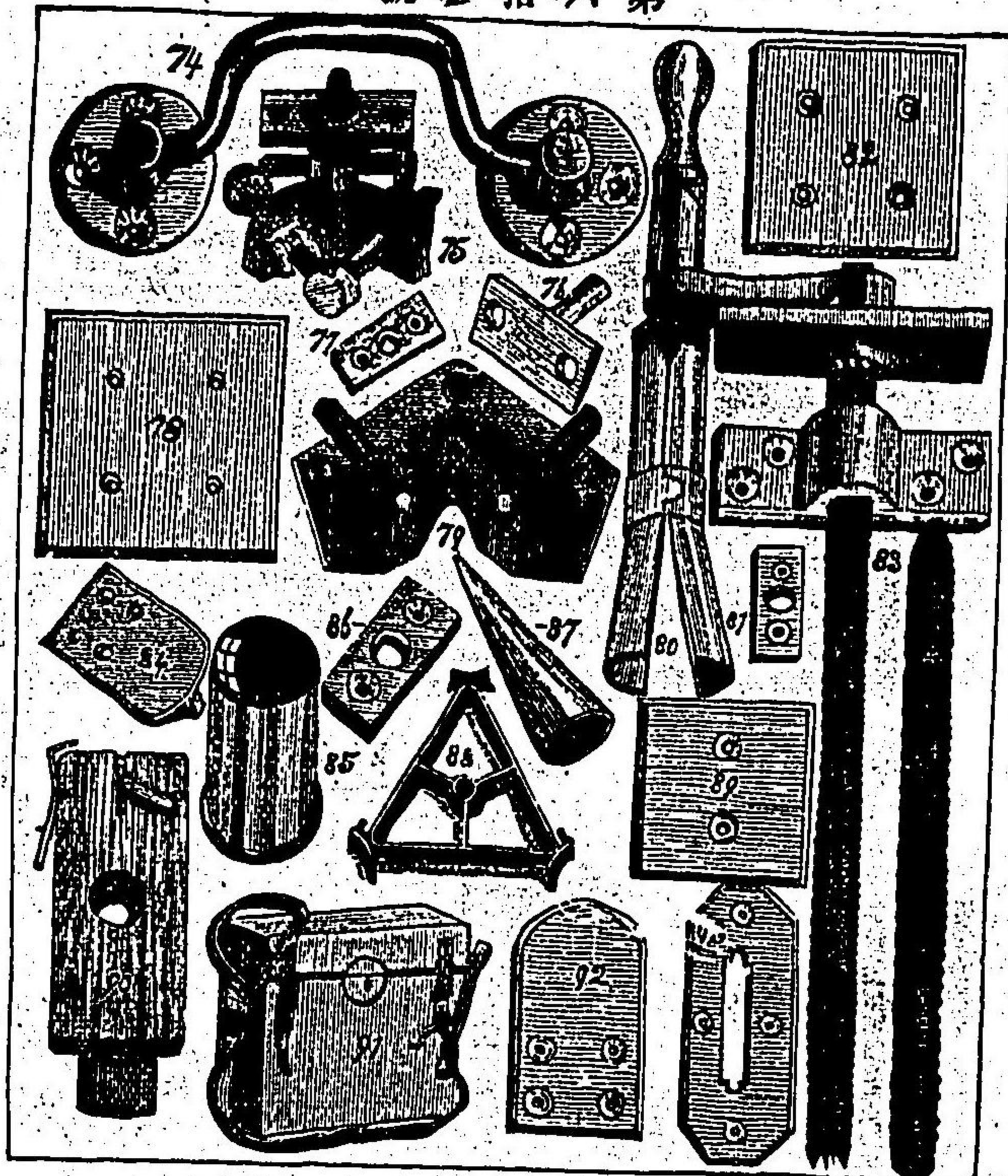
二十一

●暗箱金物一ト通 第五拾九號



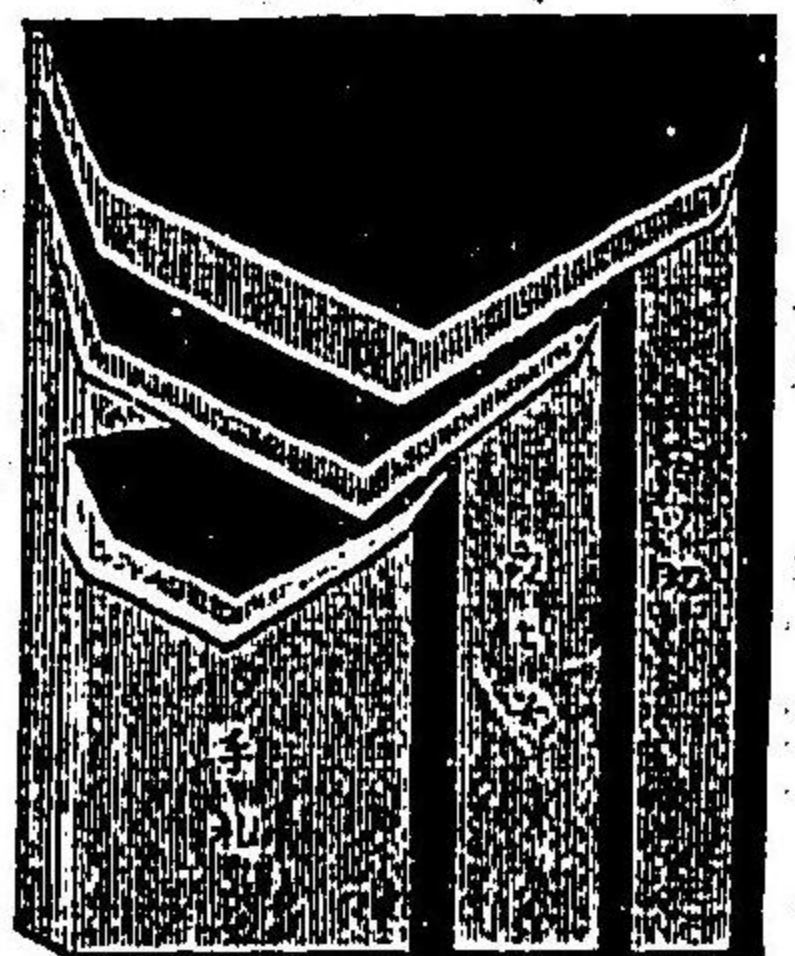
カビ子用一式代金六圓五拾錢
四ツ切用全 九圓
全紙用全 拾五圓

●暗箱金物一ト通



カビ子用一式代金八圓
四ツ切全 全 拾壹圓
全紙全 全 拾九圓
但シヤッター外箱は別なり

●寫眞囊 第六拾號



手札形百枚
代金拾五錢
より金廿五
錢
カビ子形全
り金三拾錢
り金五拾錢

●種板掛 第六拾壹號



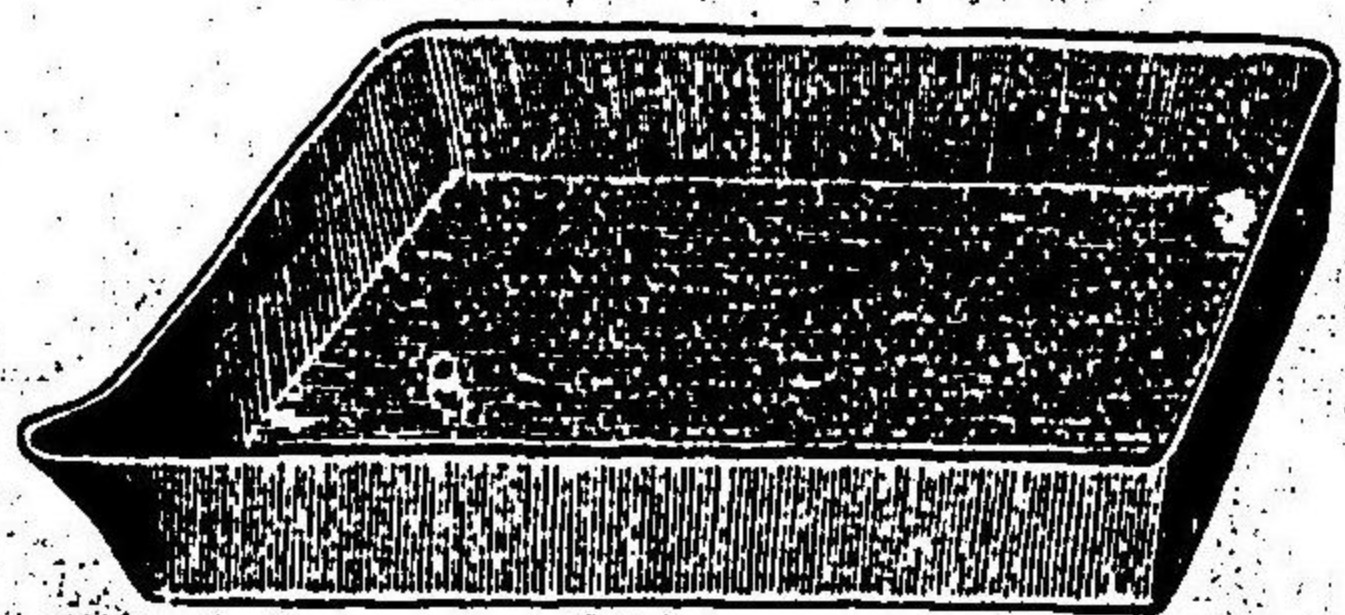
手札二打掛
代金廿五錢
カビ子
金四拾五錢
四ツ切
金七拾錢

●寫眞場用椅子 第六拾貳號



代價金拾五圓

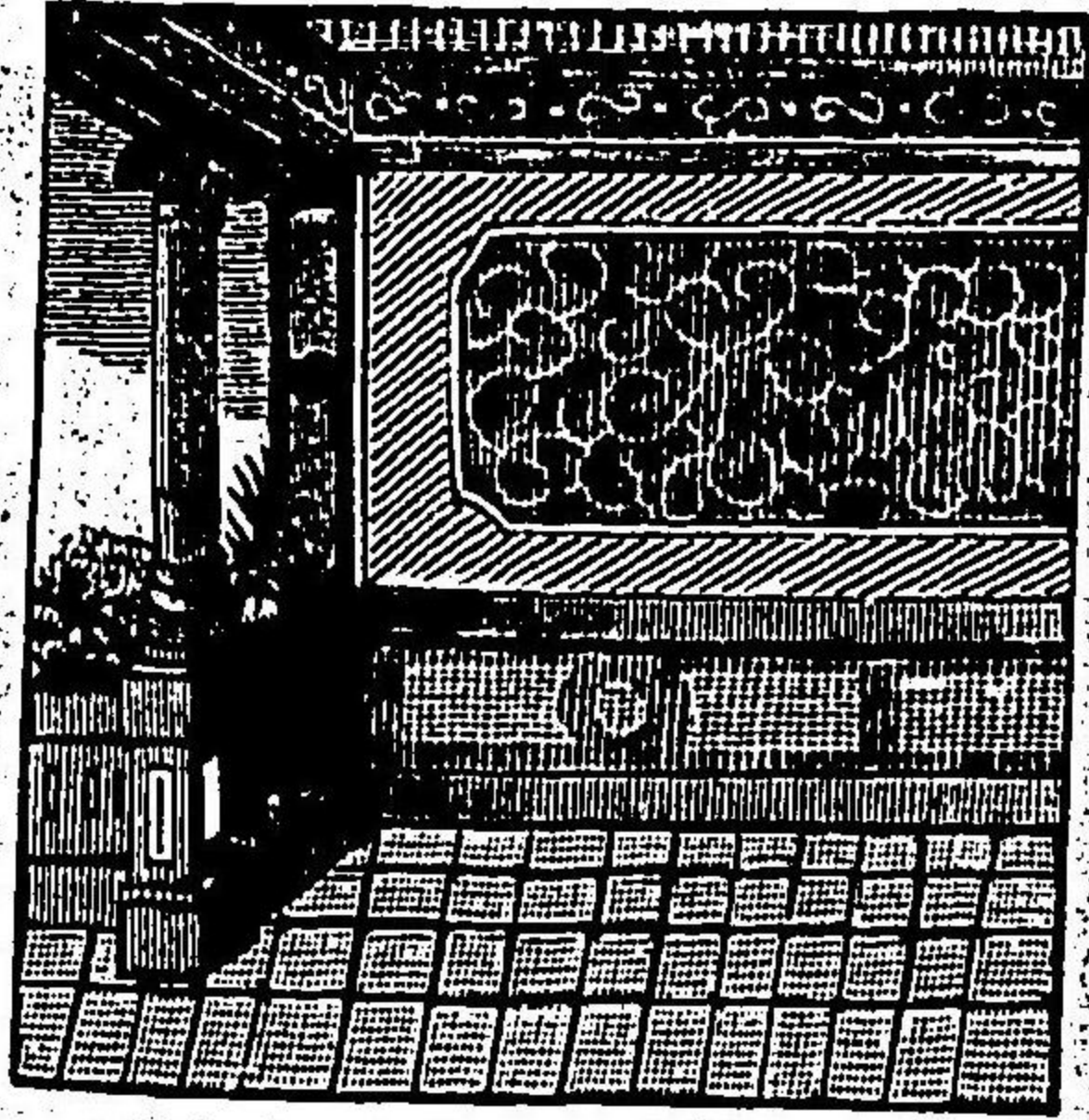
●平バット



第六拾四號

區別	船來		淺沼製	
	陶器	漆器	陶器	漆器
手札	四拾五錢	貳拾五錢	貳拾五錢	貳拾五錢
二枚掛	六拾錢	貳拾五錢	貳拾五錢	三拾錢
カビ子	八拾錢	四拾錢	四拾錢	五拾五錢
六ツ切	壹圓廿錢	壹圓	壹圓	壹圓貳拾錢
四ツ切	壹圓八拾錢	壹圓三拾錢	壹圓三拾錢	壹圓五拾錢
半切	九圓	參圓五拾錢	參圓五拾錢	五圓五拾錢
全紙	拾八圓	九圓五拾錢	七圓五拾錢	七圓五拾錢

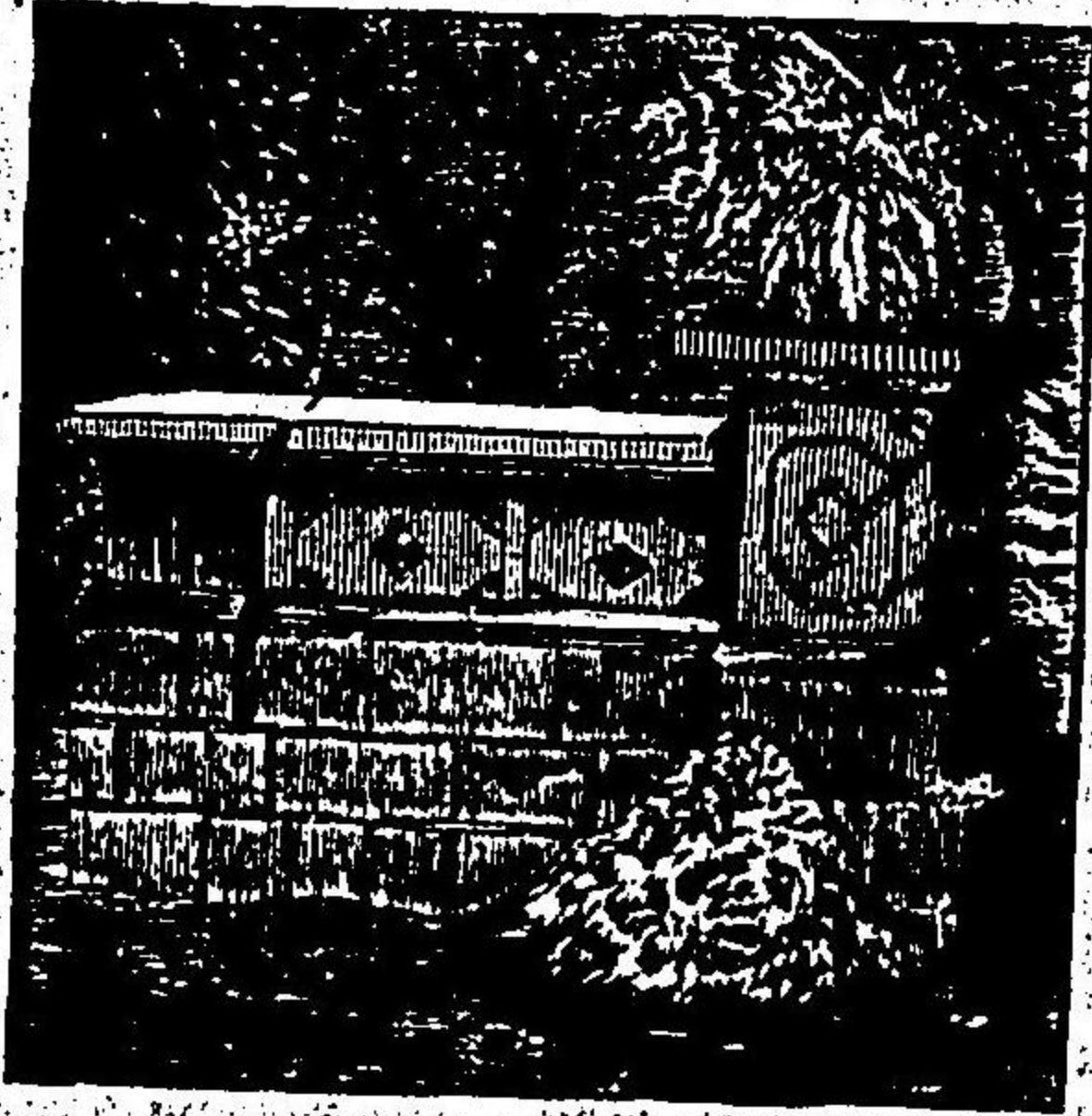
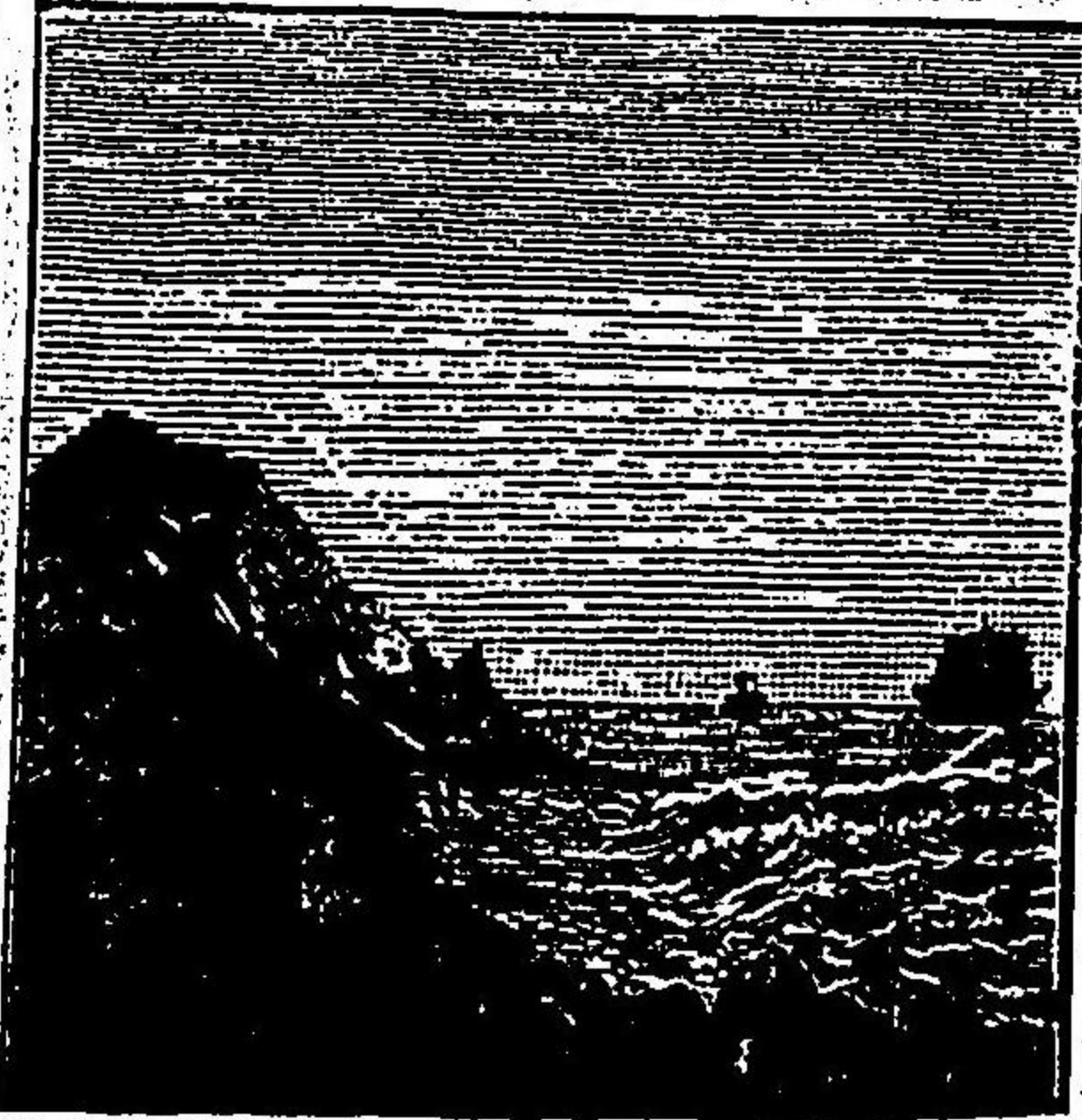
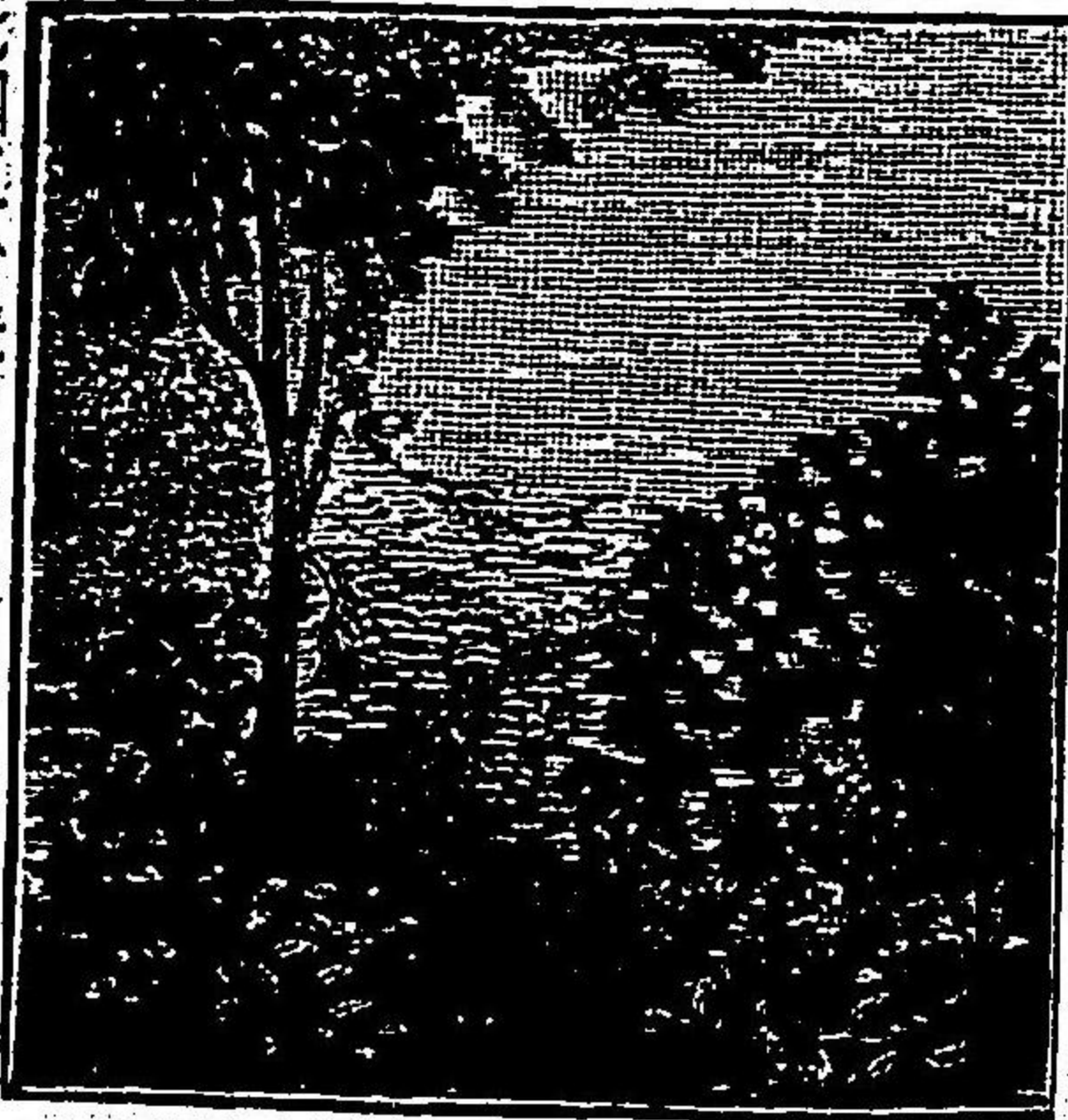
第六拾八號



ホ



ロ



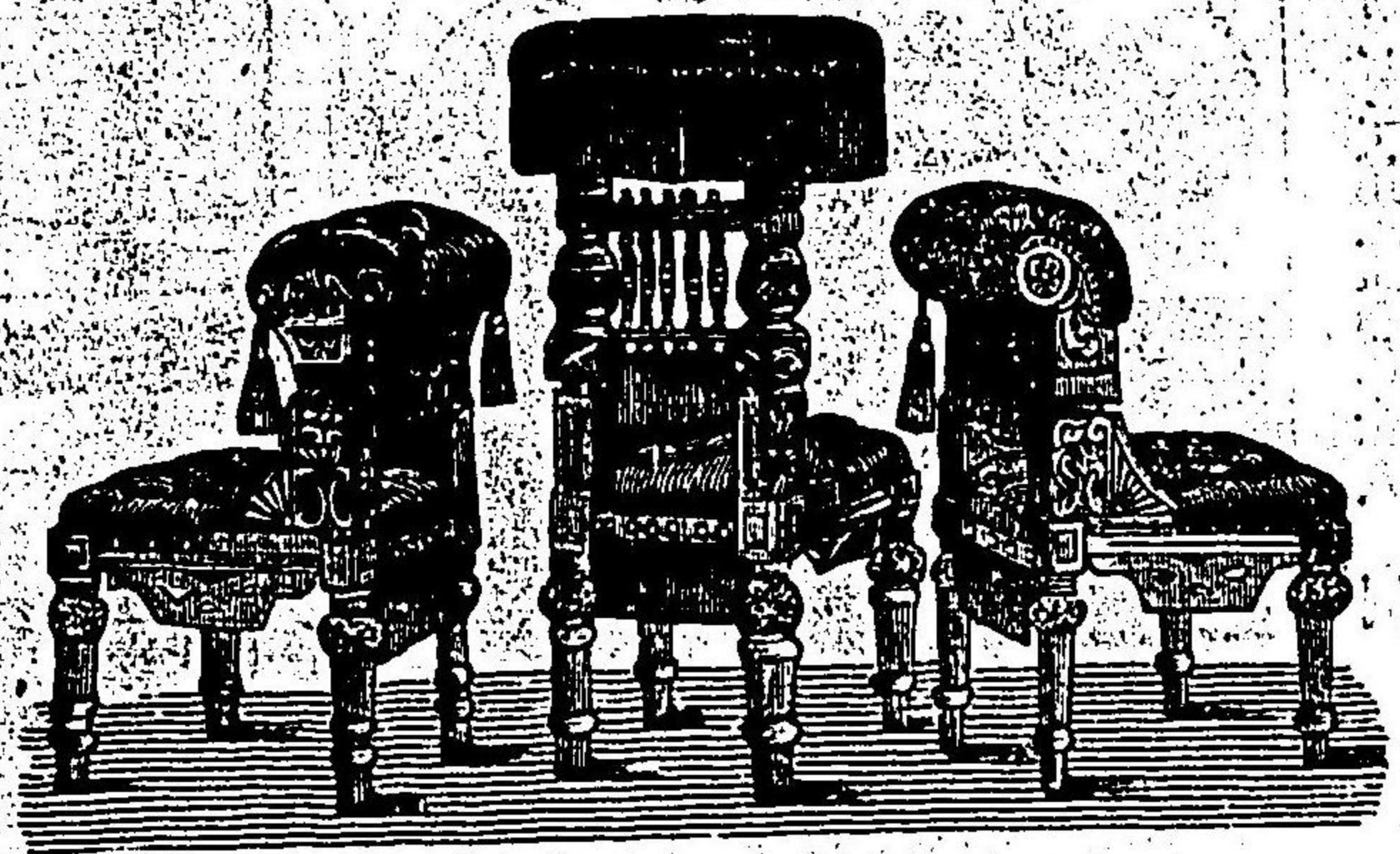
堅八尺 横九尺 畫料切地とも 代金七圓五拾錢 其他遠國え回送せるときは箱代荷造り費とも金五拾錢

二十五

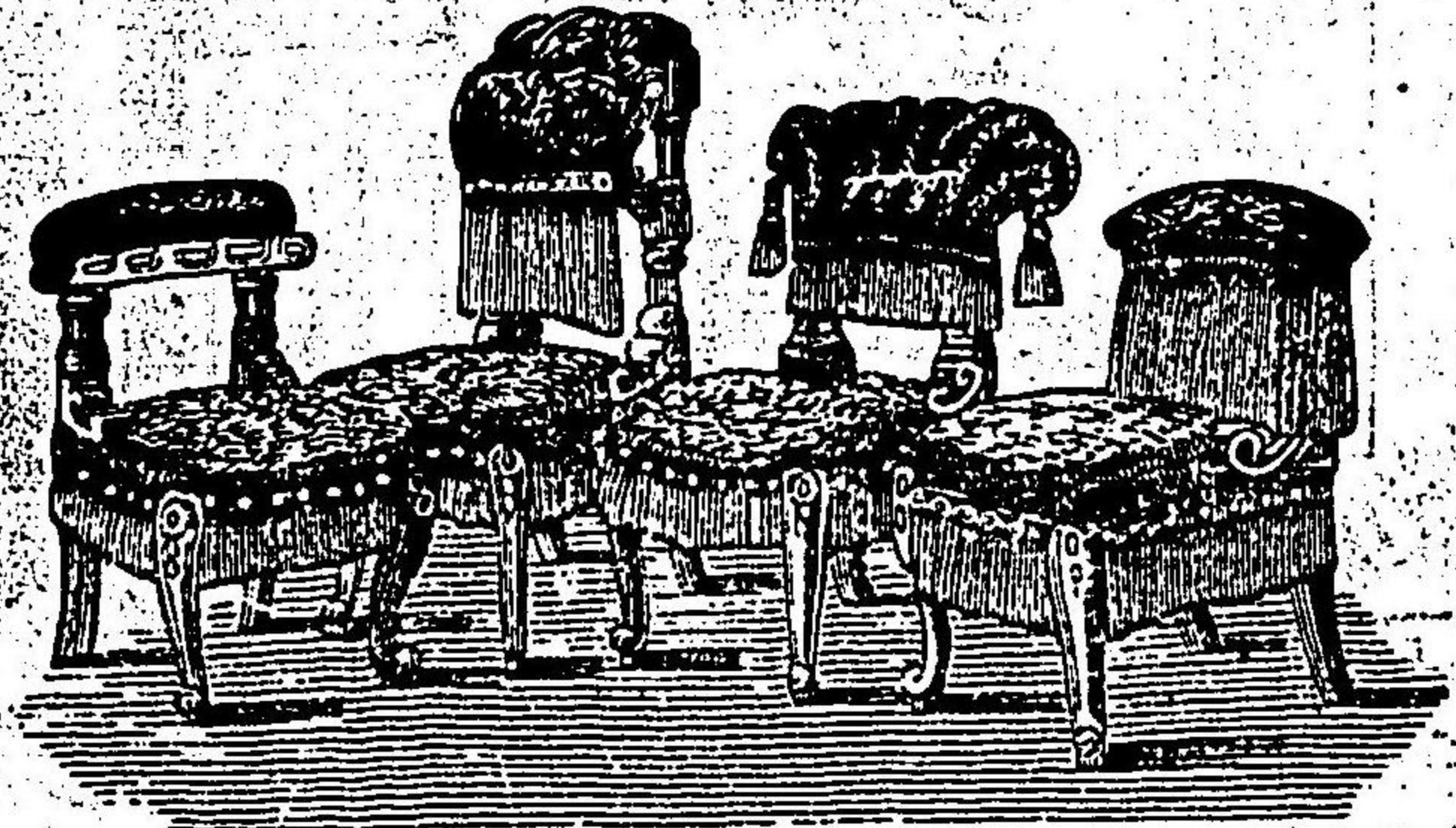
● 淺沼製後地幕

御好次第御註文に應し調進仕候

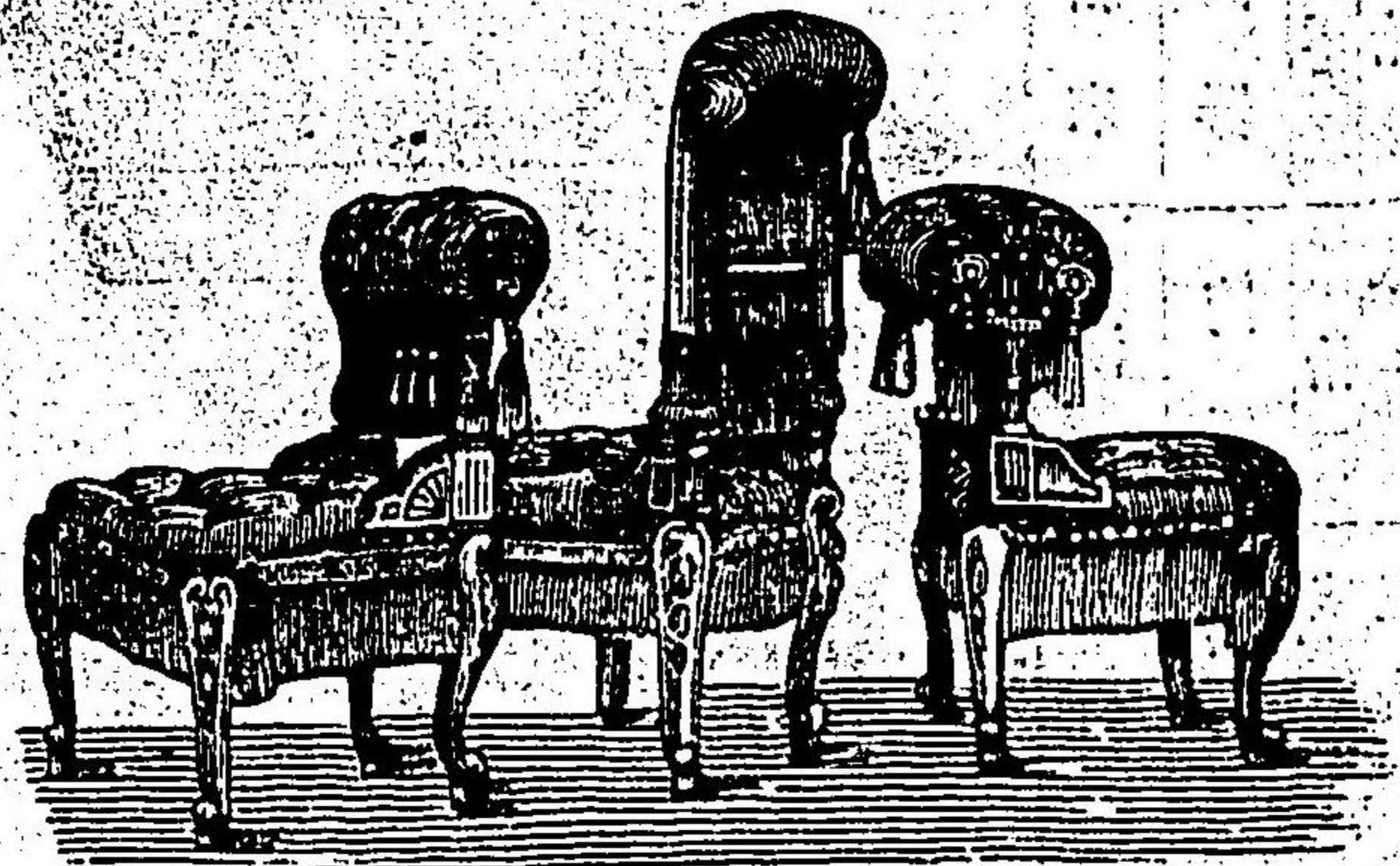
第六拾五號



第六拾六號



第六拾七號



● 淺沼製寫真場用椅子

椅子は脊當りの高低及び腰掛の深淺等御好次第製作す尤彫刻方面に切地に依り直段に高下有之候間御註文の際は委敷御申越相成度又撮影に適する様調進仕候

第六拾九號

●淺沼製後地幕



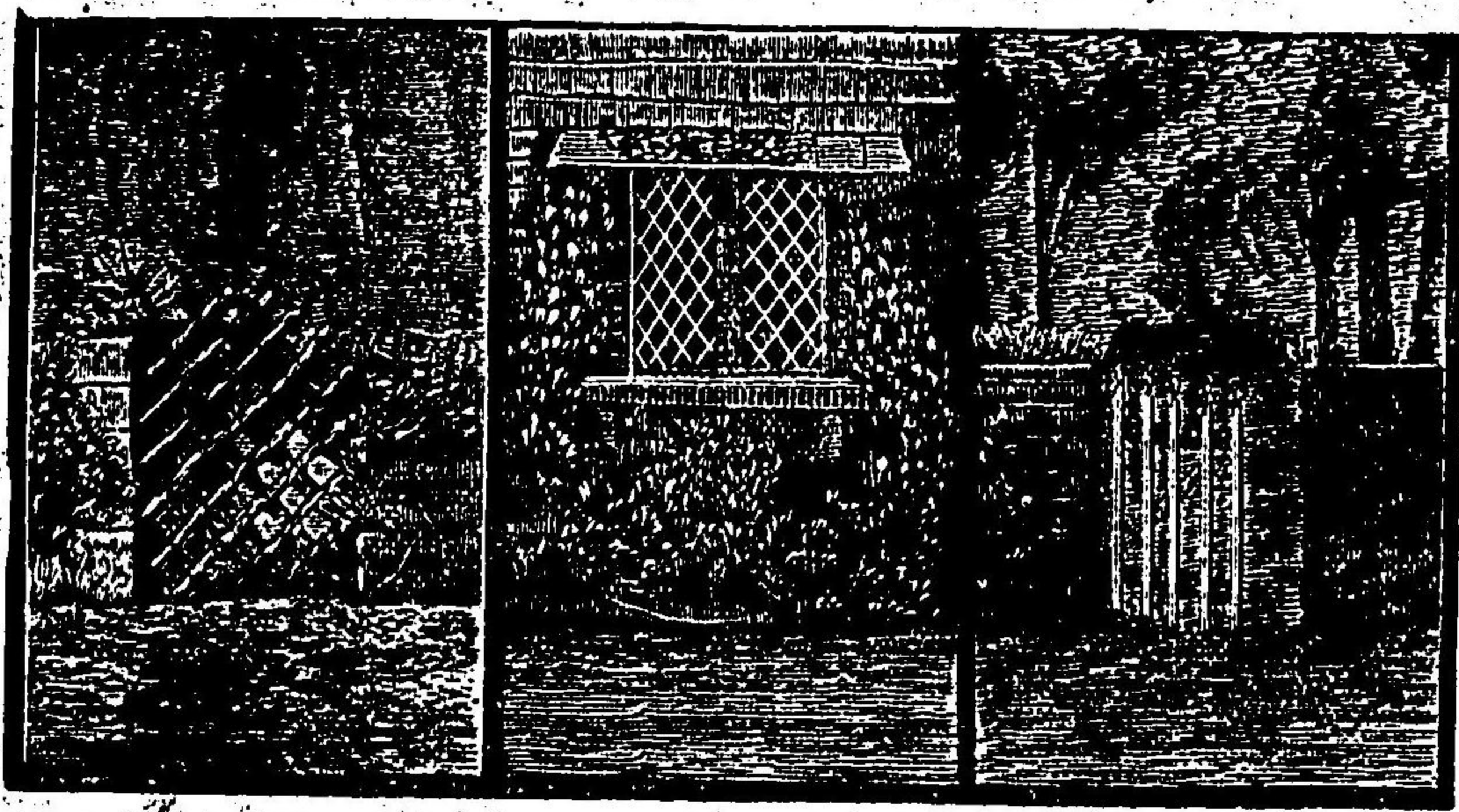
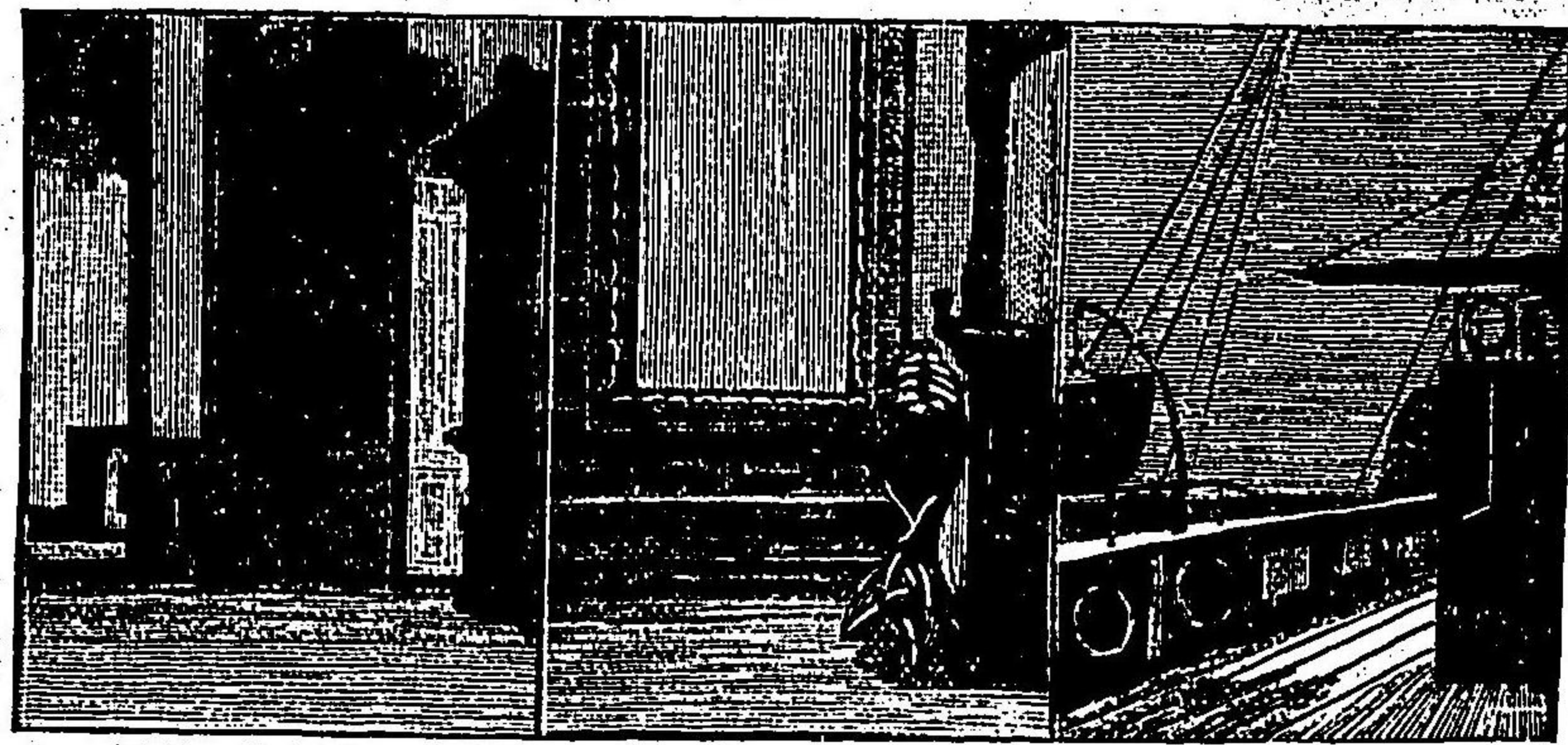
御注文の際書様及び寫真場の光線御申越し相成度候

豎八尺 横七尺五寸 書料切地トモ代金六圓 其他國遠え回送せるときは箱代荷造りとも金五拾錢



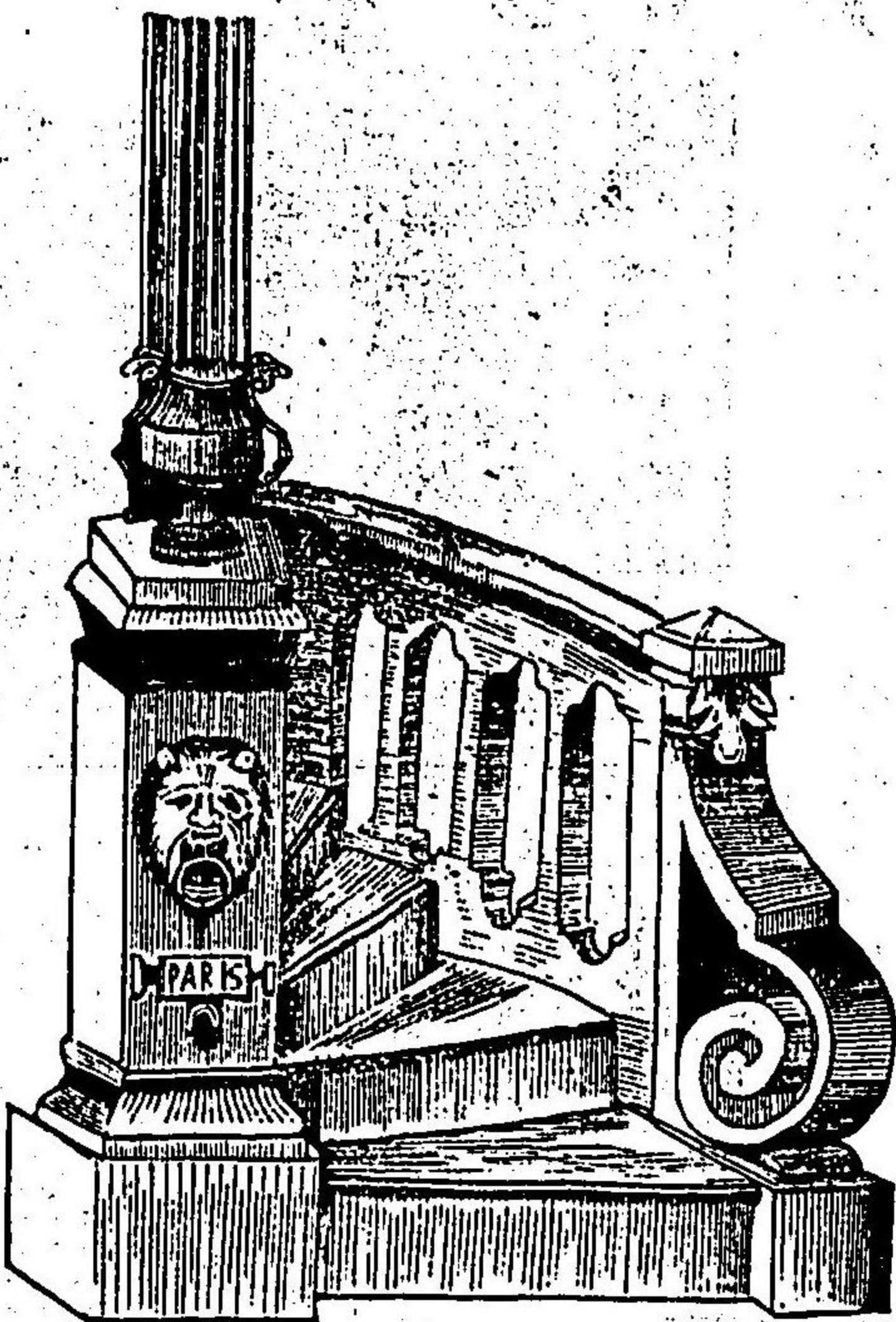
第七拾號

●舶來後地幕



舶來品は書見本の通り平常特合せ居限りなし依て御注文の際は書模様一應御問合せ相成度候

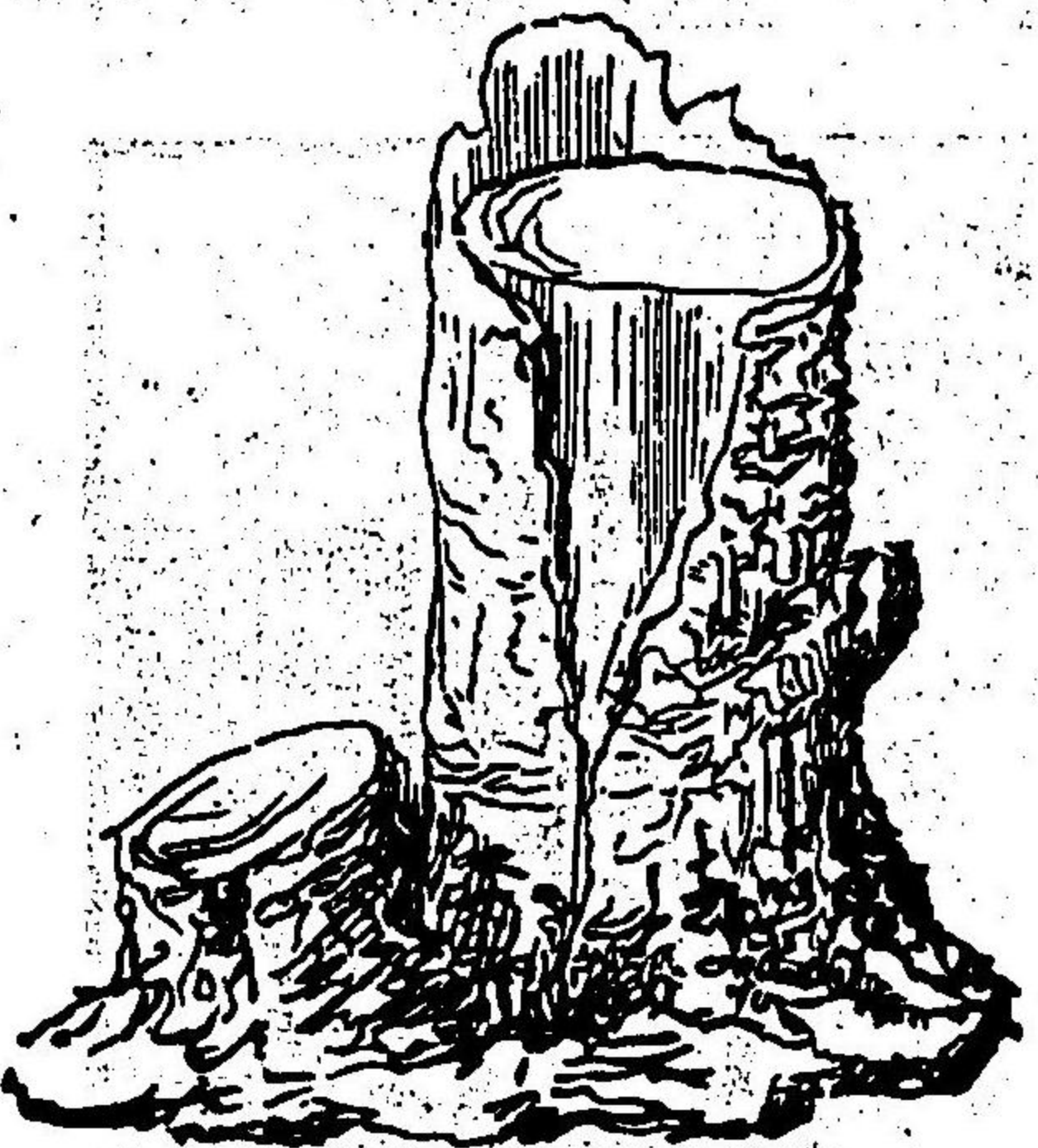
號壹拾七第



號參拾七第



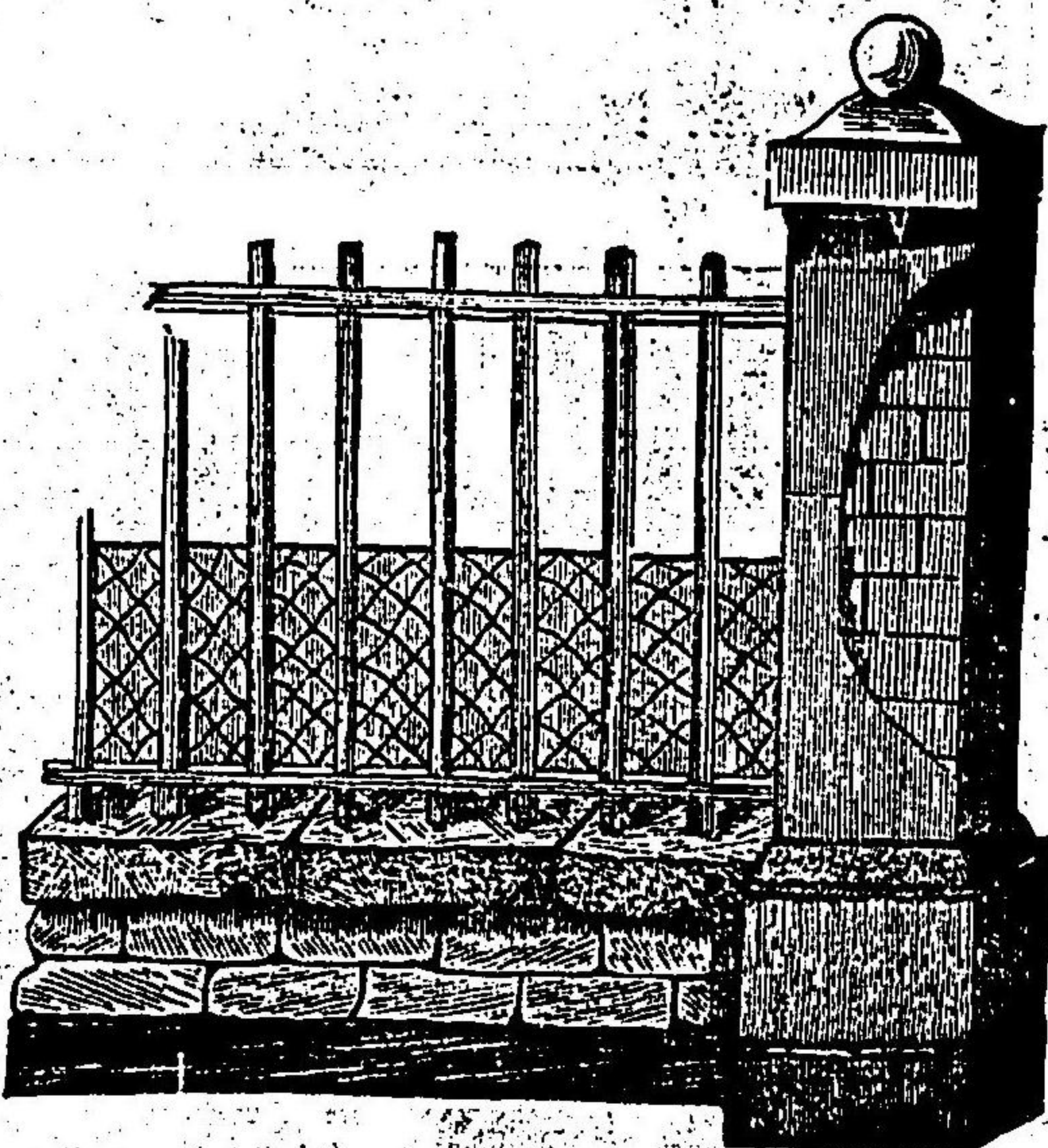
號四拾七第



號五拾七第



號貳拾七第



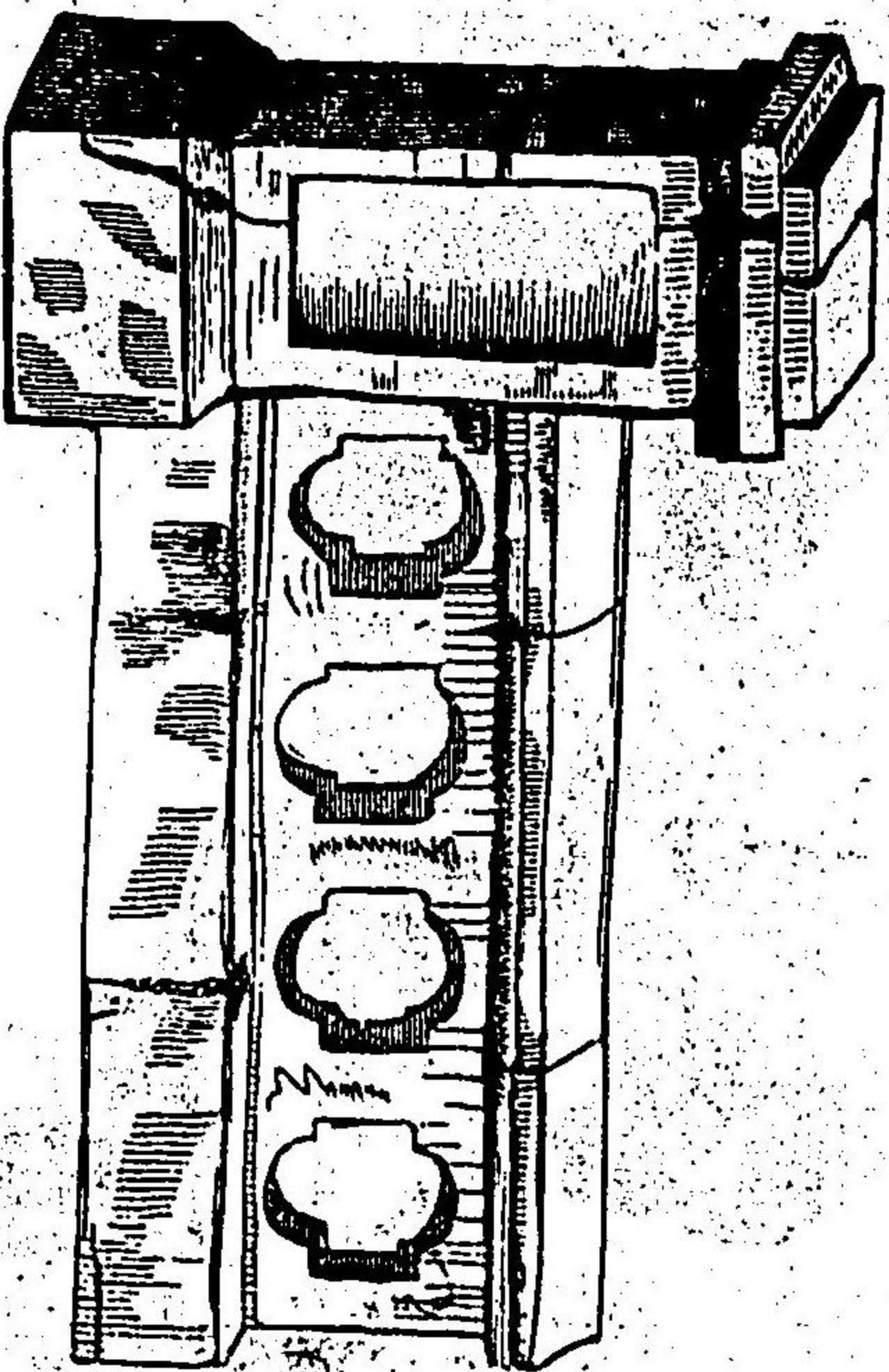
號七拾七第



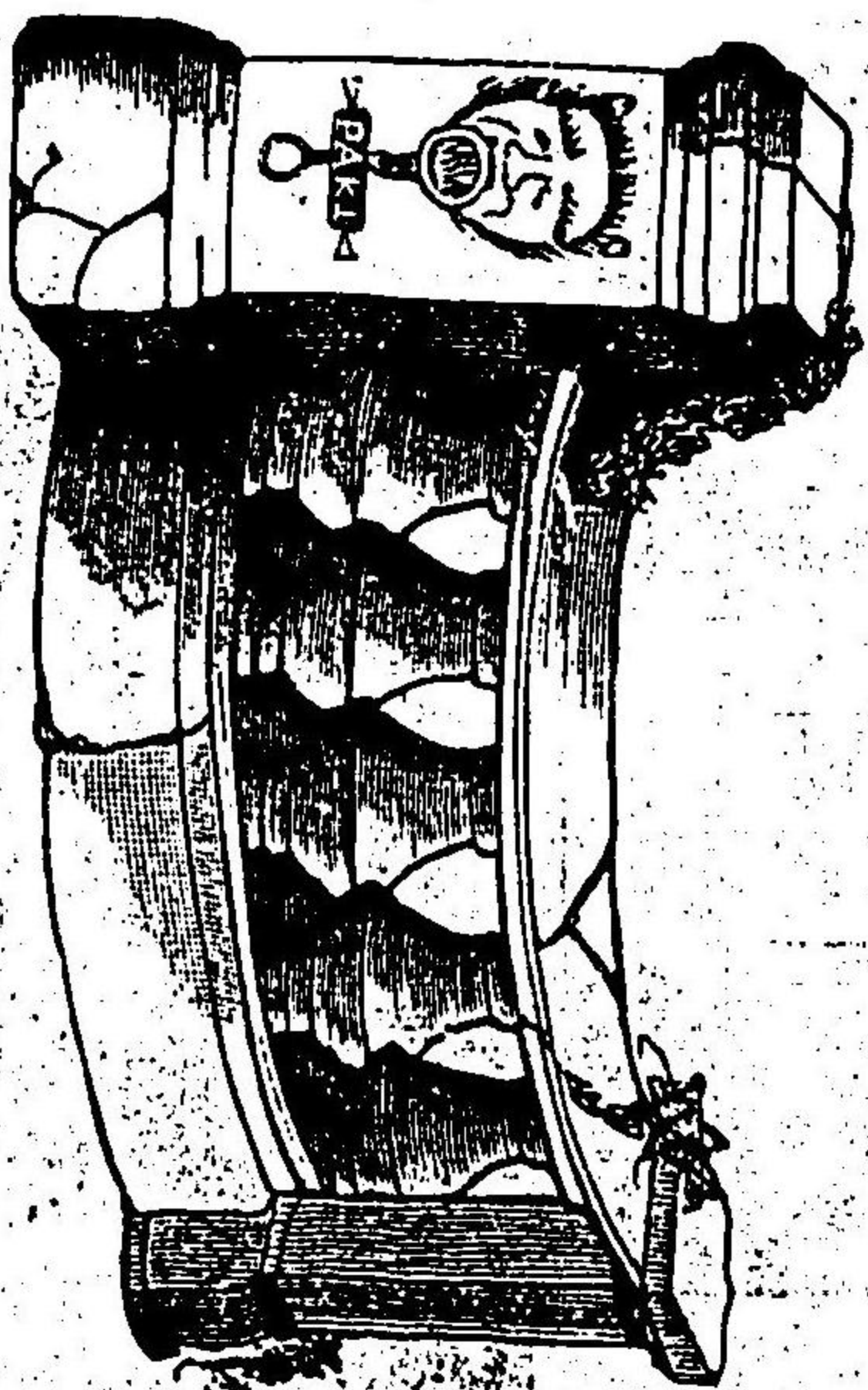
號六拾七第

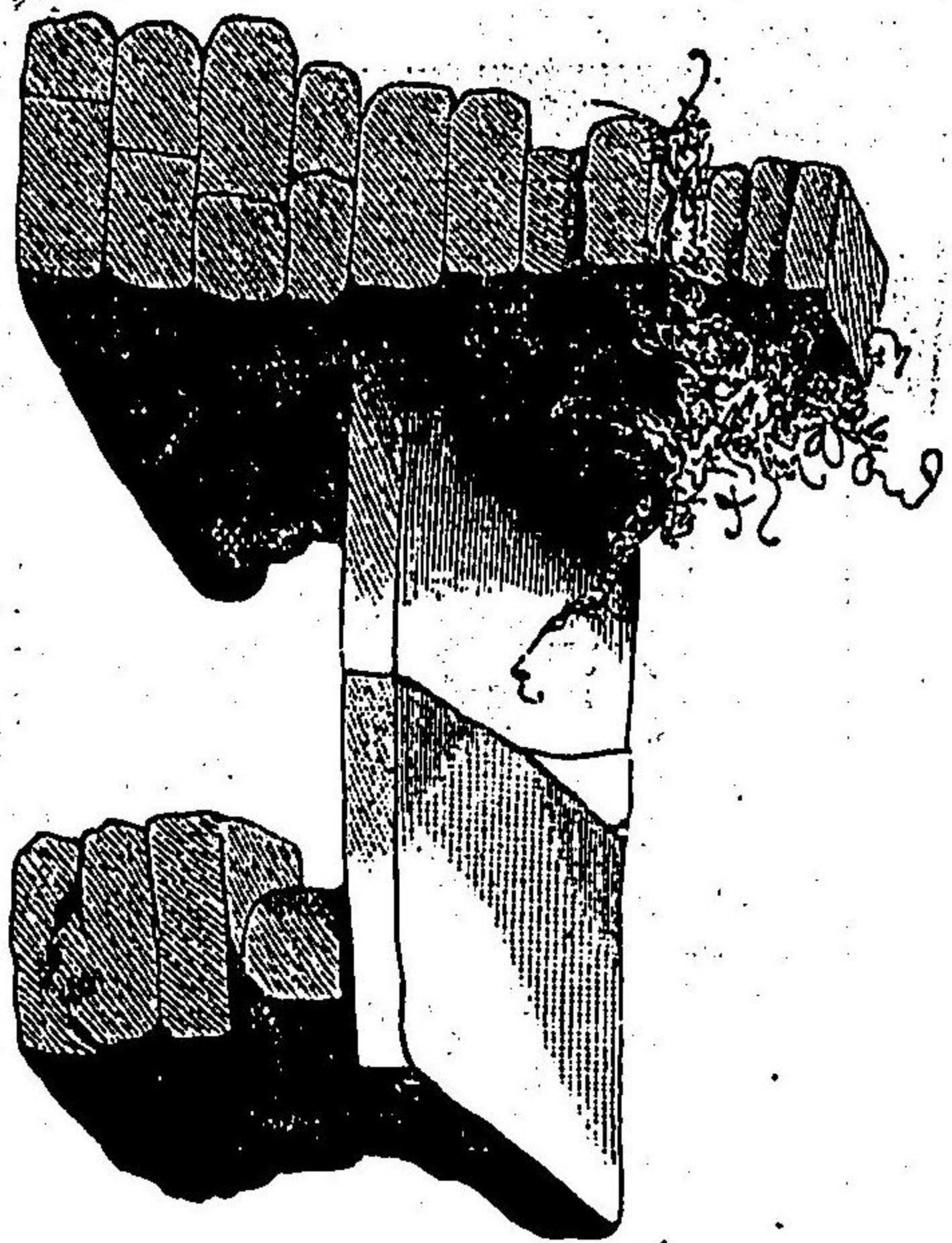


號九拾七第

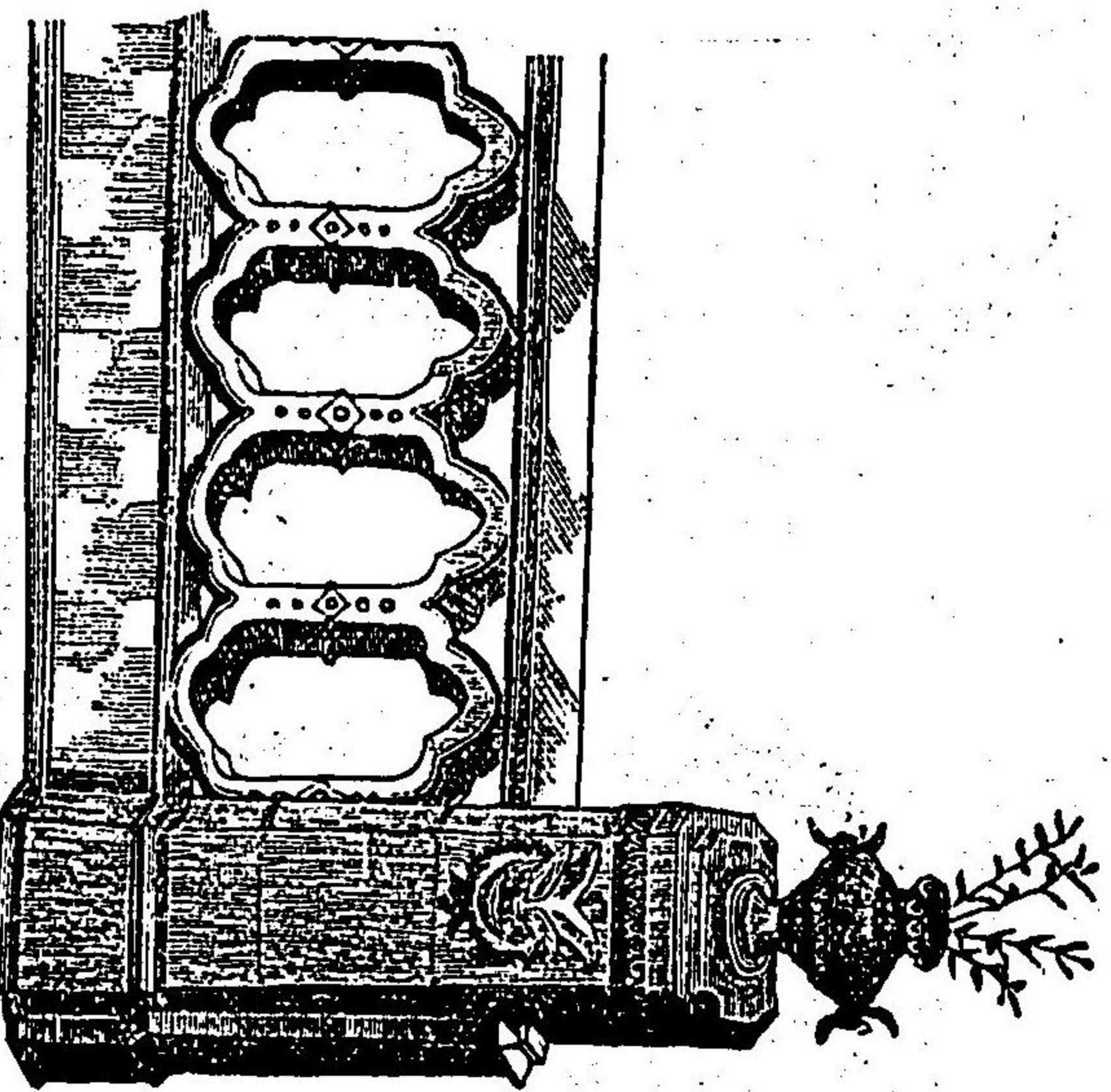


號八拾七第



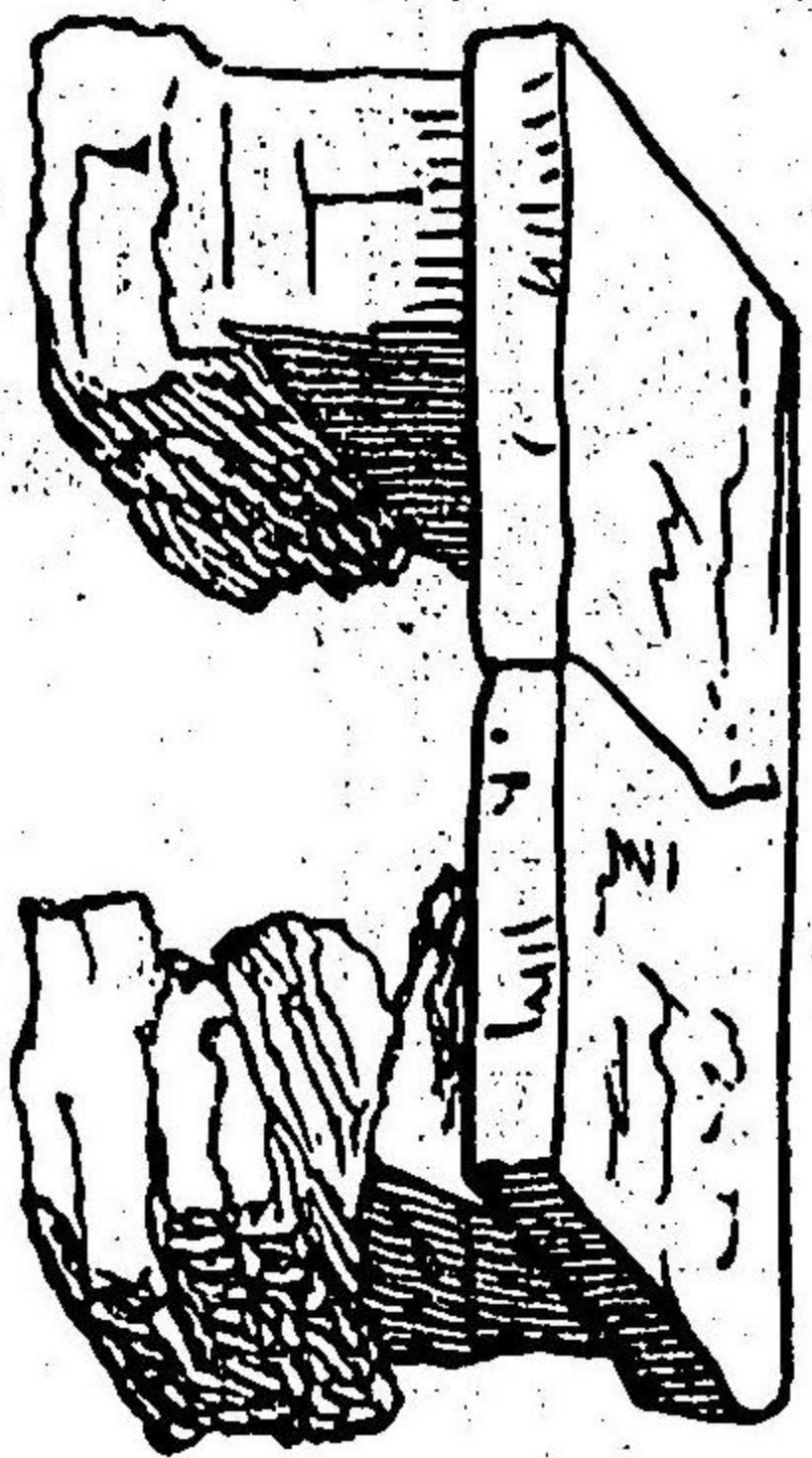


第八拾壹號

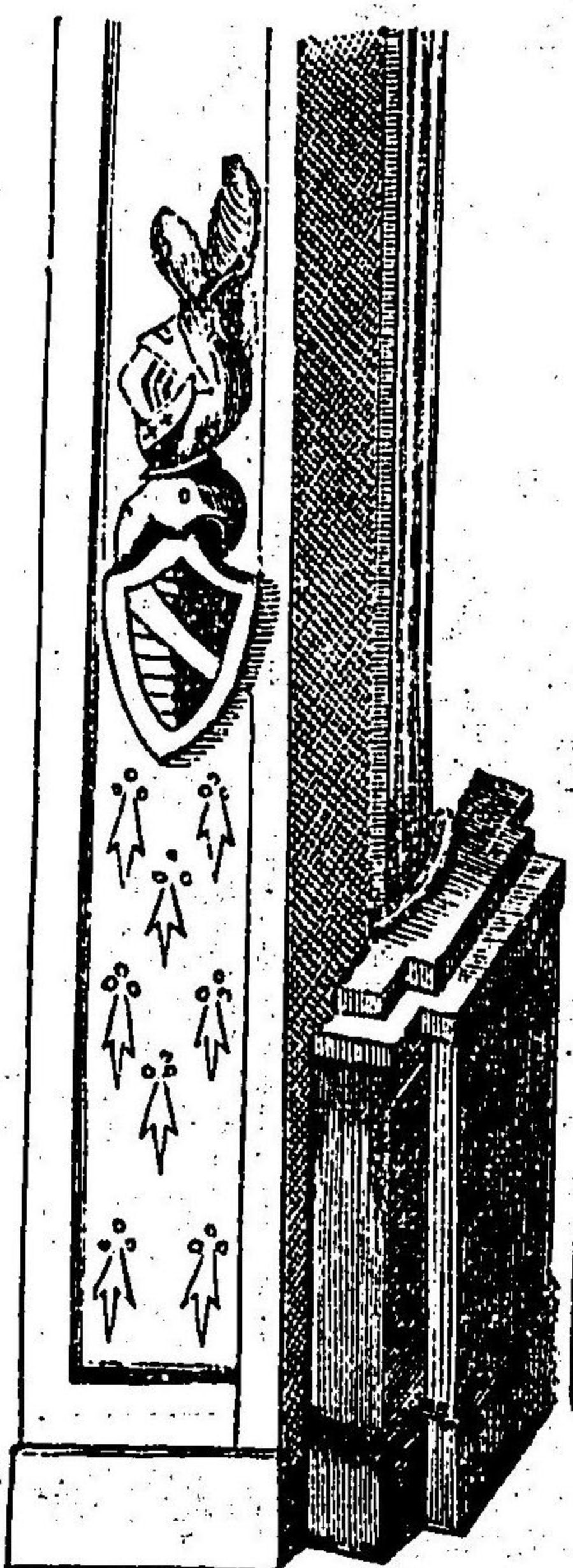


第八拾號

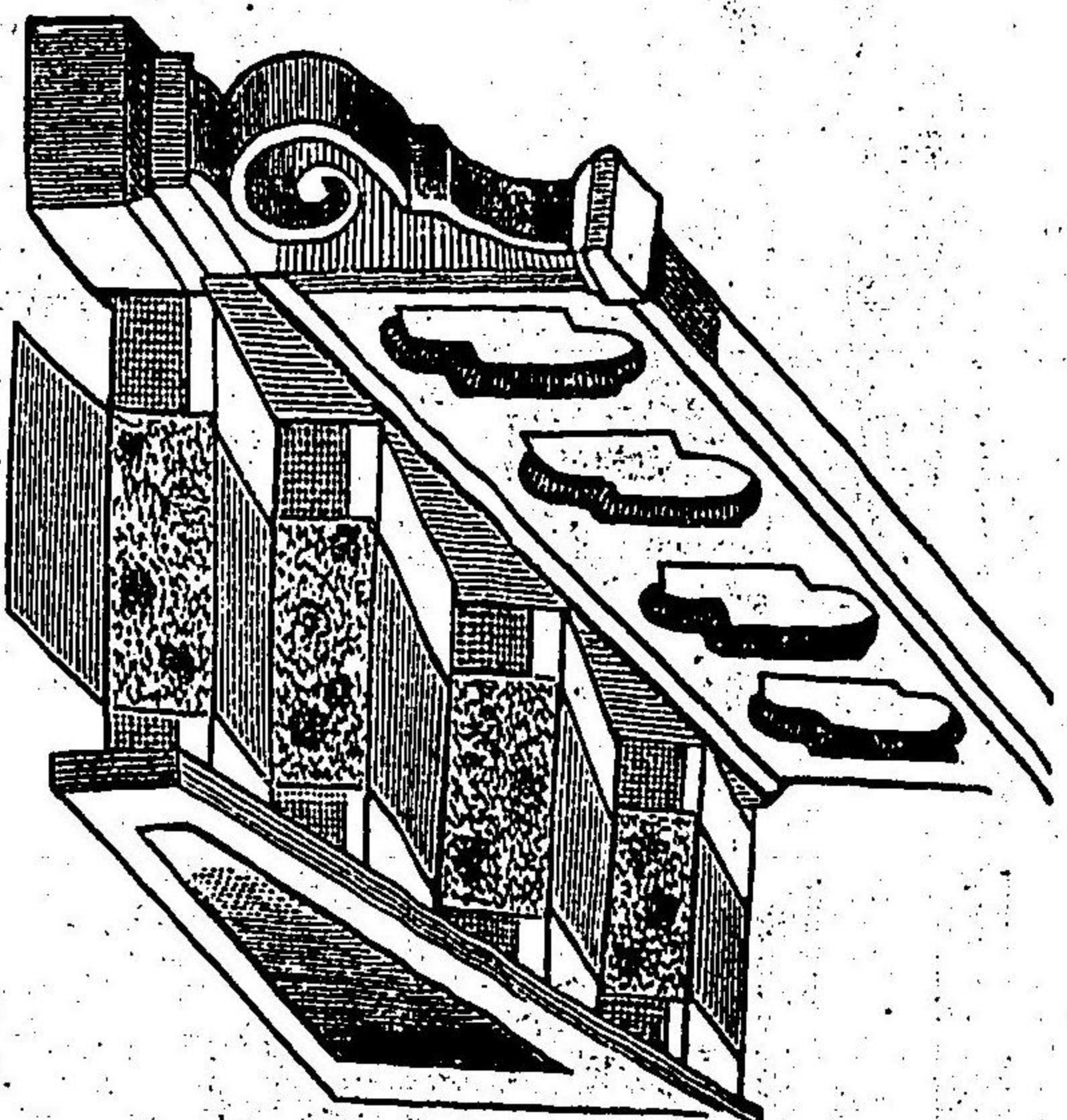
第八拾八號



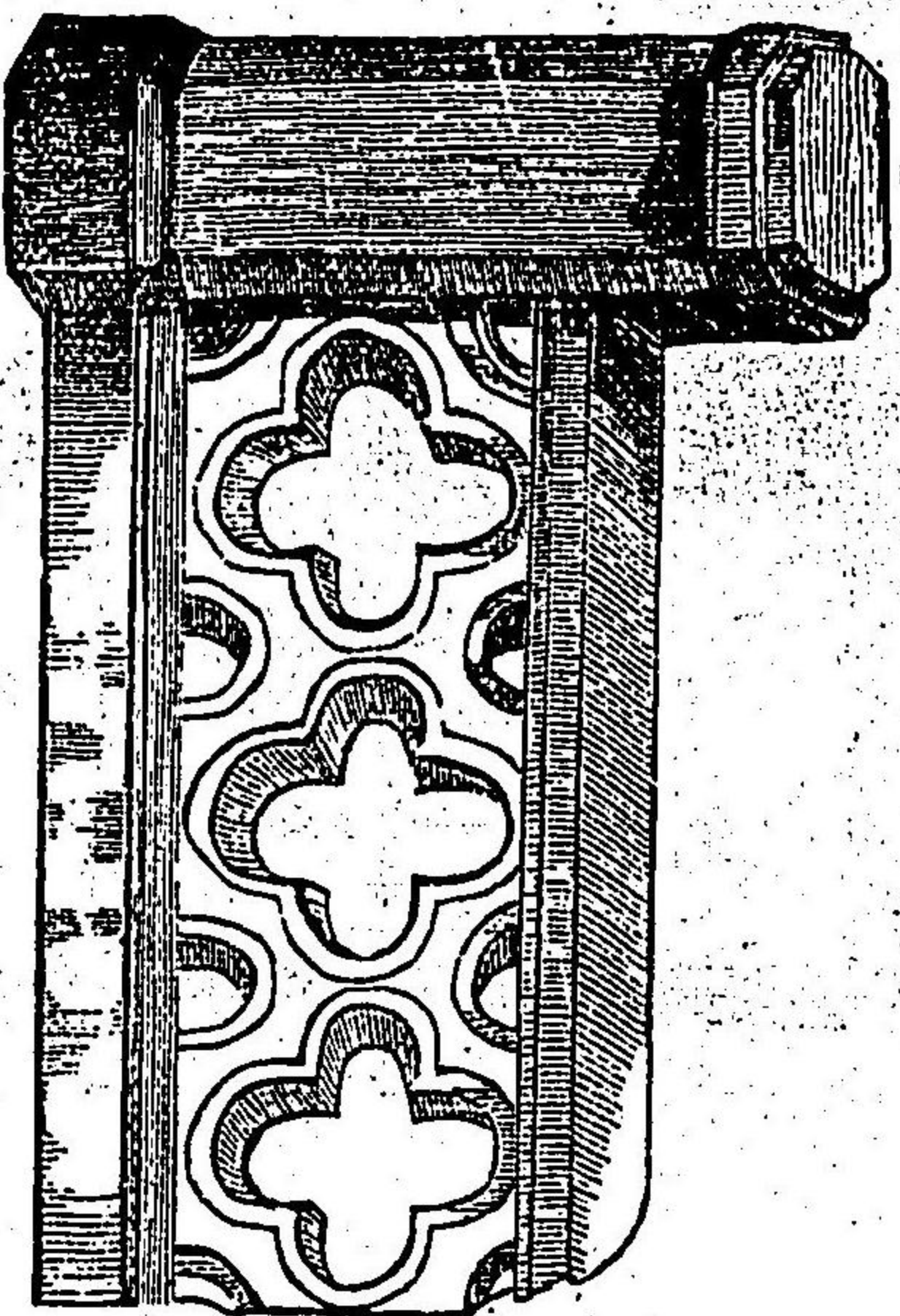
第八拾貳號



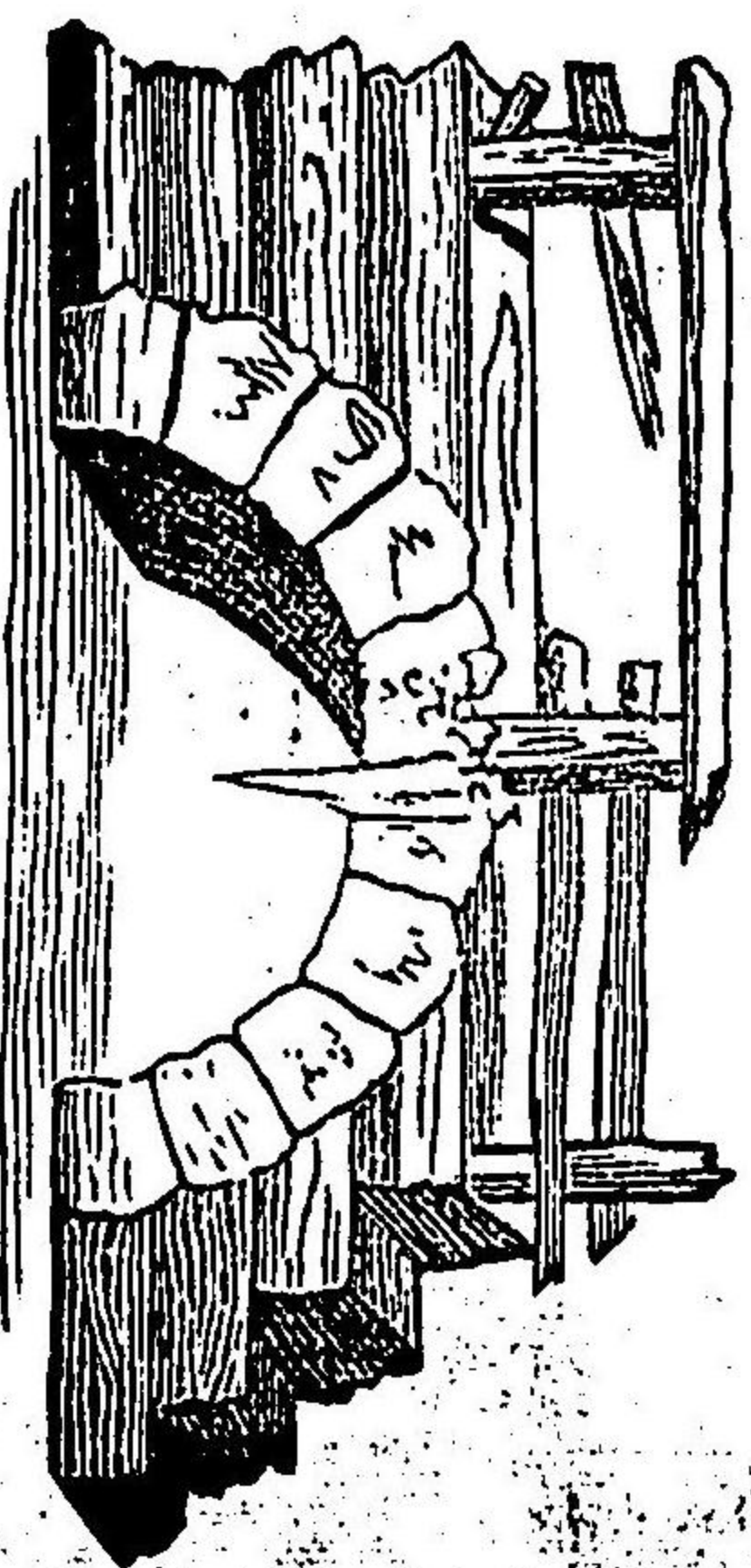
第八拾四號



第八拾五號

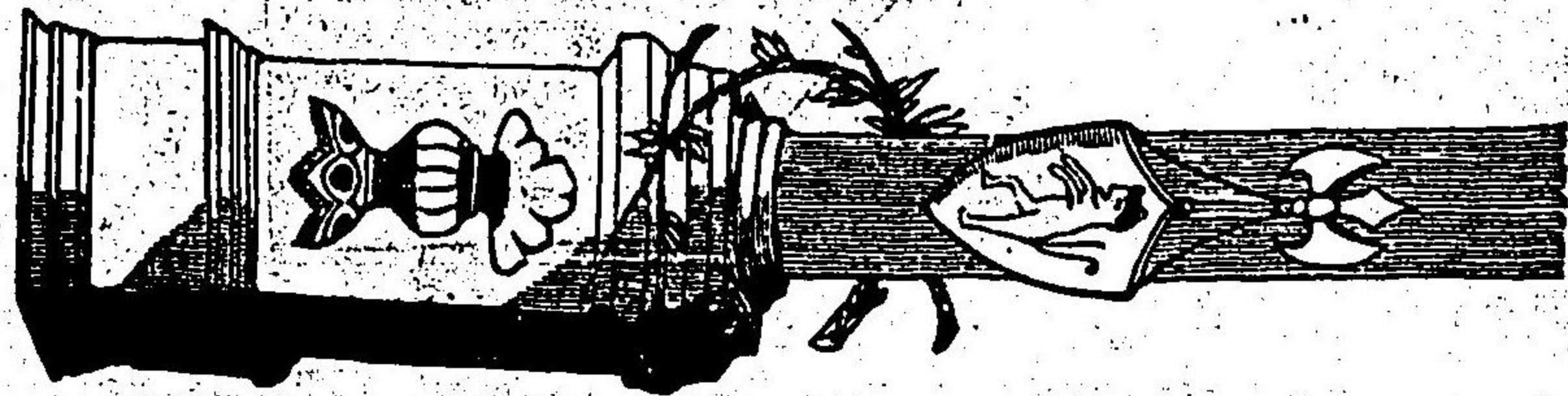


第八拾七號

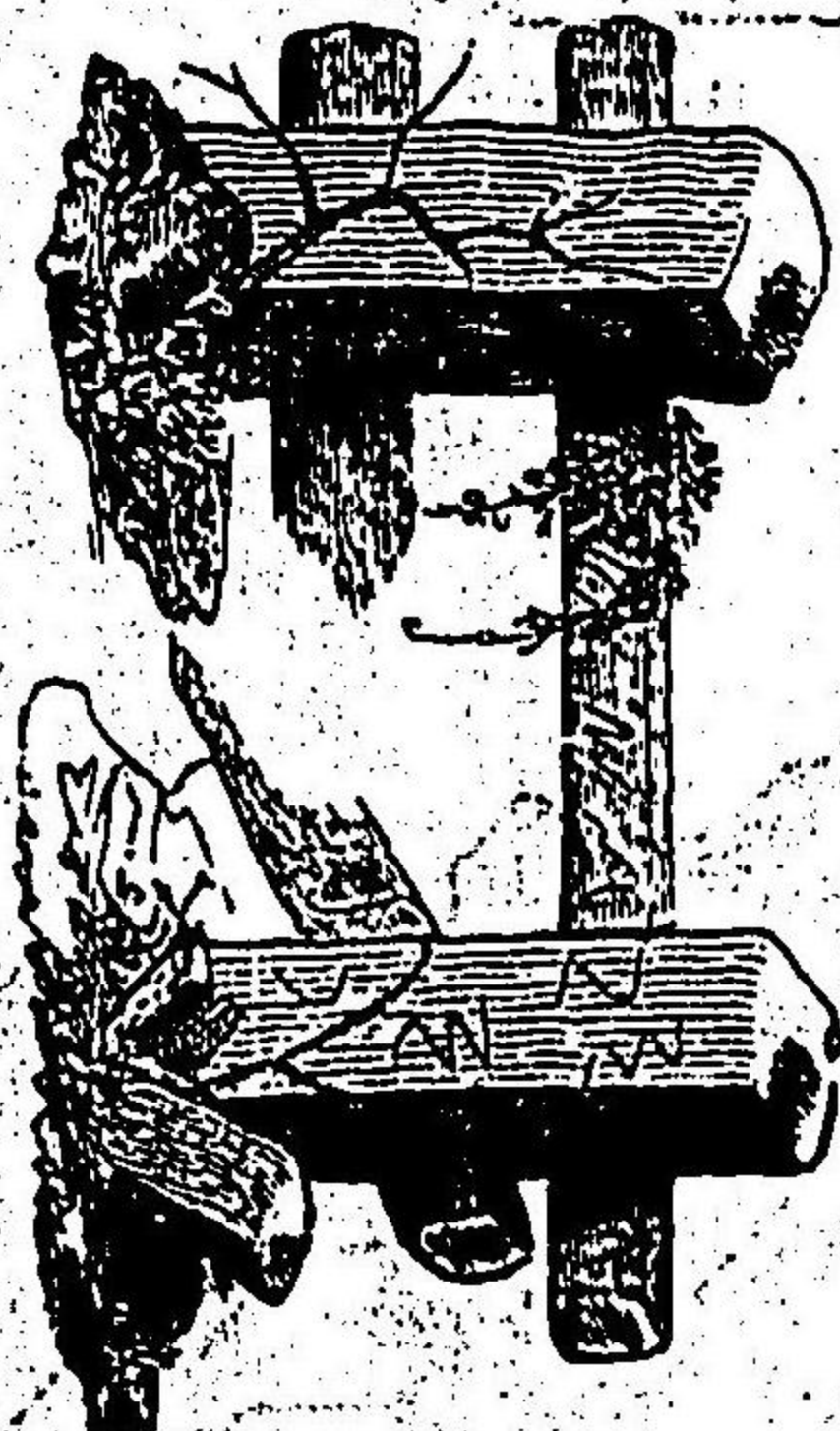
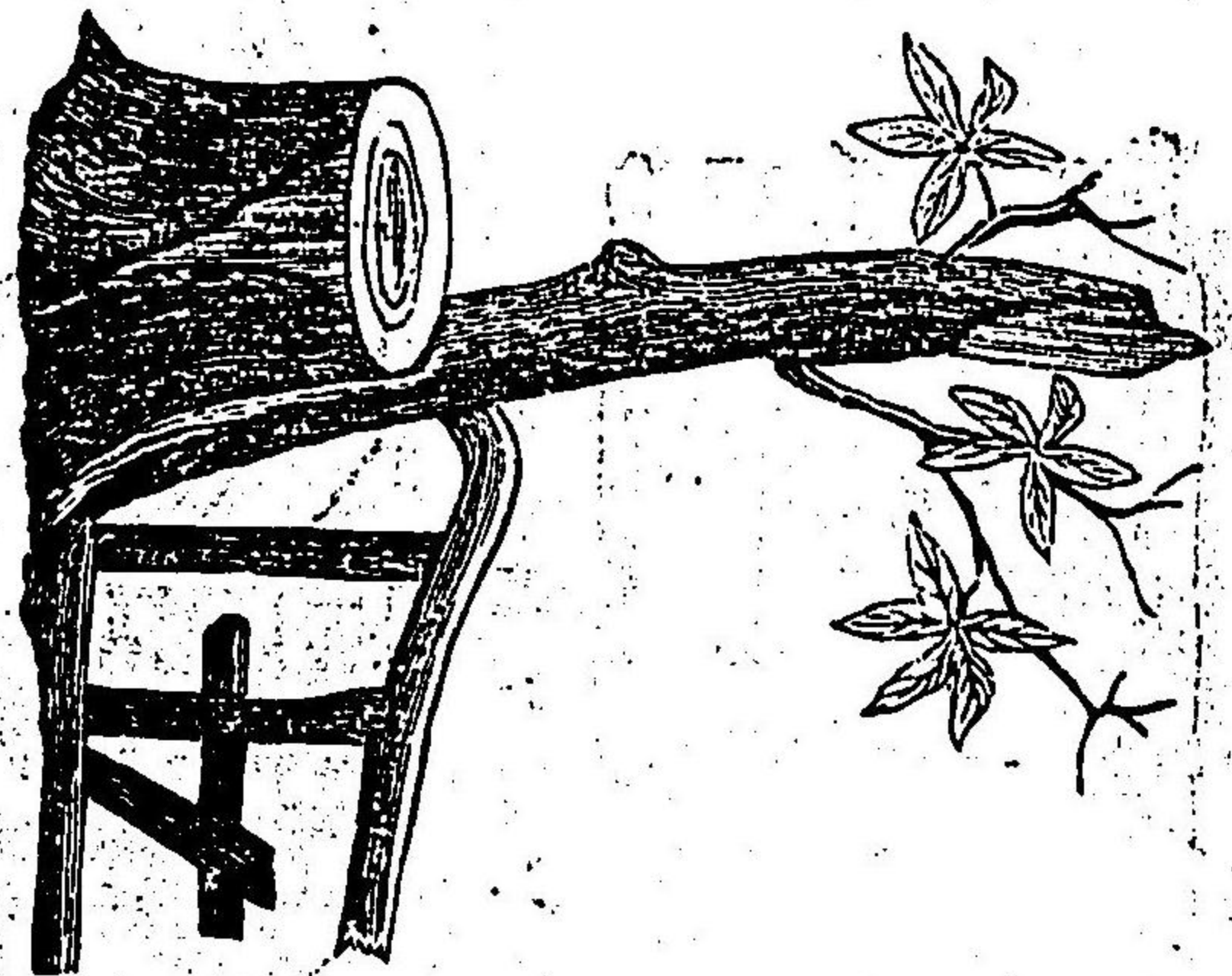


第八拾六號

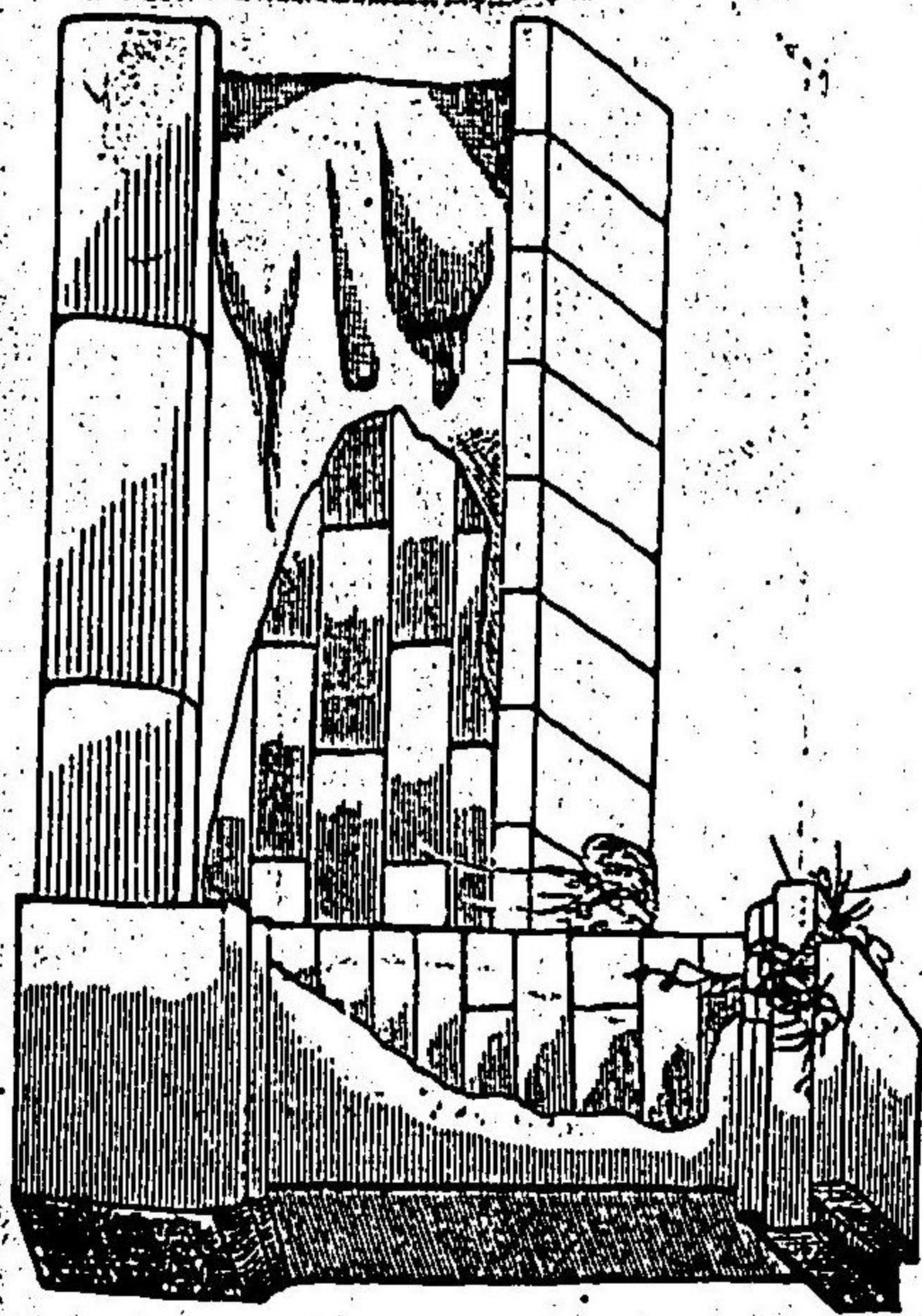
號八拾八第



號八拾九第



號九拾第



號九拾第

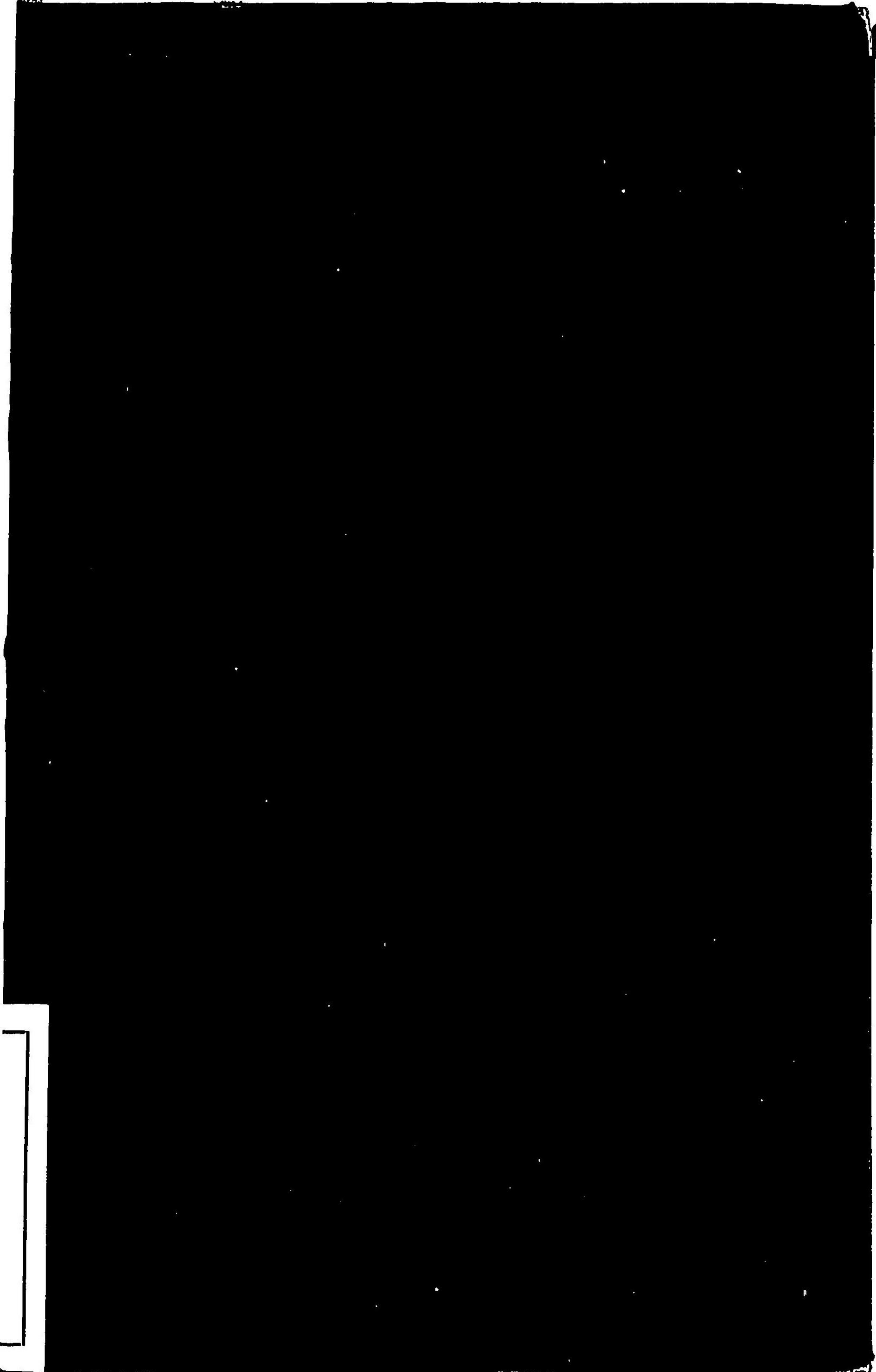


號九拾第

記載品目ノ外ハ御注文ニ應シ調進可仕候又該表中器械及ヒ藥品等ハ近頃金貨ノ變動甚敷ナリ以テ日々ニ異動有之爲メ代價記入不致候間御入用ノ節ハ一應御間合相成度候御注文ノ際ハ豫算ノ金額ヲ添へ御申越相成度最モ時々直段ニ高下等有之候得共精々相働キ下直ニ差上可申候條御承引ノ上多少ニ不限御注文ノ程偏ニ奉希候

品目	數	拾圓拾錢	品目	數	拾圓拾錢	品目	數	拾圓拾錢
トマスコロジチン	一磅		硫酸	同		臭素カドミーム	同	
淺沼コロジチン	同		石炭酸	同		沃度加里	同	
子カチユーフコロジチン	同		コンスターチ	同		コローム酸安母尼亞	同	
臭素安母尼亞	同		アラビヤゴム	同		アイコノゼン顯像藥	一個	
臭素加里	同		セラチン	同		クリスタロース	四弓入	
亞硫酸曹達	同		ガンダラツグムゴム	同		淺沼製白色全紙臺紙	百枚	
炭酸曹達	同		アスパルト	同		同貴顯方用四ツ切	三度摺	
結晶酢酸	同		グリスリン	同		同金墨摺四ツ切用二度摺	上等	
炭酸加里	同		硝酸安母尼亞	同		同御名入輪廓付四ツ切用		
炭酸加里	同		フルミックアシド	同		同金墨摺六ツ切用		
青酸加里	同		黃色青酸加里	同		同八ツ切用		
枸橼酸	同		鹽化金ナトリウム	一本		同大形十六用		
白コロジチン	同		アイコノゼン	一弓		同小形十六用		
白フルニス	同		沒食酸	一弓		白無地四ツ切用		
黒ニス	同		ゴール液	同		同六ツ切用		
硫酸鐵	同		硝酸銀	同		同八ツ切用		
樟酸	同		ハイドロキノン	同		同青桃霜降表白カビ子用		
ホラツキス	同		ソジビル	同		同二枚掛用		
エーテル	同		枸橼酸鐵安母尼亞	同		同手札用		
アルコール	同		赤色青酸加里	同		同カビ子コバ金上等		
硫酸鐵安母尼亞	同		シキウトカツウン	同		同二枚掛		
硫酸安母尼亞	同		繕ヒバニス	同		同手札		
硝酸	同		沃度ガドミーム	同		同名刺形		
鹽酸	同		沃度安母尼亞	同		其他各色御好次第		

9
218



9
218

072110-000-6

9-218

素人写真術

有藤 金太郎 / 編訳

M27

CEE-0139



